

**広域協力を通じた
南米南部家畜衛生改善のための
人材育成プロジェクト
終了時評価調査報告書**

平成 22 年 5 月
(2010 年)

独立行政法人国際協力機構
農村開発部

農 村
J R
10-033

**広域協力を通じた
南米南部家畜衛生改善のための
人材育成プロジェクト
終了時評価調査報告書**

平成 22 年 5 月
(2010 年)

**独立行政法人国際協力機構
農村開発部**

序 文

独立行政法人国際協力機構は、アルゼンチン共和国、ポリビア多民族国、パラグアイ共和国及びウルグアイ東方共和国における家畜疾病診断に関する人材育成制度の確立と、人的連携及び情報のネットワーク整備を目的とする「広域協力を通じた南米南部家畜衛生改善のための人材育成プロジェクト」を2005年8月1日から5年間の予定で実施しています。

このたび、プロジェクト開始から5年目を迎え、2010年7月31日の協力期間終了に向けてこれまでの活動実績を評価するとともに、今後に向けての提言及び教訓を抽出することを目的に、2010年4月25日から同年5月23日まで、当機構国際協力専門員 要田正治を団長とする終了時評価調査団を現地に派遣しました。

調査団は、これらプロジェクトの投入実績、活動実績、計画の達成度を確認し、課題を整理したうえで、JICA事業評価ガイドラインに基づき、5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点から評価するとともに、今後の活動の方向性について提言を行いました。また、これらの調査・評価結果をプロジェクトの合同評価報告書に整理のうえ、関係機関に説明し、ここでの協議結果をミニッツに取りまとめ、署名交換を行いました。

本報告書は、これらの調査及び協議の結果を取りまとめたものであり、今後広く関係者に活用され、日本、アルゼンチン共和国、ポリビア多民族国、パラグアイ共和国及びウルグアイ東方共和国間の親善及び国際協力の推進に寄与することを願うものです。

最後に、これまでの調査の実施にあたり、ご協力いただいた4カ国の関係各位及びわが国関係各位に対し、厚く御礼申し上げますとともに、当機構の業務に対して今後ともなお一層のご支援をお願いする次第です。

平成22年5月

独立行政法人国際協力機構
農村開発部長 小原 基文

目 次

序 文

目 次

広域協力を通じた南米南部家畜衛生改善のための人材育成プロジェクト位置図

写 真

略語表

評価調査結果要約表

第1章 終了時評価調査の概要	1
1 - 1 調査団派遣の経緯と目的	1
1 - 1 - 1 経 緯	1
1 - 1 - 2 派遣の目的	1
1 - 2 調査団の構成と調査期間	2
1 - 2 - 1 調査団の構成	2
1 - 2 - 2 調査日程	3
1 - 3 主要面談者	3
1 - 4 プロジェクトの概要	3
1 - 4 - 1 プロジェクトの骨子	3
1 - 4 - 2 投入計画	6
1 - 5 評価方法	7
第2章 調査結果	9
2 - 1 現地調査結果の概要	9
2 - 2 プロジェクトの実績	9
2 - 2 - 1 日本の投入実績	9
2 - 2 - 2 アルゼンチンの実績	10
2 - 2 - 3 ボリビアの実績	13
2 - 2 - 4 パラグアイの実績	16
2 - 2 - 5 ウルグアイの実績	18
2 - 2 - 6 広域の実績	20
2 - 3 課題別分析	22
2 - 3 - 1 家畜疾病診断技術	22
2 - 3 - 2 研修・普及システム	23
2 - 4 プロジェクトの実施プロセス（実施プロセスの課題の抽出、評価）	25
第3章 評価結果	27
3 - 1 評価5項目による評価結果	27
3 - 1 - 1 妥当性	27
3 - 1 - 2 有効性	28

3 - 1 - 3	効率性	29
3 - 1 - 4	インパクト	29
3 - 1 - 5	自立発展性	30
3 - 2	結 論	31
第 4 章	提言と教訓	32
4 - 1	提 言	32
4 - 2	教 訓	33
第 5 章	総 括	35

付属資料

1 .	終了時評価調査日程	41
2 .	主要面談者リスト	44
3 .	合同評価報告書	46
・	合同評価報告書（和文、署名）	46
・	合同評価報告書（スペイン文、署名）	122
4 .	ミニッツ（アルゼンチン分、ボリビア分、パラグアイ分、ウルグアイ分）	202
5 .	実 績	241
6 .	その他	263
・	JCCミニッツ	263
・	PDM Ver.3	271
・	広域上位目標の指標入手	276

広域協力を通じた
南米南部家畜衛生改善のための人材育成プロジェクト
位置図



写 真



ウルグアイ共和国大学Perla A. CABRERA獣医学部長と要田正治団長によるウルグアイ分の評価結果に係るミニッツへの署名（2010年5月11日モンテビデオにて）



パラグアイ アスンシオン大学Froilan Enrique PERALTA獣医学部長と要田正治団長によるパラグアイ分の評価結果に係るミニッツへの署名（2010年5月12日アスンシオンにて）



ボリビア ガブリエル・レネ・モレノ大学Pablo Rosales CALLEJAS獣医学部副学部長と
要田正治団長によるボリビア分の評価結果に係るミニッツへの署名（2010年5月14日サ
ンタクルスにて）



アルゼンチン ラ・プラタ大学Eduardo Rafael PONS獣医学部長と要田正治団長によるア
ルゼンチン分の評価結果に係るミニッツへの署名（2010年5月20日ラ・プラタにて）



アルゼンチン側合同評価調査団Jorge A Rodriguez TOLEDO団長（SENASA実験動物セクションコーディネータ）と要田正治団長による合同評価報告書への署名（2010年5月20日ラ・プラタにて）

略 語 表

AGID	寒天ゲル内沈降反応
BPA	急速平板凝集反応
C/P	カウンターパート（スタッフ）
DILAVE	農牧省家畜衛生研究部（ウルグアイ）
ELISA	エライサ（酵素結合免疫吸着法、酵素免疫測定法）
FAO	国連食糧農業機関
HA	赤血球凝集反応
HI	赤血球凝集抑制試験
JCC	合同調整委員会
JICA	独立行政法人国際協力機構
LIDIVET	獣医診断センター（ポリビア）
MM	人・月
OIE	国際獣疫事務局
OIRSA	国際農牧衛生地域機関
OJT	オンザジョブ・トレーニング
PCM	プロジェクト・サイクル・マネジメント
PCR	酵素連鎖反応
PDM	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PO	活動計画
R/D	討議議事録
SENACSA	家畜衛生センター（パラグアイ）
SENASA	国家農産品衛生サービス防疫技術研究所（アルゼンチン）
SENASAG	国立農牧衛生機構（ポリビア）

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：南米南部（アルゼンチン共和国、ボリビア多民族国、パラグアイ共和国、ウルグアイ東方共和国）	案件名：広域協力を通じた南米南部家畜衛生改善のための人材育成プロジェクト
分野：家畜衛生	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：農村開発部畑作地帯第一課	協力金額（評価時点）：約2億9,100万円 （2004～2009年度計）
協力期間 （R/D）： 2005年8月1日～ 2010年7月31日 （延長）： （F/U）：	先方関係機関：アルゼンチン共和国ラ・プラタ大学獣医学部、ボリビア多民族国ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部、パラグアイ共和国アスンシオン大学獣医学部、ウルグアイ東方共和国共和国大学獣医学部
	日本側協力機関
	他の関連協力
<p>1 - 1 協力の背景と概要</p> <p>南米南部においては、メルコスール（南米南部共同市場）諸国が中心となり域内貿易の自由化が進められており、2003年には、その一環として隣接するアンデス共同体との自由貿易協定（FTA）が締結されるなど、経済的な結びつきの広域化、深化が進んでいる。こうした動きは、同地域の主要産業の1つである畜産業の活性化につながり、国際間の家畜生体・畜産物の流通が盛んになっていると同時に、家畜疾病が国境を越えて伝播するリスクが高まっている。</p> <p>家畜疾病は、ひとたび発生すると単純に家畜が損失し、農家経済に影響を与えるだけでなく、2001年のウルグアイ東方共和国（以下、「ウルグアイ」と記す）や、2001、2003年のアルゼンチン共和国（以下、「アルゼンチン」と記す）における口蹄疫発生時には、諸外国から輸入禁止措置がとられた例もあり、国家経済に多大な影響を与える危険性を秘めている。</p> <p>本案件は、本格化する経済連携下にある南米南部諸国のうち、わが国とパートナーシップ協力を結んでいるアルゼンチンを中心に、メルコスール経済圏において畜産業が盛んなウルグアイ、パラグアイ共和国（以下「パラグアイ」と記す）及びボリビア多民族国（以下「ボリビア」と記す）を対象とするものである。</p> <p>上記4カ国における家畜疾病対策上の主要な共通課題は、教職・研究職志望者の養成を除いて、現職の獣医師への卒後教育制度がなく、臨床現場の診断が科学的根拠によらない、個人の経験や主観に依存した診断に陥りがちであること、疫学情報資源の作成・配信に係る技術、ネットワークが十分でなく、地域・国レベルの疾病対策に生産現場の情報が適切に反映されないことが挙げられる。</p> <p>これまでわが国はアルゼンチンの家畜衛生改善のため、アルゼンチン国内のラ・プラタ大学に対する「ラ・プラタ大学獣医学部研究計画」（1989年より5年間）や同計画のフォローアップ協力（1994年から2年間）、同計画アフターケア協力（2001年から2カ年）のほか、第三国研修として「家畜疾病の診断と研究」（1996年から5カ年）及び同研修フェーズ2（2001年から5カ年）を実施するなど、個々の家畜を対象とした診断能力向上に係る成果を挙げてきた。しかしながら、習得した診断技術を全国の獣医師に広く普及し、生産現場レベルの診断能力を向上させる</p>	

までには至らなかった。また地域（県・州）や国レベルの総合的な疾病対策を行うには、個々の家畜ではなく家畜群を対象とし疾病の原因や発生条件を明らかにする、いわゆる「疫学」に関する情報資源の作成と配信が必要であり、このことが喫緊の課題となっている。

これらの課題解決のためには、「獣医師の卒後継続研鑽」及び「疫学部門の強化並びに当部門と臨床・ラボラトリー（以下、「ラボ」と記す）部門との連携による重要家畜疾病防除体制の整備」が不可欠で、特に越境性のある家畜疾病を対象とする協力を効果・効率的に実施する場合、国際間の連携を強化する対応が求められる。

1 - 2 協力内容

南米諸国において、家畜疾病の診断、伝染病予防等の国ごとのレベルの差は大きく、また、各国が自国の国境監視に終始してきたことから、国境を越えた家畜疾病防除のための技術と制度の確立といった共同対策が急務となっている。

本案件は、南米南部を対象とした協力に参加を表明したアルゼンチン、パラグアイ、ボリビア、ウルグアイの4カ国を対象に、大学の獣医学部をカウンターパート（C/P）に実施している広域協力案件である。

要請段階の「南米地域における家畜疾病防除計画」が示すとおり研究能力の向上やラボの強化をめざす性格の案件であったが、その後2度の事前調査を経て、獣医師の再教育を通じて人材育成を行う「広域協力を通じた南米南部家畜衛生改善のための人材育成プロジェクト」に整理され、4カ国で案件が開始された。

活動の枠組みは、20年間近くアルゼンチン ラ・プラタ大学で実施してきた家畜衛生・疾病診断技術に係る協力の成果を活用し、同国に隣接するボリビア、パラグアイ、ウルグアイに協力の対象地域を拡大し、家畜衛生改善のための技術を強化するものである。対象者は大学、研究所の獣医師のみならず、家畜疾病診断を担う現職獣医師の再教育を実施するとともに、それらの人的連携及び疾病情報データベース・獣医師メーリングリスト等の活用による家畜衛生（疫学）情報を広域ネットワーク上で整備し、域内の疾病診断能力を強化するものである。

協力期間は2005年8月～2010年7月の5年間である。プロジェクト実施機関は、ラ・プラタ大学（アルゼンチン）、ガブリエル・レネ・モレノ大学（ボリビア）、アスンシオン大学（パラグアイ）、共和国大学（ウルグアイ）であり、ラ・プラタ大学が広域プロジェクトの事務局を務めている。

なお、中間レビューで改訂したプロジェクトの骨子（PDM Ver.2）は次のとおりである。

（1）上位目標

南米南部地域の獣医の家畜疾病診断についての卒後継続研鑽が推進される。

（2）広域プロジェクト目標

域内獣医の業務においてプロジェクトによってつくられた情報が活用される。

（3）各国プロジェクト目標

1) アルゼンチン

広域目標

プロジェクトのテーマに関するレポートがつけられる。

アルゼンチン目標

ラ・プラタ大学獣医学部の当該分野の能力が向上する。

2) ボリビア

広域目標

プロジェクトが扱う疾病についての情報がつくられる。

ボリビア目標

ボリビアの家畜疾病診断の能力が向上する。

3) パラグアイ

広域目標

プロジェクトに関する疾病についての情報がつくられる。

パラグアイ目標

パラグアイの家畜疾病診断能力が向上する。

4) ウルグアイ

広域目標

プロジェクトが扱う疾病についての情報がつくられる。

ウルグアイ目標

ウルグアイの家畜疾病診断能力が向上する。

(4) 各国成果

1) アルゼンチン

ラ・プラタ大学獣医学部の育成中の教員が診断と疫学についての技術を訓練されている。

ラ・プラタ大学獣医学部の教員たちがプロジェクト参加の3カ国の大学教員に診断と疫学技術に移転する能力が身についている。

ラ・プラタ大学獣医学部の診断と研究の環境が改善する。

ラ・プラタ大学獣医学部の調整による診断・疫学情報の広域ネットワークが確立する。

2) ボリビア

ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部の教員の能力が向上する。

大学以外の獣医の能力が向上する。

ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部の診断と研究の環境が改善する。

3) パラグアイ

アスンシオン大学獣医学部の教官の能力が向上する。

ラボ及び現場の獣医師の能力が向上する。

アスンシオン大学獣医学部の診断と研究の環境が改善する。

4) ウルグアイ

共和国大学獣医学部の教員の能力が向上する。

ラボの獣医の能力が向上する。

現場の獣医の能力が向上する。

共和国大学獣医学部の診断と研究の環境が改善する。

(5) 投入計画

PDM Ver.2における投入計画は次のとおりである。

1) 日本側の投入

- ・長期専門家
「疫学/プロジェクト調整」 1人×55人・月(MM)
「卒後研鑽/広域管理」 1人×25MM
- ・短期専門家
診断技術 1MM(年間)
- ・第三国専門家
アルゼンチンより診断技術研修の講師派遣
- ・研修員
協力対象4カ国からのアルゼンチンでの受入れ
- ・機材供与
在外事業強化費等

2) アルゼンチン側の投入

- ・第三国専門家の派遣(派遣経費を除く)
- ・第三国研修員の受入れ
- ・C/Pの配置、施設・土地提供、研修実施にかかる費用その他

3) ボリビア側の投入

- ・C/Pの配置、施設・土地提供、研修実施にかかる費用その他

4) パラグアイ側の投入

- ・C/Pの配置、施設・土地提供、研修実施にかかる費用その他

5) ウルグアイ側の投入

- ・C/Pの配置、施設・土地提供、研修実施にかかる費用その他

2. 評価調査団の概要

調査者	団長/疫学 要田 正治 JICA 国際協力専門員 家畜疾病防除技術/再教育システム 小野 憲一郎 株式会社 日本動物高度医療センター腫瘍科・学術部門長 (元東京大学大学院教授) 計画調整 荻窪 恭明 JICA 農村開発部 畑作地帯グループ 畑作地帯第一課 企画役 評価分析 柏崎 佳人 A&Mコンサルタント有限会社	
調査期間	2010年4月25日～5月23日	調査種類：終了時評価調査

3. 調査結果の概要

3-1 実績確認

3-1-1 「成果」と「活動」の達成状況

(1) アルゼンチンで期待される成果

成果1「ラ・プラタ大学獣医学部の育成中の教員が診断と疫学についての技術を訓練されている」

プロジェクト終了時に、延べ30人の育成中の教員が診断と疫学技術についてトレーニングされている計画に対し、評価時点では2種類の診断技術研修(分子診断)が実施され、

30人の若手教員が参加した。また、疫学入門コースを2回実施し、計70人の若手教員が参加した。

成果2「ラ・プラタ大学獣医学部の教員たちがプロジェクト参加の3カ国の大学教員に診断と疫学技術を移転する能力が身につけている」

5年間で3カ国の教員各延べ20人がラ・プラタ大学獣医学部でトレーニングされている計画に対し、評価時点ではラ・プラタ大学獣医学部が延べ60人を3カ国から受け入れた。また、30人のラ・プラタ大学獣医学部の専門家が3カ国の大学に派遣され教員をトレーニングしている計画に対し、評価時点ではラ・プラタ大学獣医学部から延べ42人が3カ国に派遣された。

成果3「ラ・プラタ大学獣医学部の診断と研究の環境が改善する」

プロジェクト終了時までにはウイルス学、家禽病理学、微生物学の研究室のラボが国際及び域内の基準により勧告された生物安全の要件を満たしている計画に対し、評価時点ではすべてのラボが整備された。

成果4「ラ・プラタ大学獣医学部の調整による診断・疫学情報の広域ネットワークが確立する」

ラ・プラタ大学を含むプロジェクト参加の4大学のネットワークが確立する計画に対し、評価時点では中間レビュー時より採用されたアルゼンチンコーディネータを中心とした運営、ネットワークが定着している。また、情報がネットワークにより更新され、毎年アクセス数が10%増加する計画に対し、ウェブサイトへのアクセス数は毎年10%以上増加している。

(2) ボリビアで期待される成果

成果1「ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部の教員の能力が向上する」

プロジェクト終了時にプロジェクトにかかわる若手教員6人が診断技術についてトレーニングされている計画に対し、評価時点では8人の教員がラ・プラタ大学獣医学部で酸素連鎖反応（PCR）等の診断技術に関する研修を受け、業務に活用している。

また、プロジェクト終了時にプロジェクトにかかわる教員10人がラボ技術についてトレーニングされている計画に対し、評価時点では11人の教官が研修を受け、業務に活用している。

成果2「大学以外の獣医の能力が向上する」

プロジェクト終了時に24人の獣医診断センター（LIDIVET）、LIDIVECO及びINLASAのラボの獣医及び国際農牧衛生機構（SENASAG）並びに県の獣医が協定に基づきトレーニングされている計画に対し、評価時点ではLIDIVETの技術者1人がラ・プラタ大学獣医学部で診断技術に関する研修を受けた。また、各レベルの獣医師が、診断セミナー、計病疫学セミナー、狂犬病ワークショップ等に参加し、診断技術についての研修を受けた。

成果3「ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部の診断と研究の環境が改善する」

プロジェクト終了時までには大学のラボが国際及び域内の基準により勧告された生物安全の要件を満たしている計画に対し、評価時点ではブルセラ病診断抗原製造のために PROVETSURラボ内細菌部門の改修工事を実施し、安全キャビネットクラス が設置された。また、狂犬病監察犬舎が建設され、活用されている。

(3) パラグアイで期待される成果

成果1「アスンシオン大学獣医学部教員の能力が向上する」

プロジェクト終了時に延べ30人の若手教員が診断技術についてトレーニングされている計画に対し、評価時点では延べ22人がラ・プラタ大学獣医学部で集団もしくは個別研修を受講している。

成果2「ラボ及び現場の獣医師の能力が向上する」

プロジェクト終了時に、家畜衛生センター（SENACSA）のラボ及び現場獣医師30人が診断技術についてトレーニングされている計画に対し、評価時点ではSENACSAの7人の獣医師に対しサルモネラ症の分子診断についてオンザジョブ・トレーニング（OJT）が実施されている。また、4人が最新診断技術に係る研修を受講している。

成果3「アスンシオン大学獣医学部の診断と研究の環境が改善する」

プロジェクト終了時までにはラボが国際及び域内の基準により勧告された生物安全の要件を満たしている計画に対し、評価時点では安全キャビネットクラス が設置され、かつ家禽病理ラボ内部のデザインを基準に沿って変更した。

(4) ウルグアイで期待される成果

成果1「共和国大学獣医学部の教員の能力が向上する」

プロジェクト終了時に共和国大学獣医学部の若手教員20人が診断技術についてトレーニングされている計画に対し、評価時点では延べ18人の若手教員がラ・プラタ大学獣医学部で研修を受けている。

成果2「ラボの獣医師の能力が向上する」

プロジェクト終了時に農牧省家畜衛生研究部（DILAVE）のラボの獣医師及び民間のラボの獣医師20人がラボ技術及び疾病の知識についてトレーニングされている計画に対し、評価時点ではDILAVEの研究員1人がラ・プラタ大学獣医学部で研修を受けている。また、高病原性鳥インフルエンザ及びラボ診断技術に係るセミナーを実施し、農業省、獣医学部、農業研究所、民間ラボから約130人が参加している。

成果3「現場の獣医師の能力が向上する」

プロジェクト終了時に70人の現場の獣医師がトレーニングされている計画に対し、評価時点では現場の獣医師を対象とする研修コースは実施されていなかったが、獣医学部及び試験場にて実施された研修に、予定されていた現場獣医師数の80%が参加した。

成果4「共和国大学獣医学部の診断と研究の環境が改善する」

プロジェクト終了時までにはラボが国際及び域内の基準により勧告された生物安全の要件を満たしている計画に対し、評価時点では予算的な制約及び学部の移転計画により、国際基準に沿ったラボ整備は実施されなかった。

(5) 広域で期待される成果

成果1「広域調整システムが作られる」

プロジェクト調整委員会においてプロジェクトの計画、実施、モニタリングに対する決定がなされる計画に対し、評価時点では毎年定期的に関係者による運営委員会及び合同調整委員会（JCC）が開催されている。

成果2「プロジェクトのテーマに関するレポートが作成される」

各国においてプロジェクト関連のテーマに関するレポートが国ごとの計画でつくられる計画に対して、評価時点では各国ニーズに沿った研究をデザインし、その成果レポートが作成されてきている。

成果3「広域研究グループが作られる」

プロジェクト3年までに12の広域研究グループ（自国とプロジェクト参加の他国の教員からなるグループ）が形成され、プロジェクト終了時までには20編の査読付論文を出版している計画に対し、評価時点では26研究グループが形成され、26編の査読付論文が出版されている。

成果4「現場獣医や生産者が利用可能な情報が普及している」

2009年初めから加工された情報がプロジェクトのウェブサイトを利用してあり、2009年初めからプロジェクトの専門家のセミナーや印刷物により加工された情報が配信されている計画に対し、評価時点ではプロジェクトのウェブサイトは立ち上げられており、公刊された英語論文が加工され、配信されている。

3 - 1 - 2 プロジェクト目標と上位目標の達成見込み

中間レビューにおいて、各国のプロジェクト目標として、国目標と広域目標の2つが設定された。なお、国目標と広域目標の間には上下関係はない。

(1) プロジェクト目標

1) アルゼンチン

広域目標：プロジェクトのテーマに関するレポートが作られる

30人のラ・プラタ大学獣医学部の教員がプロジェクトに関するテーマについての学術報告書及び普及誌を毎年最低1編発行している計画に対し、2006年査読付論文3編、2007年査読付論文が8編、2008年調査報告書2編並びに2009年査読付論文6編及び調査報告書1編が作成されている。

国目標：ラ・プラタ大学獣医学部の当該分野の能力が向上する

ラ・プラタ大学獣医学部による第三者に対する疾病診断、ラボ技術、内外アドバイスのサービスが年ごとに10%増える計画に対し、評価時点では2005/2006年度は18.6%増、2006/2007年度は34.8%増、2007/2008年度は11.5%増及び2008/2009年度は15.5%増となっている。

2) ポリビア

広域目標：プロジェクトが扱う疾病についての情報がつくられる

プロジェクト終了時に研究対象の各疾病について少なくとも1つのレポートが発表されている計画に対し、評価時点では狂犬病に関し、査読付論文4編が公表されている。

国目標：ポリビアの家畜疾病診断能力が向上する

プロジェクト終了時、プロジェクト開始時に比較して診断される疾病の数が増える計画に対し、評価時点では5疾病（狂犬病、ニューカッスル病、ブルセラ病、馬伝染性貧血及び牛白血病）が新たに診断できるようになっている。

また、プロジェクト終了時に疾病診断数技術数が増える計画に対し、評価時点では血清診断〔赤血球凝集抑制試験（HI）赤血球凝集反応（HA）エライサ（酵素結合免疫吸着法、酵素免疫測定法）（ELISA）急速平板凝集反応（BPA）寒天ゲル内沈降反応（AGID）〕及び分子診断（PCR）が実施可能となっている。

3) パラグアイ

広域目標：プロジェクトが扱う疾病についての情報がつくられる

年間1つの技術レポートがつけられ、また、プロジェクトに関する教員により関連分野の科学出版が少なくとも年間1つつけられている計画に対し、評価時点ではガンボロ病に関し、査読付論文3編が公表されている。また、ガンボロ病に関する実験・調査結果2編がまとめられている。

国目標：パラグアイの家畜疾病診断能力が向上する

プロジェクトの終了時にプロジェクト開始時と比較して、診断される疾病数が増加し、また、プロジェクト終了時に診断技術が増える計画に対し、評価時点では5疾病〔ブタと鶏のサルモネラ症、ガンボロ病、マイコプラズマ症（2種）及び伝染性気管支炎〕が新たに診断できるようになっている。また、ELISA、PCR、免疫磁気ビーズ法、病理解剖、免疫組織染色法が実施可能となっている。

4) ウルグアイ

広域目標：プロジェクトが扱う疾病についての情報がつくられる

年間1つの技術レポートがつけられ、また、プロジェクトに関する教員により関連分野の科学出版が少なくとも年間1つつけられている計画に対し、評価時点では査読付論文2編、研究報告書3編、調査報告書2編が作成されている。

国目標：ウルグアイの家畜疾病診断能力が向上する

プロジェクト終了時に共和国大学で診断される疾病数がプロジェクト開始時に比較して増加し、また、プロジェクト終了時にウルグアイの診断技術が増加している計画に対し、評価時点では9疾病（IBR、BVD/MD、キャンピロバクター症、トリコモナス症、ネオスポラ症、クラミジア症、マイコプラズマ症、Orthobacterium rhinotracheale 感染症、鶏ニューモウイルス症）が新たに診断できるようになっている。また、ELISA、PCR及び間接蛍光抗体法が実施可能となっている。

5) 広 域

広域プロジェクト目標：域内獣医の業務においてプロジェクトによってつくられた情報が活用される

毎年プロジェクトのウェブサイトへのアクセス数が増える計画に対し、評価時点ではアクセス数は1万371件（2006年5月～2007年4月）、1万1,795件（2007年5月～2008年4月）、1万4,560件（2008年5月～2009年4月）、1万7,806件（2009年5月～2010年4月）となっている。また、毎年メーリングリストを通じた問合せ件数が増える計画に対し、目標は達成されていないが、メーリングリスト登録者数の伸びからすれば、活用者の増加が考えられる。

(2) 上位目標

上位目標：南米南部地域の獣医の家畜疾病診断についての卒後継続研鑽が推進される

プロジェクト終了後5年後に域内獣医の過半数が家畜疾病診断について更新された科学的知見を得るために学んでいる計画に対し、達成されていなかったが、今後の達成が期待される。

3 - 1 - 3 投入（2010年3月31日現在）

(1) 日本側の投入

1) 長期専門家 2人

「疫学情報資源整備/プロジェクト運営管理」：53MM

「再教育システム/広域業務調整」：20MM

2) 短期専門家 6人

3) 第三国専門家 42人（アルゼンチン ラ・プラタ大学獣医学部教員及びSENACSA獣医師派遣経費）

4) 機材供与 約81万270米ドル（=7,511万2,000円、換算レート1米ドル=92.7円）

5) 本邦研修 なし

6) プロジェクト運営経費負担 約130万2,448米ドル（=1億2,073万7,000円、換算レート1米ドル=92.7円）

(2) アルゼンチン側の投入

1) 第三国専門家

〔派遣に関する経費のうち、人件費として総額23万4,000アルゼンチンペソ（=7万

8,000米ドル、換算レート1米ドル=3ペソ)を負担]

- 2) プロジェクト実施経費 総額18万7,300米ドル
- 3) プロジェクトスタッフの配置
- 4) プロジェクト事務所、ラボ、車両等

(3) ポリビア側の投入

- 1) プロジェクト実施経費 総額5万6,355米ドル(ここには関係者の賃金は含めない)
- 2) プロジェクトスタッフの配置
- 3) プロジェクト事務所、ラボ、車両等

(4) パラグアイ側の投入

- 1) プロジェクト実施経費 総額2万320米ドル(ここには関係者の賃金は含めない)
- 2) プロジェクトスタッフの配置
- 3) プロジェクト事務所、ラボ、車両等

(5) ウルグアイ側の投入

- 1) プロジェクト実施経費 総額16万2,000米ドル(ここには関係者の賃金は含めない)
- 2) プロジェクトスタッフの配置
- 3) プロジェクト事務所、ラボ、車両等

3 - 1 - 4 実施プロセス

(1) 日本人専門家の役割

当プロジェクトは2005年8月1日に開始されたが、日本人長期専門家が赴任したのは2006年1月であった。その期間、アルゼンチン側プロジェクト・コーディネータとJICAアルゼンチン事務所担当者が中心となってプロジェクトの運営を担った。ラ・プラタ大学獣医学部がJICAのプロジェクトに慣れていたとはいえ、運営そのものを任されるのは初めてのことであり、また事務所担当者にしても当プロジェクト以外に多くの仕事を抱え多忙であったため、プロジェクトの運営はスムーズに運ばなかった。プロジェクト当初にみられた参加各国間における不信感も、マイナスに働いたといえる。

しかし、長期専門家の赴任以来、そういった疑心暗鬼が払拭されて4カ国間の関係も改善され、チームワークが取れるようになってきたということ、各国における聞き取り調査で確認した。つまり、もともと連携する機会の少なかった4カ国を結ぶ広域プロジェクトを実施するためには、触媒となるべき存在が必要であったということであり、当プロジェクトにおいては日本人長期専門家がその役を担ったといえる。このような参加4カ国にとって初めての枠組みとなる広域-南南協力という取り組みを、日本人長期専門家が不在のままスタートさせるという決断には大きな無理があったと考えられる。

(2) プロジェクトに対するコミットメント

広域プロジェクトにおいては、参加各国が一構成員であるとの認識の下、活動の計画、準備、実施の各段階において遅延のない共同歩調を意識した対応が強く望まれる。また、

関係者、関係国間のスムーズな調整は、プロジェクト全体の進捗を左右する重要な要素であり、各国での事務手続きや連絡調整を行う人材については、活動が滞ることのないように適切な人数を適切な期間配置することが不可欠である。

当プロジェクトにおいては、当初各国は相互の信頼感に欠け、足並みの乱れから共同歩調が取れず、活動計画（PO）が作成されなかった。JCCが組織されたのも、長期専門家赴任後の2006年5月である。しかし、各国にはプロジェクト・コーディネータとして適切な人材が配置されていたことにより、長期専門家の赴任を機に関係者間の調整がスムーズに行われるようになった。また活動が進むにつれ、機材の納入や施設の整備、研修の実施、論文の掲載など、具体的な成果が目に見えるような形で現れてくると、「自分たちのプロジェクトである」という意識が強まり、特にプロジェクトの後半には積極的にプロジェクト活動を進めるようになってきた。各国とも新たに若手教員を補充し、プロジェクト活動にあたらせている。人材が育ちモチベーションが芽生えてきているので、今後各国に期待されるのは、こういった活動を継続させていくための予算確保であろう。

（3）関係者間のコミュニケーション

これまで、家畜衛生・獣医分野においてメルコスール加盟国間における連携は希薄であり、各国はお互いに不信感を抱いていたという。ウルグアイの署名が遅れ、活動開始がほか3カ国に比べて1年遅れた原因も、そういった不信感にあることは否めない。そのような国々が介在者を伴わずにプロジェクトを開始したのであるから、プロジェクトの運営が滞ったのも当然の成り行きといえる。そういった状況下に長期専門家が赴任し仲介者となることで、各国間に立ちはだかっていた壁に風穴が開き、4カ国間の連携は改善へと動き出した。また、研修員受入れや第三国専門家派遣などといったアルゼンチン側のプロジェクトに対する関与が深まって成果が発現してくると、おのずと各国の関心が高まり人間関係が深まった。プロジェクト活動が進むにつれて関係者間のコミュニケーションが深まり、仲間意識が芽生えてきたと推察される。

活動のモニタリングについても、プロジェクト後半は四半期ごとに各国がAPOに沿った進捗状況をプロジェクト事務所に報告している。プロジェクト事務所とラ・プラタ大学獣医学部は、その報告内容を汲み上げる形で次のPOを組み立てており、そのようなプロジェクト運営が中間レビュー以降の大きな成果につながったと考えられる。

（4）獣医師に対するモニタリング

本プロジェクトはターゲット・グループを域内獣医師に設定しており、プロジェクトの成果を彼らに活用してもらうことが上位目標となっている。それゆえ獣医師の現状や要望、卒後研修などの効果を定期的にモニタリングして把握し、その結果を将来的な研修内容や調査・研究に反映させていくことが重要である。

3 - 2 評価結果の要約

（1）妥当性

妥当性はおおむね高いと考えられる。

1) 日本

わが国は、アルゼンチンに対する協力の重点分野として、これまで実施してきた国際協力を生かした南々協力の推進を掲げるとともに、地域が抱える共通の課題を地域全体の開発ニーズとして広域協力を効果的に実施するとの方針をもっており、本プロジェクトは、その方針と合致し、極めて妥当性が高いといえる。また、家畜衛生にかかわる人材を育成することにより、衛生管理の改善等が図られることから、畜産が大きな収入源となっている貧困層に裨益すると考えられる。加えて、狂犬病などの人獣共通感染症に係る疾病対策にも力を入れており、人間の安全保障にも貢献している。

2) アルゼンチン

アルゼンチン政府（文部省）は、大学の国際化を推進する政策をとっており、ラ・プラタ大学獣医学部を核とした広域協力の推進には意欲的であり、広域に学生を受け入れることを推進する方針をとっている。また、国家農産品衛生サービス防疫技術研究所（SENASA）とはスタッフのトレーニングに関する協定を結び、SENASAスタッフの教育を一手に引き受けており、国としての家畜衛生改善に大きく貢献している。

3) ボリビア、パラグアイ、ウルグアイ

本プロジェクトの活動を通して移転された診断技術や研究成果、調査結果などが、各国大学で実施している研修コースに反映されてきており、プロジェクト・サイト以外の獣医師にも裨益し、科学的な診断手法が取り入れられるようになってきた。

4) 政策上の優先度

家畜疾病は家畜生産に甚大な被害を与えるというばかりでなく、家畜から人へ伝播する人獣共通感染症という人の健康にも重大な影響を及ぼす可能性がある疾病もある。このため、国際獣疫事務局（OIE）・国連食糧農業機関（FAO）は国境を越えた家畜疾病対策への取り組みを重要と位置づけており、そうした取り組みにこのプロジェクトは整合している。

5) 地域としての行動計画

現在、当該地域においては、獣医学部間における単位の互換制度を構築する取り組みが進められている。当プロジェクトによる活動を通し、いずれの大学も単位互換制度の取り組みに参加できるまでに発展してきており、本プロジェクトの妥当性は大きいと推定される。

(2) 有効性

有効性は高い。

各国ともにプロジェクト目標はおおむね達成されており、中間レビューの提言等を踏まえた結果、共同実施体制及び各国におけるプロジェクト運営が有効に機能したためと推察される。現場の獣医師に対する診断技術の普及について、活動が若干弱い傾向がみられたが、プロジェクト関係者のモチベーション等が高まってきており、今後ともプロジェクトの成果を効果的に普及していくものと期待される。また、C/Pの交代や人材流出など、外部条件に係る問題もほとんど見受けられていない。

当プロジェクトにおいては、研修員、第三国専門家及び各国プロジェクト・コーディネータに女性が含まれていることから、ジェンダーに対する配慮がうかがえた。また、各国

が互いに切磋琢磨してプロジェクト活動に励んだことがより大きな成果につながっている。これは広域という枠組みが、プロジェクト目標達成に対して効果的に働いた結果と考えられる。

(3) 効率性

効率性は国によりばらつきがみられる。

日本側の投入はおおむね計画どおり実施されている。投入の活用状況もおおむね良好である。

機材の投入の質・量・タイミングについて、ボリビア、パラグアイ及びウルグアイにおいては、一部問題が生じたため、第三国専門家の活動に不都合が生じた。

アルゼンチン側のC/Pの投入については、質・量・タイミングとも特に問題はない。

ボリビア及びパラグアイでは、若手スタッフが職員として採用されている。また、ウルグアイは他国よりもおよそ1年開始が遅れたものの、プロジェクトの活動を担う若手教員を数名増員している。

(4) インパクト

マイナスのインパクトは特に生じていない。プラスのインパクトは上位目標の達成の可能性が期待できる。

プロジェクトが掲げる上位目標である、「南米南部地域の獣医の家畜疾病診断についての卒業継続研鑽が推進される」は、今後プロジェクトが家畜疾病診断分野の情報を発信することによる波及効果として実現されることが期待できる。

技術的なインパクトとしては、診断能力の向上と、研究成果の報告書作成能力の向上が上げられる。各大学ともに若手教員の診断能力が向上した結果、プロジェクトを通して計26編の査読付論文が発表されていることは大きな成果といえる。

またプラスのインパクトとして最も評価されるのは、各大学スタッフ間に強い絆が生まれたことである。本プロジェクトで培われた関係が、各大学の診断・研究能力の向上だけにとどまらず、今後、域内の家畜衛生分野の進展に大きく貢献することが期待される。

(5) 自立発展性

引き続き、自立発展性に配慮した取り組みが重要である。

1) 技術面

関係国において技術面の自立発展性は十分に期待できる。プロジェクトを通して移転された診断技術は、ある特定の疾病ばかりでなく他の疾病にも応用できるものであるから、情報交換を各国間で行い、地域全体としてレベル向上につなげていくことが望まれる。

2) 財政面

ボリビア、パラグアイ及びウルグアイは、機材のスペアパーツや消耗品の調達のための予算措置について、今後、適切な対応を考える必要がある。

3) 組織面

大学を対象とした協力であるため、政治状況の変動による影響を受けにくく、組織とし

ての継続性が十分に期待できる。

3 - 3 結 論

評価チームは、評価調査の結果、当初種々の問題があったものの、中間レビュー以降は順調に実施されたことにより、多くの成果が発現していることが確認できた。評価5項目に関し、妥当性はおおむね高いと判断でき、また、有効性も高いと判断される。効率性に関しては、プロジェクト開始当初に足並みの乱れが生じ、国ごとに差が出る要因となった。一部、プロジェクトの運営において支障を生じさせる懸念があったものの、結果的に大きな不都合は生じなかった。インパクトに関連し、現時点でマイナスの影響が見いだせない。自立発展性に関しては、関係各国による更なる努力が必要である。同じ地域、同じ家畜衛生分野、同じ大学という機関でありながら、交流が非常に乏しかった4カ国の大学が、当プロジェクトを通して非常に深い信頼関係を築きあげることができたことは、プロジェクト関係者の中で広く共有されている。このような関係は努力によって保つことができるものであり、容易に消えてしまうものではない。しかしながら、プロジェクトによって培った技術を活用し、研究を続け、成果を普及していくためには、各国関係機関とのネットワークの構築や実務面での強化もより意識すべきと考える。終了時評価調査を通じて得られたこれら評価結果に基づき、プロジェクト終了後の発展に向けて幾つかの課題が抽出された。そこで、評価チームは、これらに関する改善への提言を行うとともに、今後の類似プロジェクトの実施にあたっての教訓を示すこととする。

3 - 4 提 言

これまでの評価の結果に基づき、評価チームは、次の事項に対処するようプロジェクトチームに対して提言する。

(1) プロジェクトの今後

本プロジェクトについては、2005年8月の開始から2010年7月までの5年間の予定で実施されてきた。今回の終了時評価調査において、広域及び各国の活動を通じてプロジェクト目標がおおむね達成されていることが確認されたことから、計画どおり2010年7月をもって本プロジェクトは終了する。本プロジェクトを通じて培われた診断技術や疫学技術、各大学との協同体制等のプロジェクトの成果については、各大学の自助努力により維持、発展されるよう今後とも積極的に取り組まれることが望まれる。

本プロジェクトにおいて培われた診断技術等の拡大強化のために更に支援が必要な場合には、JICA事務所と相談のうえ、既存のスキームを活用した協力を検討されることが望ましい。

(2) 自立発展性についての認識向上

プロジェクト活動は、プロジェクト実施機関だけのために行われているのではなく、プロジェクト終了後の自立発展的な活動継続のために行われるものであることを、関係者は強く認識すべきである。各国は活動継続に必要な資金源の確保を図ることもさることながら、診断技術及び疫学技術の自立発展的な向上並びに精度の高いより確実な情報発信を図るため、各国間の診断法の統一化・標準化に向けた取り組みを継続的に実施すべきであり、

また統一化・標準化された対象疾病数を増加するよう努めることが望まれる。

(3) 卒後継続研鑽機会の制度化

獣医師は社会の要請に応えるために常に研鑽することが求められる。大学学部における獣医学教育には限界があることから、本プロジェクトで取り組まれた活動を参考に、現場の獣医師のニーズに基づいた卒後継続研鑽を制度化することにより、地域獣医療水準が向上されることが望ましい。さらに、各国間で調整した卒後継続研鑽を制度化することにより、地域共通の課題について質の高い研修が実施されることが期待される。

(4) 行政機関との適切な連携に関する検討

本プロジェクトで行われる活動は、最終的には生産現場における家畜衛生分野のニーズに適切に応えるためのものであり、それゆえ、関係する獣医師の診断に関する能力向上を1つの重要な成果としている。その目的を適切かつ効率的に達成していくためには、各国政府関係機関や獣医関係団体との良好な関係が必要不可欠であるため、プロジェクト活動を通して生まれた関係を礎にして、今後強固なネットワークへと発展させていくべきである。

(5) 診断技術及び疫学技術の能力向上の継続

本プロジェクトでは、大学の若手教員に技術研修を施して能力を向上するという活動はニーズに適合し、成果を上げた。特に受益対象3カ国においては獣医学教育が充実しているとは言い難い。大学教員の能力向上は学部学生の教育レベルの改善、現場獣医師への研修提供の前提条件である。本プロジェクトで、ラ・プラタ大学の獣医疫学の若い教員により「獣医学における生物統計学マニュアル」が作成されるなど各大学教員の診断技術等の能力向上が図られてきた。今後とも、調査研究分野で切磋琢磨することにより、診断技術及び疫学技術の能力向上に努めることが望まれる。

(6) 消耗品の購入予算等の確保

プロジェクト終了後、活動によって培われた診断や研究を継続していくためには、試薬やプラスチック類など消耗品の購入や、設置された機材類の維持管理が必要不可欠である。そのため、各大学は、プロジェクト終了後に必要な予算を継続的に確保できるのか、また消耗品等の購入ルートは確実に確保されているのか等を十分に検討し、適切に対応する必要がある。必要な予算を確保する方法として、検査料の徴収や診断液の販売などが考えられるが、生産者組合など関係機関との連携も視野に入れ、各国に適した方法が検討されることが期待される。

なお、各大学は、インキュベーターや冷蔵庫、冷凍庫などの温度管理は、検査結果や試薬類の品質に直接影響を及ぼす要因であることから、バックアップ体制を整備するなど早急な対応が望まれる。

(7) プロジェクト・ウェブサイトの継続・発展

2009年12月、「イベロアメリカ獣医予防疫学会」が発足した。この学会発足は本プロジェクトのネットワークが下地になっている。当該学会には、本プロジェクトで獣医疫学に興

味を抱いた獣医師たちが多く参加しており、この分野の活動が活性化されることが期待される。これを足掛かりに、本プロジェクトで構築された情報ネットワークがこの学会と歩調を合わせて発展できるよう、掲載内容の充実や域内の多くの獣医師に幅広く活用されるような積極的な取り組みが継続されることが期待される。

(8) プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) の見直し

現行のプロジェクト計画書であるPDM Ver.2は、プロジェクト中間評価の提言に従って改訂されたものであるが、外部条件が記入されていない。今回の終了時評価では、PDM Ver.2を用いて評価を実施した。その結果、プロジェクト活動を阻害する大きな外部条件は確認できなかったため、評価を実施するにあたり問題とはならなかった。

しかしながら、今後プロジェクトを終了するまでの期間に、何らかの外部条件が起こり、プロジェクト目標の達成に影響を及ぼす可能性が否定できないため、PDM Ver.2に外部条件を新たに加えたPDM ver.3を作成することが推奨される。

3 - 5 教 訓

これまでの評価の結果に基づき、評価チームは、今後の類似プロジェクトの実施にあたって、次の事項を教訓として示す。

(1) プロジェクトに対する共通認識の醸成

広域協力の実施にあたっては、中核国（機関）の運営面でのオーナーシップ及び受益国（機関）のモチベーションが不可欠である。プロジェクト関係者は、これらを基に共通課題及び実施枠組みについてのコンセンサスをプロジェクト開始時点までに得ることが重要である。

(2) プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) 策定時の留意事項

PDM Ver.2については中間評価時に大幅に改定されたが、アルゼンチン分のPDM Ver.2において、成果2の活動の記述が不十分であり、論理的に構成されていない。PDMを策定するにあたっては、成果と活動が論理的に構成されるよう配慮すべきである。

第1章 終了時評価調査の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

1-1-1 経緯

南米諸国において、畜産業は基幹産業として重要な位置を占めている。特に、メルコスール（南米南部共同市場）による経済統合が進むなか、域内の家畜生体や畜産物の流通が一層盛んになり、各国の経済に与える影響は、大きくなっている。

このように、経済統合による域内の経済活動が活発になる一方で、口蹄疫などの重要家畜疾病の発生により、畜産物の流通が制限されるなどの事態が生じており、各国は大きな経済的損失を生じている。

しかしながら、家畜疾病の診断、伝染病予防等の国ごとのレベルの差は大きく、また、各国が自国の国境監視に終始してきたことから、国境を越えた家畜疾病防除のための技術と制度の確立といった共同対策が急務となっている。

本案件は、南米南部を対象とした協力に参加を表明したアルゼンチン共和国（以下、「アルゼンチン」と記す）、パラグアイ共和国（以下、「パラグアイ」と記す）、ボリビア多民族国（以下、「ボリビア」と記す）、ウルグアイ東方共和国（以下、「ウルグアイ」と記す）の4カ国を対象に、大学の獣医学部をC/Pに実施している広域協力案件である。

要請段階の「南米地域における家畜疾病防除計画」が示すとおり研究能力の向上やラボラトリー（以下、「ラボ」と記す）の強化をめざす性格の案件であったが、その後2度の事前調査を経て、獣医師の再教育を通じて人材育成を行う「広域協力を通じた南米南部家畜衛生改善のための人材育成プロジェクト」に整理され、4カ国で案件が開始された。

活動の枠組みは、20年間近くアルゼンチン ラ・プラタ大学で実施してきた家畜衛生・疾病診断技術に係る協力の成果を活用し、同国に隣接するボリビア、パラグアイ、ウルグアイに協力の対象地域を拡大し、家畜衛生改善のための技術を強化するものである。大学、研究所の獣医師のみならず、家畜疾病診断を担う現職獣医師の再教育を実施するとともに、それらの人的連携及び疾病情報データベース・獣医師メーリングリスト等の活用による家畜衛生（疫学）情報を広域ネットワーク上で整備し、域内の疾病診断能力を強化するものである。

協力期間は2005年8月～2010年7月の5年間である。プロジェクト実施機関は、ラ・プラタ大学（アルゼンチン）、ガブリエル・レネ・モレノ大学（ボリビア）、アスンシオン大学（パラグアイ）、共和国大学（ウルグアイ）であり、ラ・プラタ大学が広域プロジェクトの事務局を務めている。

今般、協力開始から5年目を迎え、2010年7月の協力期間終了に向けてこれまでの活動実績を評価するとともに、今後に向けての提言及び教訓を抽出することを目的に、終了時評価調査団を派遣する。

1-1-2 派遣の目的

終了時評価調査は次の事項を目的に実施された。

- (1) プロジェクトの実績と実施プロセスを確認し、その情報に基づいて、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト及び自立発展性）の観点から日本側・アルゼンチン側双方で総合的に評価する。

(2) プロジェクト終了までの期間で対応すべきことを明らかにし提言するとともに、今後の類似プロジェクトの実施にあたっての教訓を導き、結果を日本、アルゼンチン両国政府及び関係機関に報告・提言する。

なお、終了時評価調査報告書は、スペイン語、日本語の両言語で作成し、これらには正副の関係はない。

また、本評価報告書は、日本側とアルゼンチン側の共同で調査して作成した。しかし、各国の実績確認については、アルゼンチン調査団の同行のうえ、日本側調査団が情報を収集し、整理した。また、アルゼンチン以外の国であるボリビア、パラグアイ、ウルグアイに対する評価については、アルゼンチン側評価団が直接確認できない内容もあることから、一部の項目については、日本側調査団のみで評価したものを記載した。

1 - 2 調査団の構成と調査期間

1 - 2 - 1 調査団の構成

調査団は次で構成された。なお、以下のアルゼンチン側のメンバーと合同評価チームを結成し、評価を実施した。

(1) 日本側評価チーム

氏名 調査担当分野	所属
要田 正治 団長/疫学	JICA 国際協力専門員
小野 憲一郎 家畜疾病防除技術/再教育システム	株式会社 日本動物高度医療センター腫瘍科・学術部門長 (元東京大学大学院教授)
荻窪 恭明 計画調整	JICA農村開発部 畑作地帯グループ 畑作地帯第一課 企画役
柏崎 佳人 評価分析	A&Mコンサルタント有限公司

(2) アルゼンチン側評価チーム

氏名	所属
Jorge A Rodriguez TOLEDO 団 長	SENASA 実験動物セクション コーディネータ
Andrea DE FORNASARI	外務省 国際協力局 日本担当官
Lizzy Della ROSA	ラ・プラタ大学本部職員

1 - 2 - 2 調査日程

日本側調査団は、2010年4月25日～5月23日の期間、アルゼンチン、ボリビア、パラグアイ及びウルグアイの4カ国を調査した。2010年5月19～20日にかけては、アルゼンチンと合同評価チームを結成し、プロジェクトの評価を実施した（詳細は付属資料1「終了時評価調査日程」を参照）。

1 - 3 主要面談者

終了時評価調査期間中の主要面談者は、付属資料2「主要面談者リスト」のとおり。

1 - 4 プロジェクトの概要

1 - 4 - 1 プロジェクトの骨子

中間評価で改訂したプロジェクトの骨子（PDM Ver.2に該当）は次のとおりである。

(1) 広域（地域）

1) 広域上位目標

南米南部地域の獣医の家畜疾病診断についての卒後継続研鑽が推進される。

2) 広域プロジェクト目標

域内獣医の業務においてプロジェクトによってつくられた情報が活用される。

3) 広域プロジェクト成果

(a) 広域調整システムがつくられる。

(b) プロジェクトのテーマに関するレポートが作成される。

() アルゼンチンの目標

() ボリビアの目標

() パラグアイの目標

() ウルグアイの目標

(c) 広域研究グループがつくられる。

(d) 現場獣医や生産者が利用可能な情報が普及している。

4) 広域活動

(a) -1. 広域調整システムのためのJCCを組織する。

(a) -2. 年1回定期的なJCC会議を域内で開催する。

(b) 各国の活動を実施する（各国のPDMの活動を参照）。

(c) -1. 広域研究計画を作成する。

(c) -2. 各国コーディネータが広域研究に参加する者を選ぶ。

(c) -3. 当該分野の調査研究を行い、研究レポートを作成する。

(d) -1. 2008年末までに4獣医学部間で、プロジェクトで作成した情報の発信についてのクライテリアに関する規則をつくる。

(d) -2. 2009年初めから承認されたすべてのレポートを獣医師及び生産者向けに著者によりスペイン語によって加工する。

(d) -3. 2009年初めから加工された情報をプロジェクトのウェブサイトまたはニュースレターに配信する。

(d) -4 . 2009年初めから加工された情報を専門家によるセミナーや印刷物によって広報する。

(2) アルゼンチン

1) プロジェクト目標

(a) 広域目標

プロジェクトのテーマに関するレポートがつくられる。

(b) アルゼンチン目標

ラ・プラタ大学獣医学部の当該分野の能力が向上する。

2) アルゼンチン成果

(a) ラ・プラタ大学獣医学部の育成中の教員が診断と疫学についての技術を訓練されている。

(b) ラ・プラタ大学獣医学部の教員たちがプロジェクト参加の3カ国の大学教員に診断と疫学技術を移転する能力が身についている。

(c) ラ・プラタ大学獣医学部の診断と研究の環境が改善する。

(d) ラ・プラタ大学獣医学部の調整による診断・疫学情報の広域ネットワークが確立する。

3) アルゼンチン活動

(a) -1 . ラ・プラタ大学獣医学部の必要に沿ったトレーニング計画を作成する。

(a) -2 . ラ・プラタ大学獣医学部教員群に対する診断技術のトレーニングコースを行う。

(a) -3 . ラ・プラタ大学獣医学部教員群に疫学技術のトレーニングコースを行う。

(b) -1 . ラ・プラタ大学獣医学部教員群に診断技術のOJTを行う。

(b) -2 . ラ・プラタ大学獣医学部教員群に疫学技術のOJTを行う。

(c) -1 . 必要に基づくラボの機材の設置、消耗品の設置、建物の改修計画をつくる。

(c) -2 . 家禽病理ラボの建物の改修をする。

(c) -3 . プロジェクトのテーマに関係するラボの機材、消耗品を設置する。

(d) -1 . 4カ国の獣医学部間でネットワーク形成についての基準づくりの検討と合意をする。

(d) -2 . プロジェクトのウェブサイトを立て上げる（プロジェクトの一般情報、ニュース、メール、図書館、調査研究出版物）。

(3) ポリビア

1) プロジェクト目標

(a) 広域目標

プロジェクトが扱う疾病についての情報がつくられる。

(b) ポリビア目標

ポリビアの家畜疾病診断の能力が向上する。

2) ポリビア成果

(a) ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部の教員の能力が向上する。

(b) 大学以外の獣医の能力が向上する。

- (c) ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部の診断と研究の環境が改善する。
- 3) ポリビア活動
 - (a) -1. ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部の必要に沿ったトレーニング計画及び研究計画をつくる。
 - (a) -2. ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部の若手教員に診断技術のトレーニングコースを行う。
 - (a) -3. ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部の若手教員に疫学技術のトレーニングコースを行う。
 - (a) -4. ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部の若手教員に診断技術のOJTを行う。
 - (a) -5. ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部の若手教員に疫学技術のOJTを行う。
 - (a) -6. プロジェクトにかかわるガブリエル・レネ・モレノ大学の教員にラボにおける診断技術の更新コースをする。
 - (a) -7. 研究を実施する。
 - (b) -1. 大学以外の獣医師の必要に沿ったトレーニング計画をつくる。
 - (b) -2. 上記の獣医師に対し、診断技術のトレーニングコースを行う。
 - (b) -3. 上記の獣医師にサンプリング技術のトレーニングコースを行う。
 - (c) -1. 必要に基づくラボの機材の設置、消耗品の設置、建物の改修計画をつくる。
 - (c) -2. ラボの建物の改修をする。
 - (c) -3. プロジェクトのテーマに関係するラボの機材、消耗品を設置する。

(4) パラグアイ

1) プロジェクト目標

(a) 広域目標

プロジェクトに関する疾病についての情報がつくられる。

(b) パラグアイ目標

パラグアイの家畜疾病診断能力が向上する。

2) パラグアイ成果

- (a) アスンシオン大学獣医学部の教官の能力が向上する。
- (b) ラボ及び現場の獣医師の能力が向上する。
- (c) アスンシオン大学獣医学部の診断と研究の環境が改選する。

3) パラグアイ活動

- (a) -1. アスンシオン大学獣医学部の必要に沿ったトレーニング計画及び研究計画を作成する。
- (a) -2. アスンシオン大学獣医学部教員に診断技術のトレーニングコースを行う。
- (a) -3. アスンシオン大学獣医学部教員に疫学技術のトレーニングコースを行う。
- (a) -4. アスンシオン大学獣医学部の教員に診断技術のOJTをする。
- (a) -5. アスンシオン大学獣医学部の教員に疫学技術のOJTをする。
- (a) -6. 研究を実施する。
- (b) -1. 大学以外の獣医師の必要に沿ったトレーニング計画をつくる。
- (b) -2. 上記獣医師に診断技術のトレーニングコースを行う。

- (b) -3 . 上記獣医師にサンプリング技術のトレーニングコースを行う。
- (c) -1 . 必要に基づくラボの機材の設置、消耗品の設置、建物の改修計画をつくる。
- (c) -2 . ラボの建物の改修をする。
- (c) -3 . プロジェクトのテーマに関係するラボの機材、消耗品を設置する。

(5) ウルグアイ

1) プロジェクト目標

(a) 広域目標

プロジェクトが扱う疾病についての情報がつくられる。

(b) ウルグアイ目標

ウルグアイの家畜疾病診断能力が向上する。

2) ウルグアイ成果

(a) 共和国大学獣医学部の教員の能力が向上する。

(b) ラボの獣医の能力が向上する。

(c) 現場の獣医の能力が向上する。

(d) 共和国大学獣医学部の診断と研究の環境が改善する。

3) ウルグアイ活動

(a) -1 . 共和国大学獣医学部の若手教員に家畜疾病診断のトレーニングコースを行う。

(a) -2 . 共和国大学獣医学部の若手教員に域内のラボにおけるOJTを行う。

(a) -3 . 研究を実施する。

(b) -1 . 共和国大学獣医学部においてラボの獣医師向けの診断コースを行う。

(b) -2 . 共和国大学獣医学部においてラボの獣医師にOJTを行う。

(c) -1 . 共和国大学獣医学部において現場の獣医師に対して家畜疾病診断のコースを行う。

(c) -2 . 疾病診断に関する活動のための指導マニュアルを発展させる。

(d) -1 . 必要に基づくラボの機材の設置、消耗品の設置、建物の改修計画をつくる。

(d) -2 . ラボの建物の改修をする。

(d) -3 . プロジェクトのテーマに関係するラボの機材、消耗品を設置する。

1 - 4 - 2 投入計画

プロジェクト計画書 (PDM Ver.2) における投入計画は次のとおり。

(1) 日本側の投入

・長期専門家

「疫学/プロジェクト調整」 1人×55MM

「卒後研鑽/広域管理」 1人×25MM

・短期専門家

診断技術 1MM (年間)

・第三国専門家

アルゼンチンより診断技術研修の講師派遣

- ・研修員
協力対象4カ国からのアルゼンチンでの受入れ
- ・機材供与
- ・在外事業強化費等

(2) アルゼンチン側の投入

- ・ 第三国専門家の派遣（派遣経費を除く）
- ・ 第三国研修員の受入れ
- ・ C/Pの配置、施設・土地提供、研修実施にかかる費用その他

(3) ポリビア側の投入

- ・ C/Pの配置、施設・土地提供、研修実施にかかる費用その他

(4) パラグアイ側の投入

- ・ C/Pの配置、施設・土地提供、研修実施にかかる費用その他

(5) ウルグアイ側の投入

- ・ C/Pの配置、施設・土地提供、研修実施にかかる費用その他

1 - 5 評価方法

1 - 5 - 1 評価項目

プロジェクトの評価は、次の項目1～3に基づき実施された。

(1) 項目1：達成度の測定

プロジェクト計画〔討議議事録（R/D）、ミニッツ、PDM及びPO〕と比較した、投入、活動の進捗、成果と目標の達成度の確認

(2) 項目2：プロジェクトの実施プロセスの確認

(3) 項目3：評価5項目

次に示す5つの判断基準の観点から評価が実施された。

1) 妥当性

プロジェクトの計画に対する妥当性は、対象国の開発政策や受益者のニーズの内容、更にはPDM上のさまざまなレベルで設定されている目的との関連性から、プロジェクトの目標と上位目標の有効性を確認し、評価する。

2) 有効性

プロジェクトの有効性は、PDMにおけるプロジェクトの目標の達成の程度、またはどの程度達成が期待され得るのかを、プロジェクトの成果からの関係から評価する。

3) 効率性

プロジェクト実施における効率性を、PDM上で示されているプロジェクトで期待される

成果と投入の関係に主眼を置いて、タイミング、質、量の点から評価する。

4) インパクト

インパクトは、プロジェクトの結果によって生じた、意図したものまたは意図しなかったもの、直接的な、または間接的な正と負の変化である。ここでは、プロジェクトが意図して実施してきた前向きな変化によってもたらされたPDM上位目標に関連するインパクトも含む。

5) 自立発展性

プロジェクトの自立発展性は、制度的な観点、財政的な観点、技術的な観点で、プロジェクト終了後に、プロジェクトの成果がどの程度自立していくか、拡大していくかを確認して、評価する。

1 - 5 - 2 評価手法

プロジェクトは評価チームによって評価される。評価チームは、プロジェクトサイトの訪問、日本人専門家やプロジェクトのスタッフからのインタビューを実施する。

プロジェクトの評価を適切にかつ効率的に実施するために、評価チームはプロジェクト・サイクル・マネジメント（PCM）手法を活用する。この手法は、プロジェクトの各要素の関係を論理的に示したPDMをベース（基礎）としている。

評価チームは、PDMの内容に基づいて、評価5項目の観点から、プロジェクトを分析、評価する。また、達成度や評価グリッドに結果を取りまとめ、最終的には、一連の提言を抽出する。

第2章 調査結果

2 - 1 現地調査結果の概要

調査結果の概要は次のとおり。

(1) 終了時評価報告書の作成

日本側評価団とアルゼンチン側評価団で合同評価チームを結成し、日本側が事前に収集、整理した各国別の情報を基に、客観的、公正的な観点から、プロジェクト活動の進捗、成果の達成度を関係4カ国別に調査、評価した。評価内容は終了時評価報告書としてまとめ、5月20日に日本とアルゼンチン双方の評価団長によって署名交換し、JCCにおいてその内容を説明し、了承された。

(2) プロジェクト活動の進捗、成果・目標達成度の概況

PDM Ver.2に基づき、対象4カ国別に活動の進捗、成果・目標の達成度を確認した。

獣医学部の能力向上や、診断や研究のための環境改善（ラボ整備）については、国によればらつきは見られるものの、機材や専門家の投入、研修やOJTの実施によって目標がほぼ達成されていた。しかし、獣医学部以外の研究所や現場獣医師に対する能力向上の機会については、その機会が十分に確保できていたとはいえず、今後とも既存の制度を拡充させるような形で継続・発展させていく努力が各国に期待される。

各国が取りまとめて作成する、対象疾病に係る情報提供については、アルゼンチンばかりでなくほか3カ国ともに研究報告書や疾病調査レポート、診断マニュアルなどが作成されており、多くの成果を確認することができた。

署名が遅れたことにより本協力に1年遅れて参加したウルグアイについて、中間評価調査時には「活動の実績が十分に得られず、成果の達成度が低調」という評価を受けたが、その後活発にプロジェクト活動を進めてきたことによって遅れを取り戻し、今回の調査時にはその予定された成果がほぼ達成されていた。

2 - 2 プロジェクトの実績

プロジェクトに対する投入実績、プロジェクト活動の進捗、成果と目標の達成度は次のとおり。なお、評価に先立ち、関係機関から提出されるプロジェクト活動進捗に関する情報は必ずしも十分に整理されていなかったため、別にプロジェクト事務所がまとめた研修や専門家、機材などの投入実績、プロジェクト成果品リストなどを精査し、不足部分は改めて関係者から確認を取ることによって定量的な分析を実施した。

2 - 2 - 1 日本の投入実績

プロジェクトに対する日本側からの投入結果は以下のとおり。

(1) 専門家派遣

(1-1) 長期専門家

「疫学情報資源整備/プロジェクト運営管理」の長期専門家を53MM、プロジェクトに

派遣されている。また、「再教育システム/広域業務調整」の長期専門家を20MM、プロジェクトに派遣された。

(1-2) 短期専門家

「新興・再興感染症診断」を0.5MM、「鶏病診断技術」を0.5MM、「病理学」を0.6MM、「家畜疾病防除」を0.6MM、「家畜疾病防除」を0.4MM、「人獣共通感染症診断技術」を0.67MM、計6人の短期専門家がプロジェクトに派遣された（詳細は付属資料3「合同評価報告書」参照）。

(1-3) 第三国専門家

アルゼンチン ラ・プラタ大学から、ボリビア、パラグアイ、ウルグアイに、狂犬病予防、ガンボ口病、PCR診断技術、牛・ヒツジの流産診断、ブタと鶏のサルモネラ症診断などの分野、また、SENACSAから、ボリビアに、牛ブルセラ病診断抗原作成の分野で第三国専門家を派遣した（詳細は付属資料3「合同評価報告書」参照）。日本側は、この派遣に関する経費のうち、派遣費（旅費、宿泊費等）を負担した。

(2) 機材供与（2010年3月現在）

アルゼンチンに対してReal Time PCR、ボリビアに対して顕微鏡、パラグアイに対してクリーンベンチ（Clean Bench）、ウルグアイに対して偏光顕微鏡（Polarizing Microscope）など、4カ国に対して総額81万270米ドル（=7,511万2,000円、換算レート1米ドル=92.70円）の機材の投入を行った。

(3) 本邦研修

期間中、本邦研修の実施実績はなかった。

(4) プロジェクト運営経費負担（2010年3月現在）

プロジェクトの運営経費として、日本側から総額130万2,448米ドル（=1億2,073万7,000円、換算レート1米ドル=92.70円）の経費負担がなされた。

2 - 2 - 2 アルゼンチンの実績

(1) 投 入

1) 第三国専門家

アルゼンチン ラ・プラタ大学から、ボリビア、パラグアイ及びウルグアイに、狂犬病予防、ガンボ口病、PCR診断技術、牛・ヒツジの流産診断、ブタと鶏のサルモネラ症診断などの分野で第三国専門家を派遣した。アルゼンチン側は、この派遣に関する経費のうち、人件費を負担した。2010年までに、総額23万4,000アルゼンチンペソ（=7万8,000米ドル、換算レート1米ドル=3ペソ）が負担された。

2) プロジェクト実施経費

アルゼンチンで実施する獣医師の研修、ラボの整備費用、業務調整関連、事務所の光熱費など、プロジェクト実施経費として、2010年までに総額56万1,900アルゼンチンペソ（=18万7,300米ドル、換算レート1米ドル=3ペソ）が支出された。

3) プロジェクトスタッフ

プロジェクト運営関連スタッフ、各国との調整役として、ジェネラル・コーディネータ、アシスタント・コーディネータ、プロジェクト・オフィサーが配置された。

4) その他

プロジェクト事務所、車両、運転手等の配置がなされた。

(2) アルゼンチンでのプロジェクトの達成度

1) アルゼンチンの活動の進捗

PDM Ver.2に基づくアルゼンチンのプロジェクト活動達成度は次のとおりである。

活動項目	達成度
1.1. ラ・プラタ大学獣医学部の必要に基づく研修計画を作成する。	・必要な研修内容が把握され、研修計画及びカリキュラムが作成された。
1.2. ラ・プラタ大学獣医学部教員群に対する診断技術の研修を行う。	・以下のとおり、研修が実施された。 コース(1) マイコプラズマ症肺炎遺伝子学的診断技術 (2) ブタと鶏のサルモネラ症遺伝子学的診断技術コースの参加者人数:(1) 20人、(2) 10人
1.3. ラ・プラタ大学獣医学部教員群に疫学技術の研修をする。	・疫学入門コースの研修が2回実施され計70人が参加した。
2.1. ラ・プラタ大学獣医学部教員群に診断技術のOJTを行う。	・日本人短期専門家が分子診断技術に係るOJTを実施し、その技術を修得したラ・プラタ大学教官が、研修や第三国専門家としての活動を通して、3カ国の大学教員に更なる技術移転を行った。
2.2. ラ・プラタ大学獣医学部教員群に疫学技術のOJTを行う。	・日本人長期専門家が疫学技術に係るOJTを実施し、その技術を修得したラ・プラタ大学教官が、研修や第三国専門家としての活動を通して、3カ国の大学教員に更なる技術移転を行った。
3.1. 必要に基づくラボの機材の設置消耗品の設置、建物の改修計画をつくる。	・既存の機材、消耗品、建物を把握し、設置及び改修計画を作成した。
3.2. 家禽病理ラボの建物の改修をする。	・家禽病理ラボが、OIEにより勧告された生物安全基準を満たす建物に改修され、生物安全性の要件を満たす運用が行われているかSENASAによりモニタリングがされた。
3.3. プロジェクトのテーマに関係するラボの機材、消耗品を設置する。	・安全キャビネットクラスII、リアルタイムPCR用機材、ELISA用機材、高速遠心器、フリーザーなど、さまざまな機材が設置され、使用実績をモニタリングしている。 ・数多くの消耗品が供与され、診断・研究に活用されている。

活動項目	達成度
4.1. 4カ国の獣医学部間でネットワーク形成についての規準づくりの検討と合意をする。	・ 中間評価時より採用されたアルゼンチンコーディネータを中心とした運営、ネットワークが定着している。
4.2. プロジェクトのウェブサイトを立て上げる（プロジェクトの一般情報、ニュース、メール、図書館、調査研究報告書）。	・ ウェブサイトが立ち上げられた。 （ http://provetsur.net/ ） ・ ウェブサイトの情報が適宜更新され、定期的にアクセス数がモニタリングされている。 ・ イペロアメリカ獣医予防疫学会が発足され、本学会の情報ネットワーク運営管理をラ・プラタ大学が負うこととなった。プロジェクトにおける情報ネットワークを、学会の情報ネットワークへと発展的に移行させ、プロジェクト終了後におけるウェブサイトの管理も合わせて実施していくという作業を進めている。

2) アルゼンチンで期待される成果の達成度

PDM Ver.2に基づくアルゼンチンの成果の評価は次のとおりである。

成果の項目	達成度
1. ラ・プラタ大学獣医学部の育成中の教員が診断と疫学についての技術を訓練されている。	・ 2種類の診断技術研修（分子診断）が実施され、30人の若手教員が参加した。 ・ 疫学入門コースを2回実施し、計70人の若手教員が参加した。 ・ 日常業務を通じて研鑽に努めている。
2. ラ・プラタ大学獣医学部の教員たちがプロジェクト参加の3カ国の大学教員に診断と疫学技術を移転する能力が身についている。	1. 以下の研修員を3カ国から受け入れた。 2005年度受入（12人：ポリビア4、パラグアイ4、ウルグアイ4） 2006年度受入（10人：ポリビア4、パラグアイ4、ウルグアイ2） 2007年度受入（14人：ポリビア5、パラグアイ4、ウルグアイ5） 2008年度受入（10人：ポリビア3、パラグアイ4、ウルグアイ3） 2009年度受入（14人：ポリビア4、パラグアイ6、ウルグアイ4） 延べ人数：60人（男性23人、女性37人） 2. 以下の専門家が3カ国へ派遣された。 2005年度派遣：0、2006年度派遣：9、2007年度派遣：8、2008年度派遣：8、2009年度派遣：17延べ人数：42人（診断33人、疫学9人、男性29人、女性13人）

成果の項目	達成度
3. ラ・プラタ大学獣医学部の診断と研究の環境が改善する。	・事前調査時に必要とされた整備状況と照らし合わせて次のとおり整備が実施された。 家禽病理学：整備済み、ウイルス学：整備済み、微生物学及び食品衛生学：整備済み。
4. ラ・プラタ大学獣医学部の調整による診断・疫学情報の広域ネットワークが確立する。	1. 中間評価時より採用されたアルゼンチンコーディネータを中心とした運営、ネットワークが定着している。 2. プロジェクトウェブサイトへのアクセス件数が下記のとおり上昇している。 1万371 (2006.5～2007.4)、1万1,795 (2007.5～2008.4)、1万4,560 (2008.5～2009.4)、1万7,800 (2009.5～2010.4)

3) アルゼンチンのプロジェクト目標の評価

目標の項目	達成度
広域目標 プロジェクトのテーマに関するレポートがつくられる。	・以下の研究成果が発表された。 2006年 査読付論文3編、2007年 査読付論文8編 2008年 調査報告書2編、2009年 査読付論文6編、調査報告書1編 ・延べ人数であれば5カ年間で30人のラ・プラタ大学教官を共著者とするレポートの公刊はなされている。
国目標 ラ・プラタ大学獣医学部の当該分野の能力が向上する。	・2005～2009年にかけては以下のとおり上昇した。 2005～2006年：18.6%、2006～2007年：34.8% 2007～2008年：11.5%、2008～2009年：15.5%

2 - 2 - 3 ポリビアの実績

(1) 投入

1) プロジェクト実施経費

インフラ整備費、機材の設置と維持管理経費など2010年3月までに総額5万6,355米ドルが負担された(ここには関係者の賃金は含めない)。

2) プロジェクトスタッフ

プロジェクト運営関連スタッフとして、国コーディネータが配置された。なお、ラボ、疫学情報などの分野で7人の技術分野のC/Pが配置されている。

3) その他

プロジェクト事務所、ラボ、車両等の配置がなされた。

(2) ボリビアでのプロジェクトの達成度

1) ボリビアの活動の進捗

PDM Ver.2に基づくボリビアのプロジェクト活動の評価の概要は次のとおりである。

活動項目	達成度
1.1. ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部の必要に沿ったトレーニング計画及び研究計画をつくる。	・プロジェクトの目的に沿って研修計画を策定した。
1.2. ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部の若手教員に診断技術のトレーニングコースを行う。	・ガブリエル・レネ・モレノ大学若手研究員8人がラ・プラタ大学で診断技術に関する研修を受けた。
1.3. ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部の若手教員に疫学技術のトレーニングコースを行う。	・獣疫学入門コースなど5種類の疫学に係るセミナーを開催した。
1.4. ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部の若手教員に診断技術のOJTを行う。	・延べ11人のアルゼンチン人及びパラグアイ人専門家が派遣され、診断に係るOJTを実施した。
1.5. ガブリエル・レネ・モレノ大学の若手教員に疫学技術のOJTを行う。	・5人のアルゼンチン人専門家及び日本人長期専門家が派遣され、疫学技術についてのOJTを実施した。
1.6. プロジェクトにかかわるガブリエル・レネ・モレノ大学の教員にラボにおける診断技術の更新コースをする。	・ガブリエル・レネ・モレノ大学若手研究員3人がラ・プラタ大学で診断技術に関する更新コースを受けた。
1.7. 研究を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・狂犬病に関し、5編の査読付論文を投稿し、うち4編は既に掲載済み。更に2編を作成中。 ・白血病及び牛ブルセラ病に係るレポートを作成中。
2.1. 大学以外の獣医の必要に沿ったトレーニング計画をつくる。	・トレーニング計画を策定し、それに沿ってラボ及びフィールド獣医師に対する研修のために、5種類（鳥インフルエンザ+小規模養鶏、狂犬病、牛ブルセラ病、診断技術）の普及マニュアルを作成した。
2.2. 上記の獣医に対し、診断技術のトレーニングコースを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・LIDIVETの技術者1人がラ・プラタ大学で診断技術に関する研修を受けた。 ・LIDIVET研究員、SENASAG行政官等が、牛白血病等の診断に係るセミナーを受講し、また鶏病疫学セミナーにおいても診断技術についての研修を受けた。 ・畜産学術集会において狂犬病のワークショップを主催し、各レベルの獣医師が約100人参加した。
2.3. 上記の獣医にサンプリング技術のトレーニングコースを行う。	・サンタクルス市役所等の約30人の獣医師が獣疫学入門コースを受講し、サンプリング技術について学んだ。

活動項目	達成度
3.1. 必要に基づくラボの機材の設置、消耗品の設置、建物の改修計画をつくる。	・ SENACSAより専門家を受け入れ、牛ブルセラ病抗原製造に必要な機材・消耗品類及びラボの改修に係る調査を実施し、計画を策定した。
3.2. ラボの建物の改修をする。	・ 牛ブルセラ病診断抗原製造のためにPROVETSURラボ内細菌部門の改修工事を実施した。 ・ 狂犬病監察犬舎が建設され、活用されている。
3.3. プロジェクトのテーマに関係するラボの機材、消耗品を設置する。	・ 安全キャビネットクラス 、リアルタイムPCR用機材、及びELISA用機材などが設置された。

2) ポリビアで期待される成果の達成度

PDM Ver.2に基づくポリビアの成果の評価は次のとおりである。

成果の項目	達成度
1. ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部の教員の能力が向上する。	・ ガブリエル・レネ・モレノ大学若手研究員8人がラ・プラタ大学でPCR等の診断技術に関する研修を受け、業務に活用している。 ・ ラボ技術に関し、11人の教官が研修を受け、業務に活用している。
2. 大学以外の獣医の能力が向上する。	・ LIDIVETの技術者1人がラ・プラタ大学で診断技術に関する研修を受けた。 ・ 各レベルの獣医師が、診断セミナー、鶏病疫学セミナー、狂犬病ワークショップ等に参加し、診断技術についての研修を受けた。
3. ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部の診断と研究の環境が改善する。	・ 牛ブルセラ病診断抗原製造のためにPROVETSURラボ内細菌部門の改修工事を実施し、安全キャビネットクラス が設置された。 ・ 狂犬病監察犬舎が建設され、活用されている。

3) ポリビアのプロジェクト目標の評価

目標の項目	達成度
広域目標 プロジェクトが扱う疾病についての情報がつくられる。	・ 狂犬病に関し、5編の査読付論文を投稿し、うち4編は既に掲載済み。更に2編を作成中。 ・ 牛白血病に係るレポートを作成中。 ・ 鳥インフルエンザ等に関する普及マニュアルを作成した。
国目標 ポリビアの家畜疾病診断能力が向上する。	・ ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部において以下の5疾病が新たに診断できるようになった。 狂犬病、ニューカッスル病、牛ブルセラ病（3種の診断液を製造）、馬伝染性貧血、牛白血病

	次の診断技術が新たに実施可能になった。 血清診断（HI、HA、ELISA、BPA、AGID） 分子診断（PCR）
--	--

2 - 2 - 4 パラグアイの実績

(1) 投入

1) プロジェクト実施経費

施設維持管理費、専門家活動経費など、2010年3月までに総額1億160万グアラニー（G.）（=2万320米ドル、換算レート1米ドル=5,000G.）が負担された（ここには関係者の賃金は含まない）。

2) プロジェクトスタッフ

プロジェクト運営関連スタッフとして、国コーディネータが配置された。なお、家禽病学、家禽血清学などの分野で6人の技術分野のC/Pが配置されている。

3) その他

プロジェクト事務所、ラボ、車両等の配置がなされた。

(2) パラグアイでのプロジェクトの達成度

1) パラグアイの活動の進捗

PDM Ver.2に基づくパラグアイのプロジェクト活動の評価の概要は次のとおりである。

活動項目	達成度
1.1. アスンシオン大学獣医学部の必要に沿ったトレーニング計画及び研究計画を作成する。	・計画はPDM Ver.2に沿って策定された。
1.2. アスンシオン大学獣医学部教員に診断技術のトレーニングコースを行う。	・研修員の受入枠や研修対象分野の人材の制約があるなか、延べ22人がラ・プラタ大学で集団もしくは個別研修を受講した。
1.3. アスンシオン大学獣医学部教員に疫学技術のトレーニングコースを行う。	・獣医疫学入門コースなど4種類の疫学に係るセミナーを開催した。
1.4. アスンシオン大学獣医学部の教員に診断技術のOJTをする。	・延べ11人のアルゼンチン人専門家が派遣され、主として鶏病診断に係るOJTを実施した。
1.5. アスンシオン大学獣医学部の教員に疫学技術のOJTをする。	・2人のアルゼンチン人専門家及び日本人長期専門家が派遣され、疫学技術についてのOJTが実施された。
1.6. 研究を実施する。	・ガンボ口病に関し、3編の査読付論文を投稿し、既に掲載されている。 ・ガンボ口病に係る野外実験や調査を実施した。 ・ブタと鶏が保菌するサルモネラ菌のセロタイプについて調査を実施した。

活動項目	達成度
2.1. 大学以外の獣医の必要に沿ったトレーニング計画をつくる。	・研修計画は作成されていない。
2.2. 上記獣医に診断技術のトレーニングコースを行う。	・SENACSAの7人の獣医師に対しブタと鶏のサルモネラ症の分子診断についてOJTを実施した。また4人が最新診断技術に係る研修を受講した。
2.3. 上記獣医にサンプリング技術のトレーニングコースを行う。	・上記研修において、サンプリング技術についてのトレーニングも実施した。
3.1. 必要に基づくラボの機材の設置、消耗品の設置、建物の改修計画をつくる。	・改修計画により解剖室が建設される予定である。
3.2. ラボの建物の改修をする。	・家禽病理ラボ内部のデザインを基準に沿って変更したが、改修は行っていない。 ・近々焼却炉を備えた解剖室を建設予定である。
3.3. プロジェクトのテーマに関係するラボの機材、消耗品を設置する。	・安全キャビネットクラス、ELISAやPCRに係る機材が設置され、診断に活用されている。

2) パラグアイで期待される成果の達成度

PDM Ver.2に基づく整理されたパラグアイの成果の評価は次のとおりである。

成果の項目	達成度
1. アスンシオン大学獣医学部の教員の能力が向上する。	・研修員の受入枠や研修対象分野の人材の制約があるなか、延べ22人がラ・プラタ大学で集団もしくは個別研修を受講した。
2. ラボ及び現場の獣医師の能力が向上する。	・SENACSAの7人の獣医師に対しブタと鶏のサルモネラ症の分子診断についてOJTを実施した。また4人が最新診断技術に係る研修を受講した。
3. アスンシオン大学獣医学部の診断と研究の環境が改善する。	・安全キャビネットクラス が設置され、かつ家禽病理ラボ内部のデザインを基準に沿って変更した。 ・供与された機材については有効に活用されている。

(3) パラグアイのプロジェクト目標の評価

目標の項目	達成度
広域目標 プロジェクトが扱う疾病についての情報がつくられる。	・ガンボ口病に関し、3編の査読付論文を投稿し、既に掲載されている。 ・ウルグアイの学会において、鶏及びブタの疾病発生状況についての招待講演を行った。 ・ガンボ口病に係る実験・調査結果を2編まとめた。 ・ガンボ口病に係る集団研修教材を作成した。

目標の項目	達成度
国目標 パラグアイの家畜疾病診断能力が向上する。	1.アスンシオン大学獣医学部において以下の5疾病が新たに診断できるようになった。 ブタと鶏のサルモネラ症、ガンボロ病、マイコプラズマ症（gallicepicum及びsynobviae）、伝染性気管支炎 2. 次の診断技術が新たに実施可能になった。 ELISA、PCR、免疫磁気ビーズ法、病理解剖、免疫組織染色法

2 - 2 - 5 ウルグアイの実績

(1) 投 入

1) プロジェクト実施経費

微生物学科の研究室建設、病理学の研究室建設などプロジェクトに関連して、総額16万2,000米ドルの予算が組まれた（ここには関係者の賃金は含めない）。

2) プロジェクトスタッフ

プロジェクト運営関連スタッフとして、国コーディネータが配置された。なお、微生物学などの分野で3人の技術分野のC/Pが配置されている。

3) その他

プロジェクト事務所、ラボ、車両等の配置がなされた。

(2) ウルグアイでのプロジェクトの達成度

1) ウルグアイの活動の進捗

PDM Ver.2に基づくウルグアイのプロジェクト活動の評価の概要は次のとおりである。

活動項目	達成度
1.1 .共和国大学獣医学部の若手教員に家畜疾病診断のトレーニングコースを行う。	・ JCCの計画に従い研修が実施された。
1.2 .共和国大学獣医学部の若手教員に域内のラボにおけるOJTを行う。	・ 延べ13人のアルゼンチン人専門家が派遣され、診断技術に係るOJTが実施された。
1.3 .研究を実施する。	・ 2編の査読付論文、3編の研究報告書、2編の調査報告書がまとめられた。
2.1 .共和国大学獣医学部においてラボの獣医向けの診断コースを行う。	・ ラボ技術理論コースを実施し、50人が参加した。
2.2 .共和国大学獣医学部においてラボの獣医にOJTを行う。	・ 獣医学会分科会においてラボ技術実習コースを実施し、20人が参加した。

活動項目	達成度
3.1. 共和国大学獣医学部において現場の獣医に対して家畜疾病診断のコースを行う。	・現場の獣医師を対象とする研修コースは実施されなかったが、獣医学部及び試験場にて実施された研修に、予定されていた現場獣医師数の80%が参加した。
3.2. 疾病診断に関する活動のための指導マニュアルを発展させる。	・3つの診断技術（ELISA、PCR、間接蛍光抗体法）に関するマニュアルを作成しその普及に努めた。
4.1. 必要に基づくラボの機材の設置、消耗品の設置、建物の改修計画をつくる。	・獣医学部の移転に向けた政府承認が行われ、予算措置を待っている。
4.2. ラボの建物の改修をする。	・予算的な制約、及び学部の移転計画により、国際基準に沿ってのラボ整備は実施されなかった。
4.3. プロジェクトのテーマに関係するラボの機材、消耗品を設置する。	・安全キャビネットクラス 及びPCR、ELISA、細胞培養に係る機材類が設置され、診断及び研究に活用されている。

2) ウルグアイで期待される成果の達成度

PDM Ver.2に基づくウルグアイの成果の評価は次のとおりである。

成果の項目	達成度
1. 共和国大学獣医学部の教員の能力が向上する。	・共和国大学の延べ18人の若手教員がラ・プラタ大学で研修を受けた。
2. ラボの獣医の能力が向上する。	・DILAVEの研究者1人がラ・プラタ大学で研修を受けた。 ・高病原性鳥インフルエンザ及びラボ診断技術に係るセミナーを実施し、農業省、獣医学部、農業研究所、民間ラボから約130人が参加した。
3. 現場の獣医の能力が向上する。	・現場の獣医師を対象とする研修コースは実施されなかったが、獣医学部及び試験場にて実施された研修に、予定されていた現場獣医師数の80%が参加した。
4. 共和国大獣医学部の診断と研究の環境が改善する。	・予算的な制約、及び学部の移転計画により、国際基準に沿ってのラボ整備は実施されなかった。

3) ウルグアイのプロジェクト目標の評価

目標の項目	達成度
広域目標 プロジェクトが扱う疾病についての情報がつくられる。	1. 3つの診断技術（ELISA、PCR、間接蛍光抗体法）に関するマニュアルが作成された。 2. 2編の査読付論文、3編の研究報告書、2編の調査報告書がまとめられた。
国目標 ウルグアイの家畜疾病診断能力が向上する。	1. 共和国大獣医学部において以下の9疾病が新たに診断できるようになった。 IBR、BVD/MD、キャンピロバクター症、トリコモナス症、ネオスポラ症、クラミジア症、マイコプラズマ症、Orthobacterium rhinotracheale感染症、鶏ニューモウイルス症 2. 次の診断技術が新たに実施可能になった。 ELISA、PCR、間接蛍光抗体法

2 - 2 - 6 広域の実績

(1) 広域でのプロジェクトの達成度

1) 広域活動の進捗

PDM Ver.2に基づく広域活動の評価の概要は次のとおりである。

活動項目	達成度
1-1. 広域調整システムのためのJCCを組織する。	・JCCが組織されており、2006年5月に初回の運営委員会及びJCCをもった。
1-2. 年1回定期的なJCC会議を域内で開催する。	・定期的に行われており、上記初回のあとは次のとおり開催された。 第2回：2007年5月、第3回：2008年7月、第4回：2009年3月、第5回：2009年5月（運営委員会のみ）
2. 各国の活動を実施する（各国のPDMの活動を参照）。	各国の評価表を参照。
3-1. 広域研究計画を作成する。	・必要な研究内容を検討のうえ、研究計画が作成され、JCCにより承認された。 ・長期専門家による調査研究デザインセミナーが実施された。 ボリビア：2006年6月、パラグアイ：2008年4月、ウルグアイ：2008年3、8月
3-2. 各国コーディネータが広域研究に参加する者を選ぶ。	・参加者が選任された。 アルゼンチン：25グループ（56人） ボリビア：5グループ（24人） パラグアイ：7グループ（31人） ウルグアイ：9グループ（38人）

活動項目	達成度
3-3. 当該分野の調査研究を行い、研究レポートを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究数：26本 ・調査研究内容： <ul style="list-style-type: none"> アルゼンチン：鶏呼吸器病有病率等（17本） ポリビア：狂犬病抗体保有率調査等（4本） パラグアイ：鶏呼吸器病の全国リスク・マッピング等（3本） ウルグアイ：反芻獣の流産関与病原体の有病率調査等（2本）
4-1. 2008年末までに4獣医学部間で、プロジェクトで作成した情報の発信についてのクライテリアに関する規則をつくる。	・2009年3月の運営委員会の一議事として検討会が開催され、規則が作成された。
4-2. 2009年初めから承認されたすべてのレポートを獣医師及び生産者向けに著者によりスペイン語によって加工する。	・26編の論文が承認され、そのうち7編が獣医師及び生産者向けに加工された。
4-3. 2009年初めから加工された情報をプロジェクトのウェブサイトまたはニュースレターに配信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに7編の加工された論文がウェブサイトで配信された。 ・2本のニュースレターが配信された。
4-4. 2009年初めから加工された情報を専門家によるセミナーや印刷物によって広報する。	<ul style="list-style-type: none"> ・15回のセミナーで加工された情報が広報された。 ・7月に開催されるシンポジウムにおいて26編の査読付論文を加工して、スペイン語印刷物として配布する予定である。

2) 広域プロジェクトの成果の達成度

PDM Ver.2に基づく広域の成果の評価は次のとおりである。

成果の項目	達成度
1. 広域調整システムがつくられる。	・定期的に関係者による運営委員会及びJCCが開催されている。
2. プロジェクトのテーマに関するレポートが作成される。	・各国ニーズに沿った研究をデザインし、その成果レポートが作成されてきている。
3. 広域研究グループがつくられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・26の研究グループが形成され、すべてのグループがそれぞれの研究を実施終了した。 ・26編の査読付論文が出版された。
4. 現場獣医や生産者が利用可能な情報が普及している。	<ul style="list-style-type: none"> ・公刊された英論文を加工し、配信されている。 ・セミナーでの引用、紹介は積極的に行っている。

3) 広域プロジェクト目標の評価

目標の項目	達成度
域内獣医の業務においてプロジェクトによってつくられた情報が活用される。	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトウェブサイトへのアクセス件数が下記のとおり上昇している。 1万371 (2006.5 ~ -2007.4)、1万1,795 (2007.5 ~ 2008.4)、1万4,560 (2008.5 ~ 2009.4)、1万7,806 (2009.5 ~ 2010.4) ・メーリングリスト登録者数の伸びからすれば、活用者の増加が考えられる。 47人 (2006.5 ~ 2007.4) 62人 (2007.5 ~ 2008.4) 89人 (2008.5 ~ 2009.4) 108人 (2009.5 ~ 2010.4)

2 - 3 課題別分析

2 - 3 - 1 家畜疾病診断技術

(1) アルゼンチンにおける診断・疫学技術の向上

20年近くラ・プラタ大学獣医学部において実施されてきた家畜衛生・疾病診断技術改善に係る協力の成果により、当獣医学部には診断技術の基礎が根づいており、多数の教員が新しい技術を取り入れた研究活動を実施している。当プロジェクトを通しては、機材供与と平行する形で短期専門家によりPCR、リアルタイムPCRといった最新の診断技術が移転され、学部内において既にスタンダードな診断方法として若手教官にも浸透しており、周辺3カ国の人材を育成するための基盤は十分に醸成されたと評価できる。

疫学技術については、これまでも獣疫学がカリキュラムの1つとして含まれていたが、長期専門家の指導の下、新しいソフトを導入し、教科書をバージョンアップするなどの改善が実施された。空間情報解析といった応用疫学の技術も移転され、教育内容が大幅に充実した。また、新たに「獣医学における生物統計学マニュアル」を編纂し、地域における生物統計学の標準テキストとして期待されている。大学内における獣疫学の研修は、獣医学部教官に対する再教育コースとして認可されるなど、さまざまな成果を上げている。2009年末にはイベロアメリカ獣医予防疫学会が発足され、その情報ネットワーク運営管理をエルサルバドルの国際農牧衛生地域機関(OIRSA)とラ・プラタ大学が行うことになった。現在、疫学研究室が中心となってプロジェクトの情報発信を担っているホームページも、その情報ネットワーク内へ発展的に融合されていく予定である。

(2) ボリビアにおける診断・疫学技術の向上

ガブリエル・レネ・モレノ大学はプロジェクト開始前まで研究のためのラボをもっていなかった。しかし、プロジェクトによる機材の供与を受け、既存施設を改修・改善し、プロジェクトの名前を冠したPROVETSURラボを創設した。研究員も新たに7人雇用し、彼らを含む延べ19人の若手教員がラ・プラタ大学で研修を受け、HA、HI、ELISA、リアルタイムPCR、平板凝集試験、AGIDなどの診断技術を習得した。その結果現在では、狂犬病、ニューカッスル病、牛ブルセラ病、馬伝染性貧血、牛白血病などの診断が可能となった。特

に狂犬病については市当局や国の機関であるLIDIVETと連携してコントロールに尽力し、人における感染者の数が減少したことは特筆に値する。これらの調査・研究結果は、既に5編の査読付論文にまとめられており、更に2編を作成中である。

加えてSENACSAより2人の第三国専門家の派遣を得て、ブルセラ病診断液の生産技術を習得し、3種類の診断液を製造できるようになったことはもうひとつの大きな成果といえる。

(3) パラグアイにおける診断・疫学技術の向上

パラグアイにおいては国の課題として、ガンボ口病、マイコプラズマ症、鶏伝染性気管支炎、ブタと鶏のサルモネラ症などの家禽病を中心に上げている。21人の若手教員がラ・プラタ大学で研修を受け、ELISA、PCR、免疫磁気ビーズ法、病理解剖、免疫組織染色法、細菌分離・同定法など幅広く診断技術を学んでおり、上述した課題疾病についての診断が可能となった。プロジェクト開始以前、家禽病については解剖所見から診断をくだしていたという状況にあったことから、機材供与によってラボが整備されたことと相まって、この分野における診断技術が大幅に向上したといえる。実際、外部からの診断依頼が大幅に増えており、プロジェクト成果が目に見える形で発現してきている。特にブタと鶏のサルモネラ症については国の機関であるSENACSAと連携してブタについての疫学調査も実施しており、ブタが数多くのサルモネラ菌セロタイプの感染巣となっていることを明らかにしている。これらの調査・研究結果は、既に3編の査読付論文にまとめられている。

(4) ウルグアイにおける診断・疫学技術の向上

共和国大学18人の若手教員がラ・プラタ大学で研修を受け、ELISA、PCR、間接蛍光抗体法などの診断技術を習得した結果、牛やヒツジに流産を引き起こす感染症（牛伝染性鼻気管炎、牛ウイルス性下痢粘膜病、キャンピロバクター症、トリコモナス症、ネオスポラ症）や家禽病（クラミジア症、マイコプラズマ症、Orthobacterium rhinotracheale感染症、鶏ニューモウイルス症、ガンボ口病）についての診断が可能となった。前者についてはヒツジを対象とした血清学的調査や牛凍結保存精液における感染率調査を実施しており、後者に関しても鶏群における血清学的モニタリング調査を実施し、それぞれ査読付論文にまとめられている。また家禽病診断に関しては、生産者組合などと診断サービスの提供に関する協定を結ぶといったプロジェクト成果の発現がみられる。

2 - 3 - 2 研修・普及システム

(1) アルゼンチンにおける研修・普及システム

アルゼンチンは大学における卒業教育に力を入れており、ラ・プラタ大学獣医学部においても若手教員の診断技術向上や疫学情報の再教育に努めている。そのような国内における流れを受ける形で、ポリビアから20人、パラグアイから22人、ウルグアイから18人の若手教員等を研修員として受け入れ、座学と実習からなるグループ研修と技術に焦点をあてた個別研修を実施している。また、5年間に延べ42人（診断33人、疫学9人）の教員を周辺3カ国へ第三国専門家として派遣し、OJTを中心とした技術移転を行っている。

ラ・プラタ大学内においては人材育成プログラムの一環として、獣疫学入門、調査研究デザイン、ガンボ口病、牛白血病、牛の繁殖障害、新型インフルエンザ、産褥期子宮内

膜炎等のセミナーを大学教員と学生に対して実施した。また関係機関や現場獣医師、生産者を対象としては、高病原性鳥インフルエンザ、ハンタウイルス肺症候群、人獣共通感染症、牛の繁殖障害、獣医疫学入門等のセミナーを実施してプロジェクト成果の普及と獣医師に対する卒後教育に努めている。

(2) ボリビアにおける研修・普及システム

診断で8人、疫学で4人の第三国専門家がラ・プラタ大学から派遣され、新たに雇用された7人の診断ラボスタッフを中心としたガブリエル・レネ・モレノ大学若手教員等に、当該分野のOJTを実施して技術の定着を図っている。また学内において疫学入門、狂犬病、野外調査手法、牛白血病、PCR診断、疫学特論等のセミナーを大学教員と学生を対象に実施した。関係機関や現場獣医師、生産者に対しては、狂犬病予防対策・時空間解析、高病原性鳥インフルエンザ、鶏病疫学、獣医疫学、ブタの生産・衛生等のセミナーを実施してプロジェクト成果の普及と獣医師に対する卒後教育に努めている。LIDIVETからはスタッフ1人がラ・プラタ大学での研修に参加している。

(3) パラグアイにおける研修・普及システム

「若い教員を増やす」という大学の方針と、「若いスタッフを教育する」というプロジェクトの方針が合致し、タイミング良く効率的に大学の新しいスタッフに対してトレーニングを受けさせることができた。ラ・プラタ大学で研修を受けた22人のうち、6人がプロジェクト協力分野の研究者として雇用されている。

診断で11人、疫学で2人の第三国専門家がラ・プラタ大学から派遣され、アスンシオン大学若手教員等に当該分野のOJTを実施して技術の定着を図っている。

また学内において疾病予防対策、鶏病各論、調査研究デザイン、サルモネラ症、獣医疫学入門等のセミナーを大学教員と学生を対象に実施した。後者2つのセミナーに関しては、国の家畜衛生責任機関であるSENACSAのスタッフも招き、プロジェクト成果の普及と獣医師に対する卒後教育に努めている。SENACSAからはスタッフ1人がラ・プラタ大学での研修に参加している。

(4) ウルグアイにおける研修・普及システム

署名が遅れたことによりプロジェクトへの参加が遅れ、成果の発現が他参加国に比べて思わしくなかったが、若手研究者3人を新たに雇用してプロジェクト活動を活発化させたことにより、予定された成果はほぼ達成されている。

診断で13人、疫学で2人の第三国専門家がラ・プラタ大学から派遣され、共和国大学若手教員等に当該分野のOJTを実施して技術の定着を図っている。また学内において実地疫学入門、調査研究デザイン、人獣共通感染症、高病原性鳥インフルエンザ、獣医疫学入門、ラボ診断技術等のセミナーを大学教員と学生を対象に実施した。後者3つのセミナーに関しては、国の家畜衛生責任機関であるDILAVEの研究者等も招き、プロジェクト成果の普及と獣医師に対する卒後教育を実施した。加えて、3つの診断技術(ELISA、PCR、間接蛍光抗体法)に関するマニュアルを作成しその普及にも努めている。ラ・プラタ大学での研修後、DILAVEに転職した教員が1人いる。

2 - 4 プロジェクトの実施プロセス（実施プロセスの課題の抽出、評価）

2 - 4 - 1 日本人専門家の役割

当プロジェクトは2005年8月1日に開始されたが、日本人長期専門家が赴任したのは2006年1月であった。その期間、アルゼンチン側プロジェクト・コーディネータとJICAアルゼンチン事務所担当者が中心となってプロジェクトの運営を担った。ラ・プラタ大学獣医学部がJICAのプロジェクトに慣れていたとはいえ、運営そのものを任されるのは初めてのことであり、また事務所担当者にしても当プロジェクト以外に多くの仕事を抱え多忙であったため、プロジェクトの運営はスムーズに運ばなかった。プロジェクト当初にみられた参加各国間における不信感も、マイナスに働いたといえる。

しかし長期専門家の赴任以来、そういった疑心暗鬼が払拭されて4カ国間の関係も改善され、チームワークが取れるようになってきたということも、各国における聞き取り調査で確認した。つまり、もともと連携する機会の少なかった4カ国を結ぶ広域プロジェクトを実施するためには、触媒となるべき存在が必要であったということであり、当プロジェクトにおいては日本人長期専門家がその役を担ったといえる。このような参加4カ国にとって初めての枠組みとなる広域-南々協力という取り組みを、日本人長期専門家が不在のままスタートさせるという決断には大きな無理があったと考えられる。

2 - 4 - 2 プロジェクトに対するコミットメント

広域プロジェクトにおいては、参加各国が一構成員であるとの認識の下、活動の計画、準備、実施の各段階において遅延のない共同歩調を意識した対応が強く望まれる。また、関係者、関係国間のスムーズな調整は、プロジェクト全体の進捗を左右する重要な要素であり、各国での事務手続きや連絡調整を行う人材については、活動が滞ることのないように適切な人数を適切な期間配置することが不可欠である。

当プロジェクトにおいては、当初各国は相互の信頼感に欠け、足並みの乱れから共同歩調が取れず、POが作成されなかった。JCCが組織されたのも、長期専門家赴任後の2006年5月である。しかし各国にはプロジェクト・コーディネータとして適切な人材が配置されていたことにより、長期専門家の赴任を機に関係者間の調整がスムーズに行われるようになった。また活動が進むにつれ、機材の納入や施設の整備、研修の実施、論文の掲載など、具体的な成果が目に見えるような形で現れてくると、「自分たちのプロジェクトである」という意識が強まり、特にプロジェクトの後半には積極的にプロジェクト活動を進めるようになってきた。各国とも新たに若手教員を補充し、プロジェクト活動にあたらせている。人材が育ちモチベーションが芽生えてきているので、今後各国に期待されるのは、こういった活動を継続させていくための予算確保であろう。

2 - 4 - 3 関係者間のコミュニケーション

これまで、家畜衛生・獣医分野においてメルコスール加盟国間における連携は希薄であり、各国はお互いに不信感を抱いていたという。ウルグアイの署名が遅れ、活動開始がほか3カ国に比べて1年遅れた原因も、そういった不信感にあることは否めない。そのような国々が介在者を伴わずにプロジェクトを開始したのであるから、プロジェクトの運営が滞ったのも当然の成り行きといえる。そういった状況下に長期専門家が赴任し仲介者となることで、各国間に立ちは

だかっていた壁に風穴があき、4カ国間の連携は改善へと動き出した。また、研修員受入れや第三国専門家派遣などといったアルゼンチン側のプロジェクトに対する関与が深まって成果が発現してくると、おのずと各国の関心が高まり人間関係が深まった。プロジェクト活動が進むにつれて関係者間のコミュニケーションが深まり、仲間意識が芽生えてきたと推察される。

活動のモニタリングについても、プロジェクト後半は四半期ごとに各国がAPOに沿った進捗状況をプロジェクト事務所に報告している。プロジェクト事務所とラ・プラタ大学獣医学部は、その報告内容を汲み上げる形で次のPOを組み立てており、そのようなプロジェクト運営が中間評価以降の大きな成果につながったと考えられる。

2 - 4 - 4 獣医師に対するモニタリング

本プロジェクトはターゲット・グループを域内獣医師に設定しており、プロジェクトの成果を彼らに活用してもらうことが上位目標となっている。それゆえ獣医師の現状や要望、卒後研修などの効果を定期的にモニタリングして把握し、その結果を将来的な研修内容や調査・研究に反映させていくことが重要である。

第3章 評価結果

3 - 1 評価5項目による評価結果

プロジェクトの達成度の調査結果を受け、プロジェクトを評価5項目（判断基準）に沿って評価した。なお各評価項目の視点は以下のとおりである。

(1) 妥当性 プロジェクトのめざしている効果（プロジェクト目標や上位目標）がターゲット・グループのニーズに合致しているか、問題や課題の解決策として適切か、当該国及び日本側の政策との整合性はあるか、公的資金であるODAで実施する必要性があるのかといった「援助プロジェクトの正当性・必要性」を問うとともに、プロジェクトの戦略・アプローチは適切かと問う視点。
(2) 有効性 プロジェクトの実施により、ターゲット・グループもしくは社会への便益がもたらされているか（あるいはもたらされるのか）、具体的にはプロジェクト目標の達成度、その達成は成果がもたらしたものが、を問う視点。
(3) 効率性 投入の質、量、タイミングの観点から、投入が活用され、成果が達成されているかを問う視点。
(4) インパクト プロジェクトの実施によりもたらされる、より長期的、間接的な効果や波及効果を見る視点。予期していなかった正・負の効果・影響を含む。
(5) 自立発展性 援助が終了してもプロジェクトで発現した効果が持続するのか（あるいは持続の見込みはあるのか）を問う視点。

3 - 1 - 1 妥当性

（評価）

妥当性はおおむね高いと考えられる。

（判断根拠）

(1) 日本

わが国は、アルゼンチンに対する協力の重点分野として、これまで実施してきた国際協力を生かした南々協力の推進を掲げるとともに、地域が抱える共通の課題を地域全体の開発ニーズとして広域協力を効果的に実施するとの方針をもっている。長年にわたり日本が技術協力を続けてきたラ・プラタ大学獣医学部を中心とした本プロジェクトは、その方針と合致し、極めて妥当性が高いといえる。また、ポリビアやパラグアイにおいては、貧困対策が援助の重点課題として掲げられている。家畜衛生にかかわる人材を育成することは、当該分野の進展に寄与し、衛生管理の改善等が図られることから、畜産が大きな収入源となっている貧困層に裨益すると考えられる。加えて、当プロジェクトの活動を通し、狂犬

病などの人獣共通感染症に係る疾病対策にも力を入れており、人間の安全保障にも貢献している。

(2) アルゼンチン

アルゼンチン政府（文部省）は、大学の国際化を推進する政策をとっており、ラ・プラタ大学獣医学部を核とした広域協力の推進には意欲的である。ラ・プラタ大学はラテンアメリカの獣医学部のなかで最も質の高い教育を提供することをめざしており、広域に学生を受け入れることを推進する方針をとっている。また、アルゼンチン政府の家畜衛生関連分野における責任機関(SENASA)とはスタッフのトレーニングに関する協定を結んでおり、SENASAスタッフの教育を一手に引き受けている。もともと当該機関のスタッフには当獣医学部出身者が多いために、関係は良好かつ密であり、国としての家畜衛生改善に大きく貢献している。

(3) ボリビア、パラグアイ、ウルグアイ

各大学獣医学部は域内獣医師や家畜生産者に適切な診断情報を提供するための広域活動の重要性を認識している。また、各国では大学が現場獣医師を含む卒業した獣医師に対する再教育、情報提供を行う種々の研修コースが実施されている。当プロジェクトの活動を通して移転された診断技術や研究成果、調査結果などが、これら研修コースに反映されてきており、プロジェクト・サイト以外の獣医師にも裨益し、科学的な診断手法が取り入れられるようになってきた。

(4) 政策上の優先度

家畜疾病は家畜生産に甚大な被害を与えるというばかりでなく、家畜から人へ伝播する人獣共通感染症という人の健康にも重大な影響を及ぼす可能性がある疾病もある。このため、OIE/FAOは国境を越えた家畜疾病対策への取り組みを重要と位置づけており、そうした取り組みにこのプロジェクトは整合している。

(5) 地域としての行動計画

現在、当該地域においては、獣医学部間における単位の互換制度を構築する取り組みが進められている。当プロジェクトによる活動を通し、各大学においては、施設の整備が進み、技術レベルが向上し、研究成果が上がってきたことにより、いずれの大学も単位互換制度の取り組みに参加できるまでに発展してきており、本プロジェクトの妥当性は大きいと推定される。

3 - 1 - 2 有効性

(評価)

有効性は高い。

(判断根拠)

各国ともにプロジェクト目標はおおむね達成されており、中間レビューの提言等を踏まえ

た結果、計画、実施、モニタリングなど共同実施体制及び各国におけるプロジェクト運営が有効に機能したためと推察される。現場の獣医師に対する診断技術の普及について、活動が若干弱い傾向がみられたが、プロジェクト関係者のインセンティブやモチベーションはどの国においても非常に高まってきており、今後ともプロジェクトの成果を効果的に普及していくものと期待される。プロジェクトにありがちなC/Pの交代や人材流出など、外部条件に係る問題もほとんど見受けられず、その意味においても有効性が高いと判断される。

当プロジェクトにおいては、研修員の約60%、第三国専門家の約35%が女性であること、また、各国プロジェクト・コーディネータにも女性が1人含まれていることから、ジェンダーに対する配慮がうかがえた。また、各国はプロジェクト活動のさまざまな機会におののの成果を認識することで刺激を受け、互いに切磋琢磨してプロジェクト活動に励んだことがより大きな成果につながっている。これは広域という枠組みが、プロジェクト目標達成に対して効果的に働いた結果と考えられる。

3 - 1 - 3 効率性

(評価)

効率性は国によりばらつきがみられる。

(判断根拠)

日本側の投入はおおむね計画どおり実施されている。投入の活用状況もおおむね良好である。

当初、各国で共通の課題についての研究を進めようとしたため、なかなか話がまとまらずに決定が遅れてしまった。その後、各国はそれぞれ異なる問題を抱えていることから別々のテーマを選ぶという方針に変更され、各国ごとに研究のテーマが決められた。

機材の投入の質・量・タイミングについて、ボリビア及びウルグアイにおいては、一部機材の引き取りが遅れたため、第三国専門家の活動に不都合が生じたことが確認された。また、パラグアイにおいては、指定した仕様の機材が納入されず、同様に第三国専門家の活動に不都合が生じた。

アルゼンチン側のC/Pの投入については、質・量・タイミングとも特に問題はない。

ボリビア側のC/Pの投入は、ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部において、ラ・プラタ大学での研修や第三国専門家によるOJTを通して診断技術を習得した若手スタッフが、診断ラボの職員として採用されている。また、アスンシオン大学獣医学部においても同様に職員が採用されている。

ウルグアイは他国よりもおよそ1年開始が遅れたものの、パラグアイ及びボリビアと同様にプロジェクトの活動を担う若手教員を数名増員しており、プロジェクト後半は活発に活動を推進して、中間評価時には遅れていると指摘を受けていた成果をほぼ達成することができた。

3 - 1 - 4 インパクト

(評価)

マイナスのインパクトは特に生じていない。プラスのインパクトは上位目標の達成の可能性が期待できる。

(判断根拠)

プロジェクトが掲げる上位目標である、「南米南部地域の獣医の家畜疾病診断についての卒業後継続研鑽が推進される」は、今後プロジェクトが家畜疾病診断分野の情報を発信することによる波及効果として実現されることが期待できる。これまでもプロジェクト・ウェブサイトへのアクセス件数や、メーリングリストへの登録数は、年々上昇しており、そういった数字から判断しても当該地域の獣医師が、プロジェクトによる成果を活用している現状がうかがい知れる。

技術的なインパクトとしては、診断能力の向上と、研究成果の報告書作成能力の向上が挙げられる。各大学ともに若手教員の診断能力、特に分子診断能力が大幅に向上しており、供与された機材を活用して活発に疾病診断や調査に取り組んでいる。そして、その結果を論文にまとめて発表しており、このプロジェクトを通して計26編の査読付論文が発表されていることは大きな成果といえる。

また当プロジェクトによるプラスのインパクトとして最も評価されるのは、各大学スタッフ間に強い絆が生まれたことであり、特にラ・プラタ大学とほか3カ国間における関係が深まったことである。以前のような大学間関係ではなく、スタッフ個人個人の顔が見える関係が生まれており、このような利害関係を越えたところにある関係は今後とも長く続くことが推察される。本プロジェクトで培われた関係が、各大学の診断・研究能力の向上だけにとどまらず、今後、域内の家畜衛生分野の進展に大きく貢献することが期待される。

このプロジェクトが始まるまで、獣医分野における「メルコスール」という枠組みは競争の場であったという。しかしそれは「日本」という架け橋を得て助け合う協力の場へと変化した、という話を、5月20日のJCCで聞くことができた。このプロジェクトが彼らにとっていかに大きな意味をもつものであったか、という関係者の思いをこの言葉が表していると考えられる。

3 - 1 - 5 自立発展性

(評価)

引き続き、自立発展性に配慮した取り組みが重要である。

(判断根拠)

(1) 技術面

過去の協力の経験から、関係国において技術面の自立発展性は十分に期待できる。プロジェクトを通して移転された診断技術は、ある特定の疾病ばかりでなく他の疾病にも応用できるものであるから、そういった部分においての情報交換を各国間で行い、地域全体としてのレベル向上につなげていくことが望まれる。

(2) 財政面

財政面も国によって差があるが、特にボリビア及びパラグアイにおいては、プロジェクトで投入された機材のスペアパーツや検査に係る消耗品の調達を国内で行うことが難しい。また、ウルグアイも含め、それらの調達のための予算措置について、今後、適切な対応を考える必要がある。

(3) 組織面

大学を対象とした協力であるため、政治状況の変動による影響を受けにくく、組織としての継続性が十分に期待できる。

3 - 2 結 論

評価チームは、評価調査の結果、当初種々の問題があったものの、中間レビュー以降は順調に実施されたことにより、多くの成果が発現していることが確認できた。評価5項目に関し、妥当性はおおむね高いと判断でき、また、有効性も高いと判断される。効率性に関しては、プロジェクト開始当初に足並みの乱れが生じ、国ごとに差が出る要因となった。一部、プロジェクトの運営において支障を生じさせる懸念があったものの、結果的に大きな不都合は生じなかった。インパクトに関連し、現時点でマイナスの影響が見いだせない。自立発展性に関しては、関係各国による更なる努力が必要である。同じ地域、同じ家畜衛生分野、同じ大学という機関でありながら、交流が非常に乏しかった4カ国の大学が、当プロジェクトを通して非常に深い信頼関係を築きあげることができたことは、プロジェクト関係者の中で広く共有されている。このような関係は努力によって保つことができるものであり、容易に消えてしまうものではない。しかしながら、プロジェクトによって培った技術を活用し、研究を続け、成果を普及していくためには、各国関係機関とのネットワークの構築や実務面での強化もより意識すべきと考える。終了時評価調査を通じて得られたこれら評価結果に基づき、プロジェクト終了後の発展に向けて幾つかの課題が抽出された。そこで、評価チームは、これらに関する改善への提言を行うとともに、今後の類似プロジェクトの実施にあたっての教訓を示すこととする。

第4章 提言と教訓

4 - 1 提言

これまでの評価の結果に基づき、評価チームは、次の事項に対処することをプロジェクトチームに対して提言する。

(1) プロジェクトの今後

本プロジェクトについては、2005年8月の開始から2010年7月までの5年間の予定で実施されてきた。今回の終了時評価調査において、広域及び各国の活動を通じてプロジェクト目標がおおむね達成されていることが確認されたことから、計画どおり2010年7月をもって本プロジェクトは終了する。本プロジェクトを通じて培われた診断技術や疫学技術、各大学との協同体制等のプロジェクトの成果については、各大学の自助努力により維持、発展されるよう今後とも積極的に取り組まれることが望まれる。

本プロジェクトにおいて培われた診断技術等の拡大強化のために更に支援が必要な場合には、JICA事務所と相談のうえ、既存のスキームを活用した協力を検討されることが望ましい。

(2) 自立発展性についての認識向上

プロジェクト活動は、プロジェクト実施機関だけのために行われているのではなく、プロジェクト終了後の自立発展的な活動継続のために行われるものであることを、関係者は強く認識すべきである。各国は活動継続に必要な資金源の確保を図ることもさることながら、診断技術及び疫学技術の自立発展的な向上並びに精度の高いより確実な情報発信を図るため、各国間の診断法の統一化・標準化に向けた取り組みを継続的に実施すべきであり、また統一化・標準化された対象疾病数を増加するよう努めることが望まれる。

(3) 卒後継続研鑽機会の制度化

獣医師は社会の要請に応えるために常に研鑽することが求められる。大学学部における獣医学教育には限界があることから、本プロジェクトで取り組まれた活動を参考に、現場の獣医師のニーズに基づいた卒後継続研鑽を制度化することにより、地域獣医療水準が向上されることが望ましい。さらに、各国間で調整した卒後継続研鑽を制度化することにより、地域共通の課題について質の高い研修が実施されることが期待される。

(4) 行政機関との適切な連携に関する検討

本プロジェクトで行われる活動は、最終的には生産現場における家畜衛生分野のニーズに適切に応えるためのものであり、それゆえ、関係する獣医師の診断に関する能力向上を1つの重要な成果としている。その目的を適切かつ効率的に達成していくためには、各国政府関係機関や獣医関係団体との良好な関係が必要不可欠であるため、プロジェクト活動を通して生まれた関係を礎にして、今後強固なネットワークへと発展させていくべきである。

(5) 診断技術及び疫学技術の能力向上の継続

本プロジェクトでは、大学の若手教員に技術研修を施して能力を向上するという活動は二

ーズに適合し、成果を上げた。特に受益対象3カ国においては獣医学教育が充実しているとは言い難い。大学教員の能力向上は学部学生の教育レベルの改善、現場獣医師への研修提供の前提条件である。本プロジェクトで、ラ・プラタ大学の獣医疫学の若い教員により「獣医学における生物統計学マニュアル」が作成されるなど各大学教員の診断技術等の能力向上が図られてきた。今後とも、調査研究分野で切磋琢磨することにより、診断技術及び疫学技術の能力向上に努めることが望まれる。

(6) 消耗品の購入予算等の確保

プロジェクト終了後、活動によって培われた診断や研究を継続していくためには、試薬やプラスチック類など消耗品の購入や、設置された機材類の維持管理が必要不可欠である。そのため、各大学は、プロジェクト終了後に必要な予算を継続的に確保できるのか、また消耗品等の購入ルートは確実に確保されているのか等を十分に検討し、適切に対応する必要がある。必要な予算を確保する方法として、検査料の徴収や診断液の販売などが考えられるが、生産者組合など関係機関との連携も視野に入れ、各国に適した方法が検討されることが期待される。

なお、各大学は、インキュベーターや冷蔵庫、冷凍庫などの温度管理は、検査結果や試薬類の品質に直接影響を及ぼす要因であることから、バックアップ体制を整備するなど早急な対応が望まれる。

(7) プロジェクト・ウェブサイトの継続・発展

2009年12月、「イペロアメリカ獣医予防疫学会」が発足した。この学会発足は本プロジェクトのネットワークが下地になっている。当該学会には、本プロジェクトで獣医疫学に興味を抱いた獣医師たちが多く参加しており、この分野の活動が活性化されることが期待される。これを足掛かりに、本プロジェクトで構築された情報ネットワークがこの学会と歩調を合わせて発展できるよう、掲載内容の充実や域内の多くの獣医師に幅広く活用されるような積極的な取り組みが継続されることが期待される。

(8) プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) の見直し

現行のプロジェクト計画書であるPDM Ver.2は、プロジェクト中間評価の提言に従って改訂されたものであるが、外部条件が記入されていない。今回の終了時評価では、PDM Ver.2を用いて評価を実施した。その結果、プロジェクト活動を阻害する大きな外部条件は確認できなかったため、評価を実施するにあたり問題とはならなかった。

しかしながら、今後プロジェクトを終了するまでの期間に、何らかの外部条件が起こり、プロジェクト目標の達成に影響を及ぼす可能性が否定できないため、PDM Ver.2に外部条件を新たに加えたPDM ver.3を作成することが推奨される。

4 - 2 教 訓

これまでの評価の結果に基づき、評価チームは、今後の類似プロジェクトの実施にあたって、次の事項を教訓として示す。

(1) プロジェクトに対する共通認識の醸成

広域協力の実施にあたっては、中核国（機関）の運営面でのオーナーシップ及び受益国（機関）のモチベーションが不可欠である。プロジェクト関係者は、これらを基に共通課題及び実施枠組みについてのコンセンサスをプロジェクト開始時点までに得ることが重要である。

(2) プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）策定時の留意事項

PDM Ver.2については中間評価時に大幅に改定されたが、アルゼンチン分のPDM Ver.2において、成果2の活動の記述が不十分であり、論理的に構成されていない。PDMを策定するにあたっては、成果と活動が論理的に構成されるよう配慮すべきである。

第5章 総 括

(1) 広域の実施運営能力

ラ・プラタ大学獣医学部は、わが国が1989年から取り組んだ「ラ・プラタ大学獣医学部研究計画技術協力プロジェクト」によりその施設・資機材や人材を充実させた。この協力を携わった関係者の数人が獣医学部長となり、更にラ・プラタ大学長、教育省長官を輩出するなど、その人材的発展は学部を超えアルゼンチンの大学教育へ影響を及ぼしている。2010年4月まで、本プロジェクト期間中に獣医学部長として努めたNosetto氏は、新任大学総長の体制下で「国際化担当」部長に栄転し、「国際協力部」を立ち上げることを拝命している。これにみられるようにラ・プラタ大学は、広域協力を携わってきた獣医学部の成功事例を大学全般の国際協力を生かすことをねらっている。アルゼンチンの大学でこのような活動を行えるのはラ・プラタ大学以外にはないという。

本プロジェクトは、運営面においてラ・プラタ大学がイニシアティブを取ることを前提にしている。しかしながら、開始当初においては、広域への取り組みの支援国側のメリットのみが強調され、被支援国側のメリットについては十分に理解がなされなかった。しかもラ・プラタ大学や獣医学部の広域協力運営体制は覚束ないものであった。それらが元で、被支援国側である3カ国3大学との円滑な連絡調整がとれず、効果的な実施運営ができなかった。これには立ち上げ当初に日本人長期専門家が派遣されていないために適切な助言が得られなかったという影響もあろう。その結果、広域枠組みを軽視し、各大学の研究者の興味だけによる活動が推進されるということになった。

これらの問題は、プロジェクト3年次の中間評価時において、活動を広域部分、各国部分として整理・修正された。広域目標としてラ・プラタ大学に大きな責任を課するという方法を取り、コア国の責任を明確にしたことはプロジェクト運営上推進に役立った。これ以後、関係国間の意志疎通が改善され、プロジェクトの成果が見え始めた。もし実施期間が5年に満たなかったら、本プロジェクトは成果を達成することなく関係者に不満だけが残ったであろう。

(2) 人材育成の方法（卒後継続研鑽）

本案件の立案当初は、広域課題として越境性家畜疾病である口蹄疫への対策を共通課題として取り上げることが検討された。しかし、その重要性はお互い認めるものの、過去に見られたように各国間の責任問題が高じて政治的紛争に発展する可能性を危惧した。そこで、域内諸国間の家畜疾病に関する情報収集と発信を促進するため、本案件では現場獣医師の能力強化を通じて地域全体に貢献するという考えで設計された。

本案件では大学獣医学部が実施機関であるため、大学が現場獣医師の人材育成の体制強化に深く関与することが想定されている。本プロジェクト期間中家畜疾病診断分野、疫学分野の情報を発信し、当該地域の獣医師がこれらの成果を活用していることがうかがわれる。また、各国では大学が現場獣医師に対する情報提供を行う種々の研修コースを実施しているとされるが、彼らの再教育や目的別の高度研修をしているとは言い難い。

「卒後継続研鑽」という用語の定義について、JICA側と実施国側でずれがあった可能性もある。アルゼンチンの場合、大学は学術的な大学院レベルの教育向上に興味があり、現場獣医師への技術研修は地域の獣医団体等が実施することになっているために大学は直接的な関与が難

しい。しかも、本プロジェクトにおいて受益対象となった3カ国においては獣医学教育が充実しているとは言い難い。これらの大学の若手教員に技術研修を施して能力を向上するという活動は目前のニーズに適合し、各国ともに積極的に取り組んだ。大学教員の能力向上は学部学生の教育レベルの改善、現場獣医師の研修提供（能力強化）の前提条件である。大学が行政機関の業務である疾病対策に関与するには各国内において更なる連携と調整が必要となる。

本プロジェクトでは疫学・統計学的手法も診断試験と合わせて重点を置いた。この手法は、この地域の獣医師・研究者に先端技術の機器がなくとも研究論文が作成できるという希望を与え、獣医学研究の新たな展開方法を示した。派遣専門家が、各国の若手教員に対しすべての研究業務は報告されなければならなかったことに等しいという考えを植えつけ、この分野の高い知識と技術が各国の関係者の動機づけに貢献したと思われる。ポリビア ガブリエル・レネ・モレノ大学からは数本の報告が著名な研究雑誌に掲載されたことは画期的なことである。

(3) 広域実施のインパクトと留意点

本案件における最大のインパクトは、このプロジェクトによりラ・プラタ大学を中心とした4カ国4大学の獣医大学教員間の人的交流が促進され、信頼関係が構築されたことである。5年間の本案件の実施により確立された関係国間の人間的つながりは貴重であり、4カ国4大学の枠を超えて連携の発展の可能性を拓く経験であった。

従来、この4カ国はスペイン語圏とはいえ、これらの大学間に実質的な交流は皆無であった。約15年前、メルコスールが組織されたものの、実質的な連携や協力は存在しなかった。本案件がこの地域初の広域的取り組みであり、これにより、彼ら自身の発案によるいくつかの計画に弾みがつき、本プロジェクトが模範として示した活動はそちらに受け継がれて実行に移されるだろう。その1つが、メルコスール加盟の「7カ国の30大学による単位相互認証制度の協定」にこの4大学が参加したことである。この6～7月に各大学に査定の調査が入ることになっている。ガブリエル・レネ・モレノ大学などもこのプロジェクトによりラボの拡充、機材の整備があったためその査定を受けられるまでに至った。

また、2009年12月に発足した「イペロアメリカ獣医予防疫学会」は本プロジェクトの情報ネットワークが下地となっており、この地域の学会として発展する可能性を秘めている。本学会のホームページの管理をラ・プラタ大学の疫学の若手教員たちが担当することになっており、プロジェクトのネットワークが発展的に吸収されることもあり得るであろう。

特筆すべきことの1つは、本プロジェクトにおいて、第三国専門家がラ・プラタ大学のみならず、非支援国からも専門家を派遣できたことである。JICAがかつてパラグアイで取り組んだ家畜繁殖改善のC/Pがブルセラ病診断抗原製造の第三国専門家としてポリビアに指導に派遣された例のように、過去に域内で育成されたリソースを共有でき、相互関係を強めることに貢献した。

広域案件は、中南米地域への協力予算が削減される昨今、小額の投入コストで裨益地域を増やせる、バイでは支援できない国の特定分野への協力が可能となるなど、今後も検討されるべきである。しかし、広域技術協力プロジェクトはバイによる個々の技術協力プロジェクトにおいてと同様に各技術協力プロジェクト固有の問題に遭遇する。広域の経験はJICAにも十分な蓄積がなく、本案件において明確なのはJICA（本部、事務所）コア国、非支援国間でそれぞれの思惑を同一化することが困難なことであり、とりわけ投入の面でコストを抑えられるという一

般的想定とは裏腹に運営の調整に多大のコストと専門家の労力がかかることであった。また、1国当たりの投入が小額なため、開始当初において各国での動機づけが高まり難いことであった。

付 属 資 料

- 1 . 終了時評価調査日程
- 2 . 主要面談者リスト
- 3 . 合同評価報告書
 - ・ 合同評価報告書（和文、署名）
 - ・ 合同評価報告書（スペイン文、署名）
- 4 . ミニッツ（アルゼンチン分、ボリビア分、パラグアイ分、ウルグアイ分）
- 5 . 実 績
- 6 . その他
 - ・ JCCミニッツ
 - ・ PDM Ver.3
 - ・ 広域上位目標の指標入手

終了時評価調査 日程実績

日数	月日	曜日	①団長/疫学（要田） ②家畜疾病防除技術/再教育システム（小野） ③計画調整（荻窪）	④評価分析（柏崎）	宿泊地
1	2010年 4月25日	日		18:05(発)成田→JL5002→15:35(着)ダラス 19:35(発)ダラス→AA997→	(機中泊)
2	26日	月		→7:55(着)ブエノスアイレス ・JICA アルゼンチン事務所表敬 ・移動(ブエノスアイレス→ラ・プラタ) 14:00～16:00 ラ・プラタ大学獣医学部長表敬 及び聞き取り調査	ラ・プラタ
3	27日	火		10:00～11:45, 14:00～15:30, 15:30～16:30 ラ・プラタ大学関係者からの聞き取り調査	ラ・プラタ
4	28日	水		10:00～11:30 ラ・プラタ大学関係者からの聞き 取り調査	ラ・プラタ
5	29日	木		・移動(ラ・プラターブエノスアイレス) 9:10(発)ブエノスアイレス→AR1362 →11:15(着)サンタクルス 15:30～18:00 ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医 学部長表敬及び聞き取り調査	サンタクルス
6	30日	金		8:30～11:00 ガブリエル・レネ・モレノ大学関係 者からの聞き取り調査 14:30～16:30 獣医学部付属家畜改良センタ ー視察	サンタクルス
7	5月1日	土		15:50(発) サンタクルス→PZ701 →17:20(着)アスンシオン	アスンシオン
8	2日	日		・現地調査資料、評価表(案)の整理	アスンシオン
9	3日	月		8:30～11:30 アスンシオン大学関係者からの 聞き取り調査 午後（資料整理）	アスンシオン
10	4日	火		8:45～10:45 アスンシオン大学関係者からの 聞き取り調査及び学部長表敬 11:00～12:00 SENACSA での聞き取り調査 午後（資料整理）	アスンシオン
11	5日	水		13:20(発)アスンシオン→PZ731 →16:05(着)モンテビデオ	モンテビデオ
12	6日	木		8:30～9:30 JICA ウルグアイ支所との協議 10:00～11:45, 14:00～15:40 共和国大学関係 者からの聞き取り調査	モンテビデオ
13	7日	金		10:00～12:00 DILANE 関係者からの聞き取り 調査 午後（資料整理）	モンテビデオ
14	8日	土		・4 カ国達成度グリッド(案)、評価グリッド(案) の整理	モンテビデオ
15 (1)	9日	日	20:00(発)成田→JL016→	・現地調査資料、評価表(案)の整理 ・プロジェクト合同終了時評価書(案)の整理	モンテビデオ

日数	月日	曜日	①団長/疫学 (要田) ②家畜疾病防除技術/再教育システム (小野) ③計画調整 (荻窪)	④評価分析 (柏崎)	宿泊地
16 (2)	10日	月	→9:00(着)サンパウロ 15:50(発)サンパウロ→JJ8398 →18:30(着)モンテビデオ	9:30～10:30 共和国大学関係者からの聞き取り調査 11:00～12:00 獣医研究所関係者からの聞き取り調査 16:00～16:30 共和国大学獣医学部長表敬	モンテビデオ
			----(団員合流)----	20:30～00:00 団内打合せ(ウルグアイ評価表に係る団内意見の集約化)	モンテビデオ
17 (3)	11日	火	9:30～11:30 共和国大学への評価結果説明 11:30～12:00 ウルグアイ代表者とミニッツ署名(ウルグアイ分) 14:00～14:40 在ウルグアイ日本大使館報告 15:00～16:00 団内打合せ(パラグアイ評価表に係る団内意見の集約化) 18:35(発)モンテビデオ→AR1209→19:20～20:40(着)ブエノスアイレス 21:55(発)ブエノスアイレス→AR1264→22:50(着)アスンシオン		アスンシオン
18 (4)	12日	水	9:00～11:30 アスンシオン大学への評価結果説明 11:30～12:00 パラグアイ代表者とミニッツ署名(パラグアイ分) 14:00～14:30 JICA パラグアイ事務所報告 16:30～18:30 団内打合せ(ボリビア評価表に係る団内意見の集約化)		アスンシオン
19 (5)	13日	木	11:10(発)アスンシオン→PZ702→12:40(着)サンタクルス 15:30～19:00 ガブリエル・レネ・モレノ大学への評価結果説明		サンタクルス
20 (6)	14日	金	9:30 ホテル出発 10:00～10:30 狂犬病監察犬舎等の見学 10:30～11:30 ボリビア代表者とミニッツ署名(ボリビア分) 16:00～18:00 団内打合せ(アルゼンチン評価表に係る団内意見の集約化)		サンタクルス
21 (7)	15日	土	12:00(発)サンタクルス→AR1363→15:59(着)ブエノスアイレス		ブエノスアイレス
22 (8)	16日	日	(資料整理) ・プロジェクト合同終了時評価書(案)の整理		ブエノスアイレス
23 (9)	17日	月	10:00～10:30 JICA アルゼンチン事務所との協議 12:30～13:00 アルゼンチン外務省表敬 15:00～15:30 アルゼンチン教育省表敬 移動(ブエノスアイレス→ラ・プラタ) 18:00～21:00 団内打合せ[アルゼンチン分評価表、広域評価表及び合同調査報告書(案)に係る団内意見の集約化]		ラ・プラタ
24 (10)	18日	火	10:00～15:30 アルゼンチン評価結果説明・協議 14:00 広域評価結果説明(実績等の確認) 19:00～22:00 団内打合せ[広域評価及び合同調査報告書(案)に係る団内意見の集約化]		ラ・プラタ
25 (11)	19日	水	----- (アルゼンチン評価団合流) ----- 11:00～13:00 プロジェクト合同調査報告書の説明・協議(参加者:アルゼンチン評価団+ラ・プラタ大学関係者+日本側調査団) 14:30～15:30 プロジェクト合同調査報告書の説明・協議(参加者:アルゼンチン評価団+ラ・プラタ大学関係者+日本側調査団) 19:00～21:00 プロジェクト合同調査報告書の説明・協議(参加者:アルゼンチン評価団+ラ・プラタ大学関係者+日本側調査団)		ラ・プラタ

日数	月日	曜日	①団長/疫学（要田） ②家畜疾病防除技術/再教育システム（小野） ③計画調整（荻窪）	④評価分析（柏崎）	宿泊地
26 (12)	20日	木	10:00～12:00 プロジェクト合同終了時評価書(最終版)の協議(参加者:アルゼンチン評価団+ラ・プラタ大学関係者+日本側調査団) 14:30 アルゼンチン代表者とミニッツ署名交換(アルゼンチン分) 14:30 合同終了時評価書署名交換(日本・アルゼンチン評価団長) 16:00 JCC(プロジェクト合同調整会議)(参加者:アルゼンチン関係者+ボリビア関係者+パラグアイ関係者+ウルグアイ関係者+アルゼンチン評価団+日本側評価団+JICA アルゼンチン事務所) 18:00～19:30 レセプション(参加者:アルゼンチン関係者+ボリビア関係者+パラグアイ関係者+ウルグアイ関係者+アルゼンチン評価団+日本側評価団+JICA アルゼンチン事務所)		ラ・プラタ
27 (13)	21日	金	移動(ラ・プラタ→ブエノスアイレス) 10:20～11:00 在アルゼンチン日本大使館報告 11:30～11:50 JICA アルゼンチン事務所報告 19:40 (発)ブエノスアイレス→JJ8011→22:20 (着)サンパウロ 22:55 (発)サンパウロ→JL015→		(機内泊)
28 (14)	22日	土	→7:25 (着)ニューヨーク 10:05 (発)ニューヨーク		(機内泊)
29 (15)	23日	日	→12:20 (着)成田		

主要面談者リスト(敬称略)

A.アルゼンチン

1.外務省

Marcelo SUAREZ SALVIA
Andrea DE FORNASARI

国際協力局多国間協力部長参事官
国際協力局日本担当官

2.教育省

Alberto DIBBERN

教育省大学政策庁長官

3.ラ・プラタ大学

Edgardo NOSETTO
Eduardo Rafael PONS
Julio COPES

Luciano MUTINELLI
Gerard LEOTTA
Miguel Angel PETRUCCELLI
Teresa GONSALEZ
Marcelo PECOPARO
Gabriela ECHERERRIA
Santiago CORVA
Estela BONZO

国際関係事務局長(元獣医学部長)
獣医学部長
教授(食品微生物学)
(プロジェクト・コーディネータ)
プロジェクト補助員
准教授(食品微生物学)
主任教授(家禽病理学)
主任教授(ウイルス学)
准教授(ウイルス学)
准教授(ウイルス学)
准教授(疫学)
准教授(疫学)

4.アルゼンチン側評価団

Andrea DE FORNASARI
Lizzy Dell ROSA
Jorge A Rodriguez TOLEDO

国際協力局日本担当官
ラ・プラタ大学本部職員
SENASA実験動物セクションコーディネータ

5.在アルゼンチン日本大使館

山崎 知巳
馬場 学

参事官
二等書記官

6.JICAアルゼンチン事務所

野口 京香
山本 ファンカルロス
隈部 ビクトル

所長
業務班長
担当所員

7.専門家等

鈴木 邦昭

疫学情報資源整備/プロジェクト運営管理

8.その他

藤園 無邊
陰地 Gladys美南

通訳
PROVETSUR業務調整補佐

B.ウルグアイ

1.共和国大学

Perla A. Cabrera
Julian Bermudez

Gerardo KRAMER
Herbert Trenchi Casal
Helena Guarino
Álvaro Freyre
Richard Núñez
Gustavo Trenchi
Dinora Satragno
Maria Fernanda Alzugaray
German Rodriguez

獣医学部長
教授
(プロジェクト・コーディネータ)
Asistente Academico
教授(家禽病理学)
教授(ウイルス学)
教授(寄生虫学)
プロジェクト担当者
教員(家禽病理学)
教員(寄生虫学)
教員(ウイルス学)
教員(家禽病理学)

2. DILAVE

Helena Guarino
Soledad Velledor
Nestor D'anatro
Pedro Miguel Bañales P.
Leandro Fernandez
.Cristina Easton
Cecilia Paullier

研究員(分子診断)
研究員(寄生虫)
研究員(分子診断)
研究員(繁殖)
研究員(繁殖)
研究員(病理)
研究員(病理)

3. 在ウルグアイ日本大使館

佐久間 健一
森垣 孝司

大使
担当書記官

4. JICAウルグアイ支所

佐藤 義勝
広井 なおみ

所長
担当所員

C.パラグアイ

1. アスンシオン大学

Froilán Enrique Peralta T.
Lus Acuña

Dr. Juan Caballero
Fredí Luis Álvarez
Elera Enciso
María Liz Faccioli Ayala
María Goretti Silva
Liz A. Castro
Lorena Nuñez
Shyrley Paola Amarilla

獣医学部長
獣医学部 副学部長
(プロジェクト・コーディネータ)
主任教授(生産)
教官(家禽病理ラボ責任者)
主任教授(微生物ラボ責任者)
研究員(家禽病理ラボ)
研究員(家禽病理ラボ)
研究員(家禽病理ラボ)
研究員(家禽病理ラボ)
研究員(組織病理学)

2. SENACSA

Veronica Loup
Gloria Pineda
他6名

研究員
研究員
研究員

3. JICAパラグアイ事務所

北中 真人
渡辺 土佐男
Miuriel Vecca

所長
担当職員
所員

D.ボリビア

1. ガブリエル・レネ・モレノ大学

Rolando López Cabezas
Pablo Rosales Callejas
Juan Antonio C. Pereira Rico

Jaime Guzmán C.

Paola Espinosa
Gloria Marin
Claudia Coca
Carmina Salazar
Miguel Perez
Griselda Ruiz
Ariel Loza

獣医学部長
獣医学部副学部長
獣医学部 調査局長
(プロジェクト・コーディネータ)
獣医学部 教官
(プロジェクト・サブ・コーディネータ)
獣医学部 研究官
獣医学部 研究官
獣医学部 研究官
獣医学部 研究官
獣医学部 研究官
獣医学部 研究官
獣医学部 研究官

3. 合同評価報告書

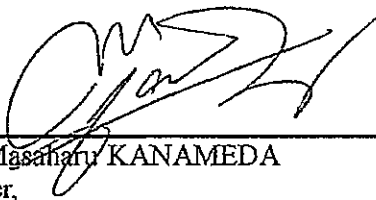
- ・ 合同評価報告書（和文、署名）

終了時評価報告書

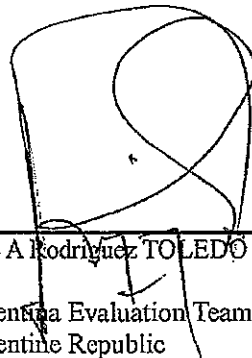
広域協力を通じた南米南部家畜衛生改善のための 人材育成プロジェクト (アルゼンチン、ボリビア、パラグアイ、ウルグアイ)

ラ・プラタ、2010年5月20日

JICA-アルゼンチン合同評価チーム



Dr. Masaharu KANAMEDA
Leader,
The Japanese Evaluation Team,
JAPAN



Dr. Jorge A. Rodríguez TOLEDO
Leader,
The Argentina Evaluation Team,
The Argentine Republic

目次

1. はじめに
 - 1-1 評価調査の目的
 - 1-2 調査チームの構成
 - 1-3 調査日程

2. プロジェクトの概要
 - 2-1 プロジェクトの背景
 - 2-2 プロジェクトの骨子

3. 評価の方法
 - 3-1 評価項目
 - 3-2 評価の方法

4. プロジェクトの実績
 - 4-1 投入結果
 - 4-2 プロジェクト活動の進捗、成果と目標の達成度の評価

5. 評価結果
 - 5-1 妥当性
 - 5-2 有効性
 - 5-3 効率性
 - 5-4 インパクト
 - 5-5 自立発展性

6. 結論

7. 提言

8. 教訓



附属資料:

附属資料1: PDM ver.2

附属資料2: 計画と実績

①広域用、②アルゼンチン用、③ポリビア用、④パラグアイ用、⑤ウルグアイ用

附属資料3: 投入実績表

①研修開催実績、②専門家投入実績、③供与機材リスト



略語

C/P:	カウンターパートスタッフ
FCV-UNA:	パラグアイ国アスンシオン大学獣医学部
FCV-UNLP:	アルゼンチン国ラ・プラタ大学獣医学部
FCV-UR:	ウルグアイ国共和国大学獣医学部
FMVZ-UAGRM:	ボリビア国ガブリエル・レネ・モレノ大学獣医学部
J/E:	日本人専門家
JICA:	独立行政法人国際協力機構
JPY:	日本円
M/M:	ミニッツ
MM:	人・月
PCM:	プロジェクト・サイクル・マネージメント手法
PDM:	プロジェクト・デザイン・マトリックス(プロジェクト計画書)
PO:	活動計画
US\$:	米ドル



1. はじめに

1-1 評価調査の目的

終了時評価調査は次の事項を目的に実施された。

- (1) プロジェクトの実績と実施プロセスを確認し、その情報に基づいて、評価5項目(妥当性、有効性、効率性、インパクト及び自立発展性)の観点から日本側・アルゼンチン側双方で総合的に評価する。
- (2) プロジェクト終了までの期間で対応すべきことを明らかにし提言すると共に、今後の類似プロジェクトの実施に当たっての教訓を導き、結果を日本、アルゼンチン両国政府及び関係機関に報告・提言する。

なお、終了時評価調査報告書は、西語、日本語の両言語で作成し、これらには上下関係はない。

また、本評価報告書は、日本側とアルゼンチン側の共同で調査して作成した。しかし、各国の実績確認については、アルゼンチン調査団の同行の上、日本側調査団が情報を収集し、整理した。また、アルゼンチン以外の国であるボリビア、パラグアイ、ウルグアイに対する評価については、アルゼンチン側評価団が直接確認できない内容もあることから、一部の項目については、日本側調査団のみで評価したものを記載した。

1-2 評価チームの構成

1-2-1 日本側評価チーム

要田 正治 団長/疫学	独立行政法人国際協力機構(JICA) 国際協力専門員
小野 憲一郎 家畜疾病防除技術/再教育システム	㈱日本動物高度医療センター腫瘍科・学術部門長 (元東京大学大学院教授)
荻窪 恭明 計画調整	JICA 農村開発部 畑作地帯グループ 畑作地帯第1課 企画役
柏崎 佳人 評価分析	A&M コンサルタント有限公司

1-2-2 アルゼンチン側評価チーム

Andrea DE FORNASARI	外務省国際協力局日本担当官
Lizzy Della ROSA	ラ・プラタ大学本部職員
Jorge A Rodriguez TOLEDO	SENASA 実験動物セクション コーディネータ

1-3 調査日程

日本側調査団は、2010年4月25日から5月23日の期間、アルゼンチン、ボリビア、パラグアイ及びウルグアイの4ヶ国を調査した。2010年5月18日から5月20日にかけては、アルゼンチンと合同評価チ

ームを結成し、プロジェクトの評価を実施した。

2. プロジェクトの概要

2-1 プロジェクトの背景

南米諸国において、畜産業は基幹産業として重要な位置を占めている。特に、メルコスール(南米南部共同市場)による経済統合が進む中、域内の家畜生体や畜産物の流通が一層盛んになり、各国の経済に与える影響は、大きくなっている。

このように、経済統合による域内の経済活動が活発になる一方で、口蹄疫などの重要家畜疾病の発生により、畜産物の流通が制限されるなどの事態が生じており、各国は大きな経済的損失を生じている。

しかしながら、家畜疾病の診断、伝染病予防等の国ごとのレベルの差は大きく、また、各国が自国の国境監視に終始してきたことから、国境を越えた家畜疾病防除のための技術と制度の確立といった共同対策が急務となっている。

本案件は、南米南部を対象とした協力に参加を表明したアルゼンチン、パラグアイ、ボリビア、ウルグアイの4カ国を対象に、大学の獣医学部をカウンターパートに実施している広域協力案件である。

要請段階の「南米地域における家畜疾病防除計画」が示すとおり研究能力の向上やラボラトリーの強化を目指す性格の案件であったが、その後2度の事前調査を経て、獣医師の再教育を通じて人材育成を行う「広域協力を通じた南米南部家畜衛生改善のための人材育成」に整理され、4カ国で案件が開始された。

活動の枠組みは、20年間近くアルゼンチン国ラ・プラタ大学で実施してきた家畜衛生・疾病診断技術に係る協力の成果を活用し、同国に隣接するボリビア、パラグアイ、ウルグアイに協力の対象地域を拡大し、家畜衛生改善のための技術を強化するものである。大学、研究所の獣医師のみならず、家畜疾病診断を担う現職獣医師の再教育を実施するとともに、それらの人的連携及び疾病情報データベース・獣医師メーリングリスト等の活用による家畜衛生(疫学)情報を広域ネットワーク上で整備し、域内の疾病診断能力を強化するものである。

協力期間は2005年8月～2010年7月の5年間である。プロジェクト実施機関は、ラ・プラタ大学(アルゼンチン)、ガブリエル・レネ・モレノ大学(ボリビア)、アスンシオン大学(パラグアイ)、ウルグアイ共和国大学(ウルグアイ)であり、ラ・プラタ大学が広域プロジェクトの事務局を務めている。

今般、協力開始から5年目を迎え、2010年7月の協力期間終了に向けてこれまでの活動実績を評価するとともに、今後に向けての提言及び教訓を抽出することを目的に、終了時評価調査団を派遣する。

2-2 プロジェクトの骨子

中間評価で改訂したプロジェクトの骨子(PDM ver.2に該当)は次のとおりである。

2-2-1 広域(地域)

(1) 広域上位目標



南米南部地域の獣医の家畜疾病診断についての卒後継続研鑽が推進される。

(2) 広域プロジェクト目標

域内獣医の業務においてプロジェクトによって作られた情報が活用される。

(3) 広域プロジェクト成果

- (a) 広域調整システムが作られる。
- (b) プロジェクトのテーマに関するレポートが作成される。
 - (i) アルゼンチンの目標
 - (ii) ポリビアの目標
 - (iii) パラグアイの目標
 - (iv) ウルグアイの目標
- (c) 広域研究グループが作られる。
- (d) 現場獣医や生産者が利用可能な情報が普及している。

(4) 広域活動

- (a)-1. 広域調整システムのための JCC を組織する。
- (a)-2. 年 1 回定期的な JCC 会議を域内で開催する。
- (b). 各国の活動を実施する(各国の PDM の活動を参照)。
- (c)-1. 広域研究計画を作成する。
- (c)-2. 各国コーディネーターが広域研究に参加する者を選ぶ。
- (c)-3. 当該分野の調査研究を行い、研究レポートを作成する。
- (d)-1. 2008 年末までに 4 獣医学部間で、プロジェクトで作成した情報の発信についてのク
ライテリアに関する規則を作る。
- (d)-2. 2009 年初めから承認されたすべてのレポートを獣医師及び生産者向けに著者によ
りスペイン語によって加工する。
- (d)-3. 2009 年初めから加工された情報をプロジェクトのウェブサイト又はニュースレター
に配信する。
- (d)-4. 2009 年初めから加工された情報を専門家によるセミナーや印刷物によって広報す
る。

2-2-2 アルゼンチン

(1) プロジェクト目標

- (a) 広域目標
プロジェクトのテーマに関するレポートが作られる。
- (b) アルゼンチン目標
ラ大獣医学部の当該分野の能力が向上する。

(2) アルゼンチン成果

- (a) ラ大獣医学部の育成中の教員が診断と疫学についての技術を訓練されている。
- (b) ラ大獣医学部の教員たちがプロジェクト参加の3カ国の大学教員に診断と疫学技術を移転する能力が身につけている。
- (c) ラ大獣医学部の診断と研究の環境が改善する。
- (d) ラ大獣医学部の調整による診断・疫学情報の広域ネットワークが確立する。

(3) アルゼンチン活動

- (a)-1. ラ大獣医学部の必要に沿ったトレーニング計画を作成する。
- (a)-2. ラ大獣医学部教員群に対する診断技術のトレーニングコースを行う。
- (a)-3. ラ大獣医学部教員群に疫学技術のトレーニングコースを行う。
- (b)-1. ラ大獣医学部教員群に診断技術の OJT を行う。
- (b)-2. ラ大獣医学部教員群に疫学技術の OJT を行う。
- (c)-1. 必要に基づくラボの機材の設置、消耗品の設置、建物の改修計画を作る。
- (c)-2. 家禽病理ラボの建物の改修をする。
- (c)-3. プロジェクトのテーマに関係するラボの機材、消耗品を設置する。
- (d)-1. 4か国の獣医学部間でネットワーク形成についての基準作りの検討と合意をする。
- (d)-2. プロジェクトのウェブサイトを立ち上げる(プロジェクトの一般情報、ニュース、メール、図書館、調査研究出版物)。

2-2-3 ボリビア

(1) プロジェクト目標

- (a) 広域目標
プロジェクトが扱う疾病についての情報が作られる。
- (b) ボリビア目標
ボリビアの家畜疾病診断の能力が向上する。

(2) ボリビア成果

- (a) モレノ大学獣医学部の教員の能力が向上する。
- (b) 大学以外の獣医の能力が向上する。
- (c) モレノ大学獣医学部の診断と研究の環境が改善する。

(3) ボリビア活動

- (a)-1. モレノ大学獣医学部の必要に沿ったトレーニング計画及び研究計画を作る。
- (a)-2. モレノ大学獣医学部の若手教員に診断技術のトレーニングコースを行う。
- (a)-3. モレノ大学獣医学部の若手教員に疫学技術のトレーニングコースを行う。



- (a)-4. モレノ大学獣医学部の若手教員に診断技術の OJT を行う。
- (a)-5. モレノ大学獣医学部の若手教員に疫学技術の OJT を行う。
- (a)-6. プロジェクトに関わるモレノ大学の教員にラボにおける診断技術の更新コースをする。
- (a)-7. 研究を実施する。
 - (b)-1. 大学以外の獣医師の必要に沿ったトレーニング計画を作る。
 - (b)-2. 上記の獣医師に対し、診断技術のトレーニングコースを行う。
 - (b)-3. 上記の獣医師にサンプリング技術のトレーニングコースを行う。
 - (c)-1. 必要に基づくラボの機材の設置、消耗品の設置、建物の改修計画を作る。
 - (c)-2. ラボの建物の改修をする。
 - (c)-3. プロジェクトのテーマに関係するラボの機材、消耗品を設置する。

2-2-4 パラグアイ

(1) プロジェクト目標

(a) 広域目標

プロジェクトに関する疾病についての情報が作られる。

(b) パラグアイ目標

パラグアイの家畜疾病診断能力が向上する。

(2) パラグアイ成果

- (a) ア大獣医学部の教官の能力が向上する。
- (b) ラボ及び現場の獣医師の能力が向上する。
- (c) ア大獣医学部の診断と研究の環境が改選する。

(3) パラグアイ活動

- (a)-1. アスンシオン大学獣医学部の必要に沿ったトレーニング計画及び研究計画を作成する。
- (a)-2. アスンシオン大学獣医学部教員に診断技術のトレーニングコースを行う。
- (a)-3. アスンシオン大学獣医学部教員に疫学技術のトレーニングコースを行う。
- (a)-4. アスンシオン大学獣医学部の教員に診断技術の OJT をする。
- (a)-5. アスンシオン大学獣医学部の教員に疫学技術の OJT をする。
- (a)-6. 研究を実施する。
 - (b)-1. 大学以外の獣医師の必要に沿ったトレーニング計画を作る。
 - (b)-2. 上記獣医師に診断技術のトレーニングコースを行う。
 - (b)-3. 上記獣医師にサンプリング技術のトレーニングコースを行う。
 - (c)-1. 必要に基づくラボの機材の設置、消耗品の設置、建物の改修計画を作る。
 - (c)-2. ラボの建物の改修をする。



(c)-3. プロジェクトのテーマに関係するラボの機材、消耗品を設置する。

2-2-5 ウルグアイ

(1) プロジェクト目標

(a) 広域目標

プロジェクトが扱う疾病についての情報が作られる。

(b) ウルグアイ目標

ウルグアイの家畜疾病診断能力が向上する。

(2) ウルグアイ成果

(a) 共和国大学獣医学部の教員の能力が向上する。

(b) ラボの獣医の能力が向上する。

(c) 現場の獣医の能力が向上する。

(d) 共和国大獣医学部の診断と研究の環境が改善する。

(3) ウルグアイ活動

(a)-1. 共和国大学獣医学部の若手教員に家畜疾病診断のトレーニングコースを行う。

(a)-2. 共和国大学獣医学部の若手教員に域内のラボにおける OJT を行う。

(a)-3. 研究を実施する。

(b)-1. 共和国大学獣医学部においてラボの獣医師向けの診断コースを行う。

(b)-2. 共和国大学獣医学部においてラボの獣医師に OJT を行う。

(c)-1. 共和国大学獣医学部において現場の獣医師に対して家畜疾病診断のコースを行う。

(c)-2. 疾病診断に関する活動のための指導マニュアルを発展させる。

(d)-1. 必要に基づくラボの機材の設置、消耗品の設置、建物の改修計画を作る。

(d)-2. ラボの建物の改修をする。

(d)-3. プロジェクトのテーマに関係するラボの機材、消耗品を設置する。

3. 評価方法

3-1 評価項目

プロジェクトの評価は、次の項目 1 から項目 3 に基づき実施された。

(a) 項目 1: 達成度の測定

プロジェクト計画 (R/D、M/M、PDM 及び PO) と比較した、投入、活動の進捗、成果と目標の達成度の確認



(b) 項目2: プロジェクトの実施プロセスの確認

(c) 項目3: 評価 5 項目

次に示す 5 つの判断基準の観点から評価が実施された。

(1) 妥当性

プロジェクトの計画に対する妥当性は、対象国の開発政策や受益者のニーズの内容、更には PDM 上の様々なレベルで設定されている目的との関連性から、プロジェクトの目標と上位目標の有効性を確認し、評価する。

(2) 有効性

プロジェクトの有効性は、PDM におけるプロジェクトの目標の達成の程度、またはどの程度達成が期待され得るのかを、プロジェクトの成果からの関係から評価する。

(3) 効率性

プロジェクト実施における効率性を、PDM 上で示されているプロジェクトで期待される成果と投入の関係に主眼をおいて、タイミング、質、量の点から評価する。

(4) インパクト

インパクトは、プロジェクトの結果によって生じた、意図したものまたは意図しなかったもの、直接的な、または間接的な正と負の変化である。ここには、プロジェクトが意図して実施してきた前向きな変化によってもたらされた PDM 上位目標に関連するインパクトも含む。

(5) 自立発展性

プロジェクトの自立発展性は、制度的な観点、財政的な観点、技術的な観点で、プロジェクト終了後に、プロジェクトの成果がどの程度自立していくか、拡大していくかを確認して、評価する。

3-2 評価手法

プロジェクトは評価チームによって評価される。評価チームは、プロジェクトサイトの訪問、日本人専門家やプロジェクトのスタッフからのインタビューを実施する。

プロジェクトの評価を適切にかつ効率的に実施するために、評価チームは PGM(プロジェクト・サイクル・マネージメント)手法を活用する。この手法は、プロジェクトの各要素の関係を論理的に示した PDM(プロジェクト・デザイン・マトリックス)をベース(基礎)としている。

評価チームは、PDM の内容に基づいて、評価 5 項目の観点から、プロジェクトを分析、評価する。また、達成度や評価グリッドに結果をとりまとめ、最終的には、一連の提言を抽出する。



4. プロジェクトの実績

4-1 投入結果

4-1-1 日本側の投入

プロジェクトに対する日本側からの投入結果は以下のとおり。

(1) 専門家派遣

(1-1) 長期専門家

「疫学情報資源整備/プロジェクト運営管理」の長期専門家を 53MM、プロジェクトに派遣されている。また、「再教育システム/広域業務調整」の長期専門家を 20MM、プロジェクトに派遣された(詳細は附属資料 3 参照)。

(1-2) 短期専門家

「新興・再興感染症診断」を 0.5MM、「鶏病診断技術」を 0.5MM、「病理学」を 0.6MM、「家畜疾病防除」を 0.6MM、「家畜疾病防除」を 0.4MM、「人獣共通感染症診断技術」を 0.67MM、計 6 名の短期専門家がプロジェクトに派遣された(詳細は附属資料 3 参照)。

(1-3) 第三国専門家

アルゼンチン国ラ・プラタ大学から、ボリビア、パラグアイ、ウルグアイに、狂犬病予防、鶏ガンボロ病、PCR 診断技術、牛・羊の流産診断、豚・鶏サルモネラ症診断などの分野、また、パラグアイ国家畜衛生センターから、ボリビアに、牛ブルセラ病診断抗原作成の分野で第三国専門家を派遣した(詳細は附属資料 3 参照)。日本側は、この派遣に関する経費のうち、派遣費(旅費、宿泊費等)を負担した。

(2) 機材供与 (2010 年 3 月現在)

アルゼンチンに対して Real Time PCR、ボリビアに対して顕微鏡、パラグアイに対してクリーンベンチ (Clean Bench)、ウルグアイに対して偏光顕微鏡 (Polarizing Microscope) など、4 カ国に対して総額 810,270 米ドル (=75,112 千円、換算レート US\$1=92.70 円) の機材の投入を行った。

(3) 本邦研修

期間中、本邦研修の実施実績はない。

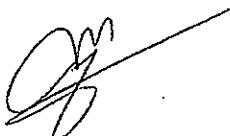
(4) プロジェクト運営経費負担 (2010 年 3 月現在)

プロジェクトの運営経費として、日本側から総額 1,302,448 米ドル (=120,737 千円、換算レート US\$1=92.70 円) の経費負担がなされた。

4-1-2 アルゼンチン側の投入

(1) 第三国専門家

アルゼンチン国ラ・プラタ大学から、ボリビア、パラグアイ及びウルグアイに、狂犬病予防、鶏ガンボロ



病、PCR 診断技術、牛・羊の流産診断、豚・鶏サルモネラ症診断などの分野で第三国専門家を派遣した。アルゼンチン側は、この派遣に関する経費のうち、人件費を負担した。2010 年までに、総額 234,000 アルゼンチンペソ(=78,000 米ドル、換算レート US\$1=3 ペソ)が負担された。

(2) プロジェクト実施経費

アルゼンチンで実施する獣医師の研修、ラボラトリーの整備費用、業務調整関連、事務所の光熱費など、プロジェクト実施経費として、2010 年までに総額 561,900 アルゼンチンペソ(=187,300 米ドル、換算レート US\$1=3 ペソ)が支出された。

(3) プロジェクトスタッフ

プロジェクト運営関連スタッフ、各国との調整役として、ジェネラル・コーディネーター、アシスタント・コーディネーター、プロジェクト・オフィサーが配置された。

(4) その他

プロジェクト事務所、車両、運転手等の配置がなされた。

4-1-3 ポリビア側の投入

(1) プロジェクト実施経費

インフラ整備費、機材の設置と維持管理経費など 2010 年 3 月までに総額 US\$56,355 が負担された(ここには関係者の賃金は含まない)。

(2) プロジェクトスタッフ

プロジェクト運営関連スタッフとして、国コーディネーターが配置された。なお、ラボラトリー、疫学情報などの分野で 7 名の技術分野のカウンターパートが配置されている。

(3) その他

プロジェクト事務所、ラボラトリー、車両等の配置がなされた。

4-1-4 パラグアイ側の投入

(1) プロジェクト実施経費

施設維持管理費、専門家活動経費など、2010 年 3 月までに総額 Gs101,600,000 (=US\$20,320、換算レート US\$1=Gs5,000)が負担された(ここには関係者の賃金は含まない)。

(2) プロジェクトスタッフ

プロジェクト運営関連スタッフとして、国コーディネーターが配置された。なお、家禽病学、家禽血清学などの分野で 6 名の技術分野のカウンターパートが配置されている。



(3) その他

プロジェクト事務所、ラボラトリー、車両等の配置がなされた。

4-1-5 ウルグアイ側の投入

(1) プロジェクト実施経費

微生物学科の研究室建設、病理学の研究室建設などプロジェクトに関連して、総額 US\$162,000の予算が組まれた(ここには関係者の賃金は含めない)。

(2) プロジェクトスタッフ

プロジェクト運営関連スタッフとして、国コーディネーターが配置された。なお、微生物学などの分野で3名の技術分野のカウンターパートが配置されている。

(3) その他

プロジェクト事務所、ラボラトリー、車両等の配置がなされた。

4-2 プロジェクト活動の進捗、成果と目標の達成度の評価

プロジェクト活動の進捗、成果と目標の達成度は次のとおり。

評価の基礎となった詳細な調査結果は、附属資料を参照のこと(附属資料 2)。

4-2-1 アルゼンチンのプロジェクトの評価

(1) アルゼンチンの活動の進捗

PDM Ver.2 に基づくアルゼンチンのプロジェクト活動の評価の概要は次のとおりである。

活動項目	評価(コメント)
1. 1. Planificar las capacitaciones de acuerdo a las necesidades de la FCV-UNLP. ラ大獣医学部の必要に基づく研修計画を作成する。	Se puede evaluar porque existen resultados ・実績もあり、評価できる。
1.2. Dar curso de capacitación en técnicas de diagnóstico al plantel de docentes de FCV-UNLP ラ大獣医学部教員群に対する診断技術の研修を行う。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。
1.3. Dar curso de capacitación en técnicas de epidemiología al plantel de docentes de FCV-UNLP ラ大獣医学部教員群に疫学技術の研修をする。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。
2.1. Realizar pasantía en técnicas de diagnóstico al plantel de docentes de FCV-UNLP.	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados.

活動項目	評価(コメント)
ラ大獣医学部教員群に診断技術のOJTを行う	・実績について、おおむね評価できる。
2.2. Realizar pasantía en técnicas de epidemiología al plantel de docentes de FGV-UNLP. ラ大獣医学部教員群に疫学技術のOJTを行う。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。
3.1. Planificar la introducción de equipamientos, insumos y acondicionamiento de edificio de acuerdo a los necesidades. 必要に基づくラボの機材の設置消耗品の設置、建物の改修計画を作る。	Se puede evaluar porque existen resultados ・実績もあり、評価できる。
3.2. Acondicionar el espacio físico del laboratorio de Patología Aviar. 家禽病理ラボの建物の改修をする。	Se puede evaluar porque existen resultados ・実績もあり、評価できる。
3.3. Introducir nuevos equipamientos e insumos en los laboratorios vinculados con las temáticas del proyecto. プロジェクトのテーマに関係するラボの機材、消耗品を設置する。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. Tomar las medidas necesarias para asegurar el presupuesto con el fin de adquirir los insumos necesarios para las investigaciones. ・実績について、おおむね評価できる。 ・プロジェクト終了後、検査に必要な消耗品を購入するため、予算の確保など必要な措置を講ずること。
4.1. Discutir y acordar una norma para el establecimiento de la red entre las 4 facultades. 4 カ国の獣医学部間でネットワーク形成についての規準作りの検討と合意をする。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。
4.2. Crear un sitio web que incluya la información general del proyecto, noticias, correo, biblioteca y publicaciones científicas. プロジェクトのウェブサイトを立て上げる(プロジェクトの一般情報、ニュース、メール、図書館、調査研究報告書)	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. Se desea perfeccionar aún más el contenido de la página Web. Al mismo tiempo, se desea que este sitio se expanda y sea utilizado por los veterinarios fuera del Proyecto. ・プロジェクト終了後もウェブサイトの内容を更に充実させるとともに、当サイトが本プロジェクト以外の

活動項目	評価(コメント)
	獣医師にも幅広く活用される取り組みを継続的に実施されることが望まれる。

(2) アルゼンチンで期待される成果の達成度

PDM Ver.2 に基づくアルゼンチンの成果の評価は次のとおりである。

成果の項目	評価(コメント)
1. Docentes en formación de FCV-UNLP se capacitan en técnicas de diagnóstico y de epidemiología. ラ大獣医学部の育成中の教員が診断と疫学についての技術を訓練されている。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. Se desea la continuidad y expansión de la capacitación de los docentes en formación. ・実績について、おおむね評価できる。 ・育成中の教員向けの研修の継続・発展が望まれる。
2. Docentes de FCV-UNLP tienen la capacidad de transferir técnicas de diagnóstico y de epidemiología a los tres países involucrados en el proyecto. ラ大獣医学部の教員たちがプロジェクト参加の3カ国の大学教員に診断と疫学技術を移転する能力が身につけている。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. En coordinación con las otras 3 universidades, se desea que se continúe con la ejecución de la capacitación y pasantías sobre las técnicas de diagnóstico y otros temas. ・実績について、おおむね評価できる。 ・他のプロジェクト参加3大学と調整の上、診断技術等に係る研修及びOJTが引き続き実施されることが望まれる。
3. Se mejora el entorno para el diagnóstico e investigación en la FCV-UNLP. ラ大獣医学部の診断と研究の環境が改善する。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。
4. Se desarrolla una red regional de diagnóstico e información epidemiológica, coordinada por la FCV-UNLP. ラ大獣医学部の調整による診断・疫学情報の広域ネットワークが確立する。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. Se desea perfeccionar aún más el contenido de la página Web. Al mismo tiempo, se desea que este sitio se expanda y sea utilizado por los veterinarios fuera del Proyecto.

成果の項目	評価(コメント)
	<ul style="list-style-type: none"> ・実績について、おおむね評価できる。 ・プロジェクト終了後もウェブサイトの内容を更に充実させるとともに、当サイトが本プロジェクト以外の獣医師にも幅広く活用される取り組みを継続的に実施されることが望まれる。

(3) アルゼンチンのプロジェクト目標の評価

目標の項目	評価(コメント)
<p><u>Objetivo Regional</u> 広域目標</p> <p>Se elaboran informes en temáticas vinculadas al Proyecto.</p> <p>プロジェクトのテーマに関するレポートが作られる。</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実績もあり、評価できる。
<p><u>Objetivo Nacional</u> 国目標</p> <p>Específico (a nivel regional)</p> <p>Se mejora la capacidad de FCV-UNLP en las temáticas vinculadas al proyecto.</p> <p>ラ大獣医学部の当該分野の能力が向上する。</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実績もあり、評価できる。

4-2-2 ボリビアのプロジェクトの評価

(1) ボリビアの活動の進捗

PDM Ver.2に基づくボリビアのプロジェクト活動の評価の概要は次のとおりである。

活動項目	評価(コメント)
<p>1.1. Planificar las capacitaciones y las investigaciones de acuerdo a las necesidades de la FCV-UAGRM.</p> <p>モレノ大学獣医学部の必要に沿ったトレーニング計画及び研究計画を作る。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実績について、おおむね評価できる。
<p>1.2. Dar curso de capacitación sobre técnicas de diagnóstico a los docentes jóvenes de FCV-UAGRM.</p> <p>モレノ大学獣医学部の若手教員に診断技術のトレーニングコースを行う。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実績について、おおむね評価できる。

<p>1.3. Dar curso de capacitación sobre técnicas de epidemiología a los docentes jóvenes de FCV-UAGRM. モレノ大学獣医学部の若手教員に疫学技術のトレーニングコースを行う。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。</p>
<p>1.4. Realizar pasantías sobre técnicas de diagnóstico a los docentes jóvenes de FCV-UAGRM. モレノ大学獣医学部の若手教員に診断技術のOJTを行う。</p>	<p>Existen resultados y se puede evaluar. ・実績もあり、評価できる。</p>
<p>1.5. Realizar pasantías sobre técnicas de epidemiología a los docentes jóvenes de FCV-UAGRM. モレノ大学の若手教員に疫学技術のOJTを行う。</p>	<p>Existen resultados y se puede evaluar. ・実績もあり、評価できる。</p>
<p>1.6. Realizar curso de actualización sobre técnicas de diagnóstico de laboratorio a los docentes de FCV-UAGRM involucrados en el proyecto. プロジェクトに関わるモレノ大学の教員にラボにおける診断技術の更新コースをする。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。</p>
<p>1.7. Realizar investigaciones. 研究を実施する</p>	<p>Existen resultados y se puede evaluar. ・実績もあり、評価できる。</p>
<p>2.1. Planificar las capacitaciones en acuerdo a las necesidades de veterinarios de laboratorios (fuera de la FCV-UAGRM) y de campo. 大学以外の獣医の必要に沿ったトレーニング計画を作る。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。</p>
<p>2.2. Dar curso de capacitación sobre técnicas de diagnóstico a dichos veterinarios. 上記の獣医に対し、診断技術のトレーニングコースを行う。</p>	<p>Se desea que se investigue el grado de eficiencia alcanzado. ・効果がどの程度上がっているのか調査することが望まれる。</p>
<p>2.3. Dar curso de capacitación sobre técnicas de muestreo a dichos veterinarios. 上記の獣医にサンプリング技術のトレーニングコースを行う。</p>	<p>Es deseable la sistematización de la capacitación para los veterinarios de campo. ・現場の獣医師向けの研修の制度化が望まれる。</p>

3.1. Planificar la introducción de equipamientos, insumos y acondicionamiento del edificio de acuerdo a las necesidades. 必要に基づくラボの機材の設置、消耗品の設置、建物の改修計画を作る。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。
3.2. Acondicionar el espacio físico del laboratorio. ラボの建物の改修をする。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。
3.3. Introducir nuevos equipamientos e insumos en los laboratorios vinculados con las temáticas del proyecto. プロジェクトのテーマに関係するラボの機材、消耗品を設置する。	Con relación a los insumos necesarios para los estudios, es necesario analizar si está asegurado el presupuesto y la forma de adquisición luego de la finalización del Proyecto. ・検査に必要な消耗品について、プロジェクト終了後に予算を確保できるのか、また購入ルートは確保されているのか、検討が必要である。

(2) ボリビアで期待される成果の達成度

PDM Ver.2 に基づくボリビアの成果の評価は次のとおりである。

成果の項目	評価(コメント)
1. Se mejora la capacidad de los docentes de F.C.V.-U.A.G.R.M. モレノ大学獣医学部の教員の能力が向上する。	Existen resultados y se puede evaluar. ・実績もあり、評価できる。
2. Se mejora la capacidad de los veterinarios de laboratorios de salud animal y de campo. 大学以外の獣医の能力が向上する。	Se desea que se investigue el grado de eficiencia alcanzado. Se desea la sistematización de la capacitación de los veterinarios de campo. ・効果がどの程度上がっているのか調査することが望まれる。 ・現場の獣医師向けの研修の制度化が望まれる。
3. Se mejora el entorno para diagnóstico e investigación en la FCV-UAGRM. モレノ大獣医学部の診断と研究の環境が改善する。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。

(3) ボリビアのプロジェクト目標の評価




目標の項目	評価(コメント)
<p><u>Objetivo Regional 広域目標</u></p> <p>Se generan informaciones relativas a las enfermedades vinculadas al proyecto. プロジェクトが扱う疾病についての情報が作られる。</p>	<p>Se elaboraron los informes de las enfermedades aprobadas en CCC.</p> <p>Se puede elaborar de acuerdo a los resultados.</p> <p>・実績について、評価できる。</p> <p>・JCC において承認された疾病についてのレポートが作成されている。</p>
<p><u>Objetivo Nacional 国目標</u></p> <p>Se mejora la capacidad de diagnóstico de enfermedades en los animales domésticos de Bolivia. ボリビアの家畜疾病診断能力が向上する。</p>	<p>EA grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados.</p> <p>・実績について、おおむね評価できる。</p>

4-2-3 パラグアイのプロジェクトの評価

(1) パラグアイの活動の進捗

PDM Ver.2 に基づくパラグアイのプロジェクト活動の評価の概要は次のとおりである。

活動項目	評価(コメント)
<p>1.1. Planificar las capacitaciones y las investigaciones de acuerdo a las necesidades de la FCV-UNA. アスンシオン大学獣医学部の必要に沿ったトレーニング計画及び研究計画を作成する。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados.</p> <p>・実績について、おおむね評価できる。</p>
<p>1.2. Dar curso de capacitación sobre técnicas de diagnósticos a docentes de FCV-UNA アスンシオン大学獣医学部教員に診断技術のトレーニングコースを行う。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados.</p> <p>・実績について、おおむね評価できる。</p>
<p>1.3. Dar curso de capacitación de técnicas de epidemiología a docentes de FCV-UNA アスンシオン大学獣医学部教員に疫学技術のトレーニングコースを行う。</p>	<p>Se puede evaluar la participación de otros veterinarios no docentes.</p> <p>・教員以外の参加もあり、評価できる。</p>
<p>1.4. Realizar pasantías en técnicas de diagnósticos a docentes de FCV-UNA アスンシオン大学獣医学部の教員に診断技術のOJTをする。</p>	<p>Existen resultados y se puede evaluar.</p> <p>・実績もあり、評価できる。</p>

活動項目	評価(コメント)
1.5. Realizar pasantías en técnicas de epidemiología a docentes de FCV-UNA アスンシオン大学獣医学部の教員に疫学技術のOJTをする。	Existen resultados y se puede evaluar. ・実績もあり、評価できる。
1.6. Realizar investigaciones 研究を実施する	Existen resultados y se puede evaluar. ・実績もあり、評価できる。
2.1. Planificar las capacitaciones en acuerdo a las necesidades de los veterinarios de laboratorios (fuera de la FCV-UNA) y de campo. 大学以外の獣医の必要に沿ったトレーニング計画を作る。	Se requiere la sistematización de la capacitación local en coordinación con otras instituciones. ・他機関と調整の上、国内研修の制度化が求められる。
2.2. Dar curso de capacitación sobre técnicas de diagnósticos a dichos veterinarios. 上記獣医に診断技術のトレーニングコースを行う。	Se puede evaluar a grandes rasgos pero no se ha alcanzado el indicador. ・おおむね評価できるが、指標に示された数には届かなかった。
2.3. Dar curso de capacitación en técnicas de muestreo a dichos veterinarios. 上記獣医にサンプリング技術のトレーニングコースを行う。	Es deseable la sistematización de la capacitación para los veterinarios de campo. ・現場の獣医師向けの研修の制度化が望まれる。
3.1. Planificar la introducción de equipamientos, insumos y acondicionamiento de edificio de acuerdo a las necesidades. 必要に基づくラボの機材の設置、消耗品の設置、建物の改修計画を作る。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。
3.2. Acondicionar el espacio físico del laboratorio. ラボの建物の改修をする。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。
3.3. Introducir nuevos equipamientos e insumos en los laboratorios vinculados a las temáticas del proyecto. プロジェクトのテーマに関係するラボの機材、消耗品を設置する。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. Es necesario analizar si está asegurado el presupuesto para insumos después de la finalización del Proyecto. ・実績について、おおむね評価できる。

活動項目	評価(コメント)
	・プロジェクト終了後の消耗品の購入予算が確保されているのか、検討が必要である。

(2) パラグアイで期待される成果の達成度

PDM Ver.2 に基づく整理されたパラグアイの成果の評価は次のとおりである。

成果の項目	評価(コメント)
1. Se mejora la capacidad de los docentes de F.C.V.-U.N.A. ア大獣医学部の教員の能力が向上する	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。
2. Se mejora la capacidad de veterinarios de laboratorio y de campo. ラボ及び現場の獣医師の能力が向上する	Se desea que se investigue el grado de eficiencia alcanzado. Se desea la sistematización de la capacitación de los veterinarios de campo. ・効果がどの程度上がっているのか調査することが望まれる。 ・現場の獣医師向けの研修の制度化が望まれる。
3. Se mejora el entorno para diagnóstico e investigación en la FCV-UNA. ア大獣医学部の診断と研究の環境が改善する。。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。

(3) パラグアイのプロジェクト目標の評価

目標の項目	評価(コメント)
<u>Objetivo Regional 広域目標</u> Se generan información relativas a las enfermedades vinculadas al proyecto. プロジェクトが扱う疾病についての情報が作られる。	Prácticamente se han logrado los objetivos del Proyecto. Se encuentra elaborado los informes de las enfermedades aprobadas en CGC. ・プロジェクト目標はほぼ達成された。 ・JCC において承認された疾病についてのレポートが作成されている。
<u>Objetivo Nacional 国目標</u> Se mejora la capacidad de diagnóstico de enfermedades de los animales domésticos en Paraguay. パラグアイの家畜疾病診断能力が向上する。	La técnica de diagnóstico de las enfermedades aviares que antes del Proyecto se realizaba sólo por autopsia, ha dado un avance importante. ・プロジェクト開始前は、解剖所見による診断に頼っていた鶏病の診断技術が、大きく向上した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト終了時までには診断した家畜疾病の数が 増えることが期待できる。 ・鶏病の診断技術の向上が望まれる。
--	---

4-2-4 ウルグアイのプロジェクトの評価

(1) ウルグアイの活動の進捗

PDM Ver.2 に基づくウルグアイのプロジェクト活動の評価の概要は次のとおりである。

活動項目	評価(コメント)
1.1. Implementar cursos de capacitación en la FV-UDELAR a los docentes jovenes en diagnóstico de enfermedad de animales domesticos. 共和国大学獣医学部の若手教員に家畜疾病診断のトレーニングコースを行う。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。
1.2. Realizar pasantías (OJTs) en laboratorios de la región a los docentes jovenes. 共和国大学獣医学部の若手教員に域内のラボにおける OJT を行う。	Existen resultados y se puede evaluar. ・実績があり、評価できる。
1.3. Realizar investigaciones 研究を実施する	Existen resultados y se puede evaluar. ・実績があり、評価できる。
2.1. Implementar cursos de diagnóstico de enfermedad de animales domesticos en la FV-UDELAR a veterinarios de laboratorios. 共和国大学獣医学部においてラボの獣医向けの診断コースを行う。	Debería investigarse el grado de eficiencia alcanzado. Se desea la sistematización de los cursos sobre diagnósticos organizados por los profesores de la Facultad. ・効果がどの程度上がっているのか調査するべきである。 ・大学の教員が主体となる診断コースの制度化が望まれる。
2.2. Realizar pasantías (OJTs) en la FV-UDELAR a veterinarios de laboratorios. 共和国大学獣医学部においてラボの獣医に OJT を行う。	Debería investigarse el grado de eficiencia alcanzado. Se desea la sistematización de los cursos ejecutados sobre Prácticas de Técnicas de Laboratorios. ・効果がどの程度上がっているのか調査するべきである。 ・実施されたラボ技術実習コースの制度化が望まれる。

<p>3.1. Implementar cursos de diagnóstico de enfermedad de animales domesticos en la FV-UDELAR a los veterinarios de campo. 共和国大学獣医学部において現場の獣医に対して家畜疾病診断のコースを行う。</p>	<p>Debería investigarse el grado de eficiencia alcanzado. Es deseable la sistematización de los cursos de diagnóstico de enfermedades en animales domésticos a través de la Unidad de Educación Continua. ・効果がどの程度上がっているのか調査するべきである。 ・卒後研修ユニットを活用し、現場の獣医師を対象とした家畜疾病診断コースの制度化が望まれる。</p>
<p>3.2. Desarrollar guías instructivas para actividades relacionadas al diagnóstico de enfermedades. 疾病診断に関する活動のための指導マニュアルを発展させる。</p>	<p>Es deseable la confección de manuales de enfermedades para los veterinarios del campo. ・現場獣医向け疾病マニュアルの作成を望む。</p>
<p>4.1. Planificar la introducción de equipamientos, insumos y acondicionamiento del edificio de acuerdo a las necesidades. 必要に基づくラボの機材の設置、消耗品の設置、建物の改修計画を作る。</p>	<p>Se requiere introducir la remodelación de laboratorios de acuerdo a la normas internacionales en el Plan de traslado. ・国際基準に沿ったラボ設計を移転計画に盛り込む。</p>
<p>4.2. Acondicionar el espacio físico del laboratorio. ラボの建物の改修をする。</p>	<p>No se ha alcanzado por el plan de traslado, que es una causa externa. ・移転計画という外部要因により達成されなかった。</p>
<p>4.3. Introducir nuevos equipamientos e insumo en los laboratorios vinculados a las temáticas del proyecto. プロジェクトのテーマに関係するラボの機材、消耗品を設置する。</p>	<p>Con relación a los resultados, en general se pueden evaluar. Es necesario analizar si está asegurado el presupuesto para la adquisición de insumos luego de la finalización del Proyecto. ・実績について、おおむね評価できる。 ・プロジェクト終了後の消耗品の購入予算が確保されているのか、検討が必要である。</p>

(2) ウルグアイで期待される成果の達成度

PDM Ver.2 に基づくウルグアイの成果の評価は次のとおりである。

成果の項目	評価(コメント)
<p>1. Se mejora la capacidad de los docentes de FV-UDELAR 共和国大学獣医学部の教員の能力が向上す</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。</p>




成果の項目	評価(コメント)
る。	
2. Se mejora la capacidad de los veterinarios de laboratorios. ラボの獣医の能力が向上する。	Es deseable la sistematización de la capacitación local, organizado y ejecutado por los investigadores de laboratorio, tales como el curso de técnicas de diagnóstico. ・大学スタッフが主体的に計画・実施したラボ診断技術コースの様な形で、国内研修の制度化が望まれる。
3. Se mejora la capacidad de los veterinarios de campo (Clinicos). 現場の獣医の能力が向上する。	Debería investigarse el grado de eficiencia alcanzado. Es deseable la sistematización de los cursos de diagnóstico de enfermedades en animales domésticos a través de la Unidad de Educación Continua. ・効果がどの程度上がっているのか調査するべきである。 ・卒後研修ユニットを活用し、現場の獣医師を対象とした家畜疾病診断コースの制度化が望まれる。
4. Se mejora el entorno para diagnóstico e investigación en la FV-UDELAR. 共和国大獣医学部の診断と研究の環境が改善する。	Se requiere la utilización eficiente de los equipos donados. Introducir en el plan de traslado la construcción del laboratorio según las normas internacionales. ・供与された機材の有効活用が求められる。 ・国際基準に沿ったラボ設計を移転計画に盛り込む。

(3) ウルグアイのプロジェクト目標の評価

目標の項目	評価(コメント)
<u>Objetivo Regional 広域目標</u> Se generan informaciones relativas a las enfermedades de animales vinculadas al Proyecto プロジェクトが扱う疾病についての情報が作られる。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. Se han elaborado los informes científicos sobre las enfermedades aprobadas en el CCC. ・実績について、おおむね評価できる。 ・JCCにおいて承認された病気についてのレポートが作成されている。
<u>Objetivo Nacional 国目標</u> Se mejora la capacidad de diagnóstico de	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados.

<p>enfermedades de animales domésticos en Uruguay. ウルグアイの家畜疾病診断能力が向上する。</p>	<p>・実績について、おおむね評価できる。</p>
---	---------------------------

4-2-5 広域の評価

(1) 広域活動の進捗

PDM Ver.2 に基づく広域活動の評価の概要は次のとおりである。

活動項目	評価(コメント)
<p>1-1. Establecer CCC como un sistema de coordinación regional del proyecto. 広域調整システムのための JCC を組織する。</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados ・実績もあり、評価できる。</p>
<p>1-2. Realizar reuniones periódicas (una vez por año) de CCC. 年 1 回定期的な JCC 会議を域内で開催する。</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados ・実績もあり、評価できる。</p>
<p>2. Realizar actividades en cada país (referirse al PDM de cada país) 各国の活動を実施する(各国の PDM の活動を参照)。</p>	
<p>3-1. Elaborar plan de investigación regional. 広域研究計画を作成する。</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados ・実績もあり、評価できる。</p>
<p>3-2. Coordinadores de cada país seleccionarán a los participantes de la investigación regional. 各国コーディネーターが広域研究に参加する者を選ぶ。</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados ・実績もあり、評価できる。</p>
<p>3-3. Desarrollar investigaciones regionales y elaborar informes de investigación en las temáticas involucradas. 当該分野の調査研究を行い、研究レポートを作成する。</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados ・実績もあり、評価できる。</p>
<p>4-1. Hasta fines del año 2008, establecer un reglamento acordado entre las 4 FCV sobre criterios para la difusión de la información generada por el proyecto. 2008 年末までに 4 獣医学部間で、プロジェクトで作成した情報の発信についてのクライテリアに関する規則を作る。</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados ・実績もあり、評価できる。</p>

活動項目	評価(コメント)
<p>4-2. Procesar todos los informes autorizados en español por sus autores para ser divulgados hacia veterinarios y productores a partir del inicio del año 2009.</p> <p>2009年初めから承認されたすべてのレポートを獣医師及び生産者向けに著者によりスペイン語によって加工する。</p>	<p>Se desea que aumente la cantidad de informes procesados antes de la finalización del Proyecto.</p> <p>・プロジェクト終了までに、より多くのレポートの加工が望まれる。</p>
<p>4-3. A partir del inicio del año 2009, distribuir la información procesada en el sitio Web del proyecto y Newsletter.</p> <p>2009年初めから加工された情報をプロジェクトのウェブサイトまたはニュースレターに配信する。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados.</p> <p>・実績について、おおむね評価できる。</p>
<p>4-3. A partir del inicio del año 2009, distribuir la información procesada en el sitio Web del proyecto y Newsletter.</p> <p>2009年初めから加工された情報をプロジェクトのウェブサイトまたはニュースレターに配信する。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados.</p> <p>・実績について、おおむね評価できる。</p>

(2) 広域プロジェクトの成果の達成度

PDM Ver.2に基づく広域の成果の評価は次のとおりである。

成果の項目	評価(コメント)
<p>1. Se establece un sistema de coordinación regional</p> <p>広域調整システムが作られる。</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados</p> <p>・実績もあり、評価できる。</p>
<p>2. Se generan informes vinculados a las temáticas del proyecto.</p> <p>プロジェクトのテーマに関するレポートが作成される。</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados</p> <p>・実績もあり、評価できる。</p>
<p>3. Se forman grupos de investigación en la region</p> <p>広域研究グループが作られる。</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados</p> <p>・実績もあり、評価できる。</p>

<p>4. Las informaciones utilizables son distribuidas a los veterinarios de campo y productores. 現場獣医や生産者が利用可能な情報が普及している。</p>	<p>Se desea que aumente la cantidad de informes procesados antes de la finalización del Proyecto. Se desea una mayor expansión del contenido y difusión del sitio web. ・プロジェクト終了までに、より多くのレポートの加工が望まれる。 ・ウェブサイト等の内容及び広報手段がさらに拡充されることが望まれる。</p>
--	---

(3) 広域プロジェクト目標の評価

目標の項目	評価(コメント)
<p>Se utiliza la información elaborada por el Proyecto en la práctica profesional de los veterinarios de campo. 域内獣医の業務においてプロジェクトによって作られた情報が活用される。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. Se desea perfeccionar aún más el contenido de la página Web. Al mismo tiempo, se desea que este sitio se expanda y sea utilizado por los veterinarios fuera del Proyecto. ・実績について、おおむね評価できる。 ・プロジェクト終了後もウェブサイトの内容を更に充実させるとともに、当サイトが本プロジェクト以外の獣医師にも幅広く活用される取り組みを継続的に実施されることが望まれる。</p>

5. 評価結果

プロジェクトの達成度の調査結果を受け、プロジェクトは次の5項目(判断基準)に沿って評価した。

項目	評価	判断根拠
妥当性	妥当性はおおむね高いと考えられる。	1. 日本 わが国は、アルゼンチンに対する協力の重点分野として、これまで実施してきた国際協力を生かした南南協力の推進を掲げるとともに、地域が抱える共通の課題を地域全体の開発ニーズとして広域協力を効果的に実施するとの方針を持っている。長年にわたり日本が技術協力を続け

項目	評価	判断根拠
		<p>てきたラ・プラタ大学獣医学部を中心とした本プロジェクトは、その方針と合致し、きわめて妥当性が高いと言える。また、ボリビアやパラグアイにおいては、貧困対策が援助の重点課題として掲げられている。家畜衛生に関わる人材を育成することは、当該分野の進展に寄与し、衛生管理の改善等が図られることから、畜産が大きな収入源となっている貧困層に裨益すると考えられる。加えて、当プロジェクトの活動を通し、狂犬病などの人獣共通感染症に係る疾病対策にも力を入れており、人間の安全保障にも貢献している。</p> <p>2. アルゼンチン</p> <p>アルゼンチン政府(文部省)は、大学の国際化を推進する政策を採っており、ラ・プラタ大学を核とした広域協力の推進には意欲的である。ラ・プラタ大学はラテンアメリカの獣医学部の中で最も質の高い教育を提供することを目指しており、広域に学生を受け入れることを推進する方針を採っている。また、アルゼンチン政府の家畜衛生関連分野における責任機関(SENASA)とはスタッフのトレーニングに関する協定を結んでおり、SENASA スタッフの教育を一手に引き受けている。もともと当該機関のスタッフには当獣医学部出身者が多いために、関係は良好かつ密であり、国としての家畜衛生改善に大きく貢献している。</p> <p>3. ボリビア、パラグアイ、ウルグアイ</p> <p>各大学獣医学部は域内獣医師や家畜生産者に適切な診断情報を提供するための広域活動の重要性を認識している。また、各国では大学が現場獣医師を含む卒業した獣医師に対する再教育、情報提供を行う種々の研修コースが実施されている。当プロジェクトの活動を通して移転された診断技術や研究成果、調査結果などが、これら研修コースに反映されてきており、プロジェクト・サイト以外の獣医師にも裨益し、科学的な診断手法が取り入れられるようになってきた。</p> <p>4. 政策上の優先度</p> <p>家畜疾病は家畜生産に甚大な被害を与えるというばかりでなく、家畜からヒトへ伝播する人獣共通感染症という人の健康にも重大な影響を及ぼす可能性がある疾病もある。このため、OIE/FAO は国境を越えた家畜疾病対策への取り組みを重要と位置づけており、そうした取り組みにこのプロジェクトは整合している。</p>

項目	評価	判断根拠
		<p>5. 地域としての行動計画</p> <p>現在、当該地域においては、獣医学部間における単位の互換制度を構築する取り組みが進められている。当プロジェクトによる活動を通し、各大学においては、施設の整備が進み、技術レベルが向上し、研究成果が上がってきたことにより、いずれの大学も単位互換制度の取り組みに参加できるまでに発展してきており、本プロジェクトの妥当性は大きいと推定される。</p>
効率性	効率性は国によりばらつきが見られる	<p>日本側の投入は概ね計画どおり実施されている。投入の活用状況も概ね良好である。</p> <p>当初、各国で共通の課題についての研究を進めようとしたため、なかなか話がまとまらずに決定が遅れてしまった。その後、各国はそれぞれ異なる問題を抱えていることから別々のテーマを選ぶという方針に変更され、各国毎に研究のテーマが決められた。</p> <p>機材の投入の質・量・タイミングについて、ボリビア及びウルグアイにおいては、一部機材の引き取りが遅れたため、第三国専門家の活動に不都合が生じたことが確認された。また、パラグアイにおいては、指定した仕様様の機材が納入されず、同様に第三国専門家の活動に不都合が生じた。</p> <p>アルゼンチン側の C/P の投入については、質・量・タイミングとも特に問題はない。</p> <p>ボリビア側の C/P の投入は、モレノ大学獣医学部において、ラ・プラタ大学での研修や第三国専門家による OJT を通して診断技術を習得した若手スタッフが、診断ラボの職員として採用されている。また、アスンシオン大学獣医学部においても同様に職員が採用されている。</p> <p>ウルグアイは他国よりもおよそ1年開始が遅れたものの、パラグアイ及びボリビアと同様にプロジェクトの活動を担う若手教員を数名増員しており、プロジェクト後半は活発に活動を推進して、中間評価時には遅れていると指摘を受けていた成果をほぼ達成することができた。</p>
有効性	有効性は高い	<p>各国ともにプロジェクト目標はおおむね達成されており、中間レビューの提言等を踏まえた結果、計画、実施、モニタリングなど共同実施体制及び各国におけるプロジェクト運営が有効に機能したためと推察される。現場の獣医師に対する診断技術の普及について、活動が若干弱い傾向が見られたが、プロジェクト関係者のインセンティブやモチベーションはどの国においても非常に高まってきており、今後ともプロジェクトの成果を効</p>

項目	評価	判断根拠
		<p>果的に普及していくものと期待される。プロジェクトにありがちな C/P の交代や人材流出など、外部条件に係る問題も殆ど見受けられず、その意味においても有効性が高いと判断される。</p> <p>当プロジェクトにおいては、研修員の約60%、第三国専門家の約35%が女性であること、また、各国プロジェクト・コーディネーターにも女性がひとり含まれていることから、ジェンダーに対する配慮が伺えた。</p>
インパクト	<p>マイナスのインパクトは特に生じていない。</p> <p>プラスのインパクトは上位目標の達成の可能性が期待できる。</p>	<p>プロジェクトが掲げる上位目標である、「南米南部地域の獣医の家畜疾病診断についての卒後継続研鑽が推進される」は、今後プロジェクトが家畜疾病診断分野の情報を発信することによる波及効果として実現されることが期待できる。これまでもプロジェクト・ウェブサイトへのアクセス件数や、メーリング・リストへの登録数は、年々上昇しており、そういった数字から判断しても当該地域の獣医師が、プロジェクトによる成果を活用している現状がうかがい知れる。</p> <p>技術的なインパクトとしては、診断能力の向上と、研究成果の報告書作成能力の向上が上げられる。各大学ともに若手教員の診断能力、特に分子診断能力が大幅に向上しており、供与された機材を活用して活発に疾病診断や調査に取り組んでいるそしてその結果を論文にまとめて発表しており、このプロジェクトを通して計 26 編の査読付論文が発表されていることは大きな成果と言える。</p> <p>また当プロジェクトによるプラスのインパクトとして最も評価されるのは、各大学スタッフ間に強い絆が生まれたことであり、特にラ・プラタ大学と他 3 ヶ国間における関係が深まったことである。以前のような大学間の関係ではなく、スタッフ個人個人の顔が見える関係が生まれており、このような利害関係を越えたところにある関係は今後とも長く続くことが推察される。本プロジェクトで培われた関係が、各大学の診断・研究能力の向上だけにとどまらず、今後、域内の家畜衛生分野の進展に大きく貢献することが期待される。</p>
自立発展性	<p>引き続き、自立発展性に配慮した取り組みが重要である</p>	<p>(1)技術面</p> <p>過去の協力の経験から、関係国において技術面の自立発展性は十分に期待できる。プロジェクトを通して移転された診断技術は、ある特定の疾病ばかりでなく他の疾病にも応用できるものであるから、そういった部分においての情報交換を各国間で行い、地域全体としてのレベル向上につなげていくことが望まれる。</p>

項目	評価	判断根拠
		<p>(2)財政面 財政面も国によって差があるが、特にボリビア及びパラグアイにおいては、プロジェクトで投入された機材のスペアパーツや検査に係る消耗品の調達を国内で行うことが難しい。また、ウルグアイも含め、それらの調達のための予算措置について、今後、適切な対応を考える必要がある。</p> <p>(3)組織面 大学を対象とした協力であるため、政治状況の変動による影響を受けにくく、組織としての継続性が十分に期待できる。</p>

6. 結論

評価チームは、評価調査の結果、当初種々の問題があったものの、中間レビュー以降は順調に実施されたことにより、多くの成果が発現していることが確認できた。評価 5 項目に関し、妥当性は概ね高いと判断でき、また、有効性も高いと判断される。効率性に関しては、プロジェクト開始当初に足並みの乱れが生じ、国毎に差が出る要因となった。一部、プロジェクトの運営において支障を生じさせる懸念があったものの、結果的に大きな不都合は生じなかった。インパクトに関連し、現時点でマイナスの影響が見いだせない。自立発展性に関しては、関係各国によるさらなる努力が必要である。同じ地域、同じ家畜衛生分野、同じ大学という機関でありながら、交流が非常に乏しかった4ヶ国の大学が、当プロジェクトを通して非常に深い信頼関係を築き上げることができたことは、プロジェクト関係者の間で広く共有されている。このような関係は努力によって保つことができるものであり、容易に消えてしまうものではない。しかしながら、プロジェクトによって培った技術を活用し、研究を続け、成果を普及していくためには、各国関係機関とのネットワークの構築や実務面での強化もより意識すべきと考える。終了時評価調査を通じて得られたこれら評価結果に基づき、プロジェクト終了後の発展に向けていくつかの課題が抽出された。そこで、評価チームは、これらに関する改善への提言を行うとともに、今後の類似プロジェクトの実施に当たっての教訓を示すこととする。

7. 提言

これまでの評価の結果に基づき、評価チームは、次の事項に対処することをプロジェクトチームに対して提言する。

(1) プロジェクトの今後

本プロジェクトについては、2005年8月の開始から2010年7月までの5年間の予定で実施されてきた。今回の終了時評価調査において、広域及び各国の活動を通じてプロジェクト目標が概ね達成




されていることが確認されたことから、計画どおり 2010 年 7 月をもって本プロジェクトは終了する。本プロジェクトを通じて培われた診断技術や疫学技術、各大学との協同体制等のプロジェクトの成果については、各大学の自助努力により維持、発展されるよう今後とも積極的に取り組まれることが望まれる。

本プロジェクトにおいて培われた診断技術等の拡大強化のために更に支援が必要な場合には、JICA 事務所と相談の上、既存のスキームを活用した協力を検討されることが望ましい。

(2) 自立発展性についての認識向上

プロジェクト活動は、プロジェクト実施機関だけのために行なわれているのではなく、プロジェクト終了後の自立発展的な活動継続のために行なわれるものであることを、関係者は強く認識すべきである。各国は活動継続に必要な資金源の確保を図ることもさることながら、診断技術及び疫学技術の自立発展的な向上並びに精度の高いより確実な情報発信を図るため、各国間の診断法の統一化・標準化に向けた取り組みを継続的に実施すべきであり、また統一化・標準化された対象疾病数を増加するよう努めることが望まれる。

(3) 卒後継続研鑽機会の制度化

獣医師は社会の要請に応えるために常に研鑽することがもとめられる。大学学部における獣医学教育には限界があることから、本プロジェクトで取り組まれた活動を参考に、現場の獣医師のニーズに基づいた卒後継続研鑽を制度化することにより、地域獣医療水準が向上されることが望ましい。更に、各国間で調整した卒後継続研鑽を制度化することにより、地域共通の課題について質の高い研修が実施されることが期待される。

(4) 行政機関との適切な連携に関する検討

本プロジェクトで行われる活動は、最終的には生産現場における家畜衛生分野のニーズに適切に応えるためのものであり、それゆえ、関係する獣医師の診断に関する能力向上をひとつの重要な成果としている。その目的を適切かつ効率的に達成していくためには、各国政府関係機関や獣医関係団体との良好な関係が必要不可欠であるため、プロジェクト活動を通して生まれた関係を礎にして、今後強固なネットワークへと発展させていくべきである。

(5) 診断技術及び疫学技術の能力向上の継続

本プロジェクトでは、大学の若手教員に技術研修を施して能力を向上するという活動はニーズに適合し、成果を上げた。特に受益対象 3 ヶ国においては獣医学教育が充実しているとは言い難い。大学教員の能力向上は学部学生の教育レベルの改善、現場獣医師への研修提供の前提条件である。本プロジェクトで、ラプラタ大学の獣医疫学の若い教員により「獣医学における生物統計学マニュアル」が作成されるなど各大学教員の診断技術等の能力向上が図られてきた。今後とも、調査研究分野で切磋琢磨することにより、診断技術及び疫学技術の能力向上に努めることが望まれる。



(6) 消耗品の購入予算等の確保

プロジェクト終了後、活動によって培われた診断や研究を継続していくためには、試薬やプラスチック類など消耗品の購入や、設置された機材類の維持管理が必要不可欠である。そのため、各大学は、プロジェクト終了後に必要な予算を継続的に確保できるのか、また消耗品等の購入ルートは確実に確保されているのか等を十分に検討し、適切に対応する必要がある。必要な予算を確保する方法として、検査料の徴収や診断液の販売などが考えられるが、生産者組合など関係機関との連携も視野に入れ、各国に適した方法が検討されることが期待される。

なお、各大学は、インキュベーターや冷蔵庫、冷凍庫などの温度管理は、検査結果や試薬類の品質に直接影響を及ぼす要因であることから、バックアップ体制を整備するなど早急な対応が望まれる。

(7) プロジェクト・ウェブサイトの継続・発展

2009年12月、「イベロアメリカ獣医予防疫学会」が発足した。この学会発足は本プロジェクトのネットワークが下地になっている。当該学会には、本プロジェクトで獣医学に興味を抱いた獣医師たちが多く参加しており、この分野の活動が活性化されることが期待される。これを足掛かりに、本プロジェクトで構築された情報ネットワークがこの学会と歩調を合わせて発展できるよう、掲載内容の充実や域内の多くの獣医師に幅広く活用されるような積極的な取り組みが継続されることが期待される。

(8) プロジェクト計画書(PDM)の見直し

現行のプロジェクト計画書である PDM(以下、「PDM Ver.2」と記す)は、プロジェクト中間評価の提言に従って改訂されたものであるが、外部条件が記入されていない。今回の終了時評価では、PDM Ver.2 を用いて評価を実施した。その結果、プロジェクト活動を阻害する大きな外部条件は確認できなかったため、評価を実施するに当たり問題とはならなかった。


しかしながら、今後プロジェクトを終了するまでの期間に、何らかの外部条件が起り、プロジェクト目標の達成に影響を及ぼす可能性が否定できないため、PDM Ver.2 に外部条件を新たに加えた PDM ver.3 を作成することが推奨される。

8. 教訓

これまでの評価の結果に基づき、評価チームは、今後の類似プロジェクトの実施に当たって、次の事項を教訓として示す。

(1) プロジェクトに対する共通認識の醸成

広域協力の実施に当たっては、中核国(機関)の運営面でのオーナーシップ及び受益国(機関)のモチベーションが不可欠である。プロジェクト関係者は、これらをもとに共通課題及び実施枠組みについてのコンセンサスをプロジェクト開始時点までに得ることが重要である。



(2) プロジェクト計画書(PDM)策定時の留意事項

PDM Ver.2については中間評価時に大幅に改定されたが、アルゼンチン分のPDM Ver.2において、成果2の活動の記述が不十分であり、論理的に構成されていない。PDM を策定するに当たっては、成果と活動が論理的に構成されるよう配慮すべきである。

以上



Nombre del proyecto: PROVETSUR
 プロジェクト名: 広域協力を通じた南米南部家畜衛生改善のための人材育成プロジェクト

Grupo objetivo: Veterinarios de la región
 ターゲットグループ: 域内獣医

Area geográfica: Parte sur de Sudamérica
 対象地域: 南米南部地域

	Resumen Narrativo要約	Indicadores指標	Medios de Verificación入手手段	
Objetivo Superior 上位目標	Se promueve el desarrollo profesional continuo sobre diagnóstico de salud animal en la parte sur de Sudamérica 南米南部地域の獣医の家畜疾病診断についての卒業継続研修が推進される。	Al quinto año posterior del proyecto, más de la mitad de los veterinarios de la región están aprendiendo para poder adquirir conocimiento renovado sobre diagnóstico de enfermedad animal. プロジェクト終了後5年後に域内獣医の過半数が家畜疾病の診断について更新された科学的知見を得るために学んでいる。	Análisis estadística con la encuesta por cada facultad. 各大学獣医学部のアンケート調査と統計的解析	
Objetivo Específico Regional 広域プロジェクト目標	Se utiliza la información elaborada por el Proyecto en la práctica profesional de los veterinarios de campo. 域内獣医の業務においてプロジェクトによって作られた情報が活用される。	1. Año tras año aumenta el número de accesos al sitio web del PROVETSUR. 毎年プロジェクトのウェブサイトへのアクセス数が増える。 2. Año tras año aumenta el número de consultas recibidas a través de la lista de correos electrónicos. 毎年メールマガジンを送る回数が増える。	Lista de acceso de sitio Web de FGV-UNLP. ラプラタ大学獣医学部にあるプロジェクトのWeb サイトのアクセス数リスト Página de administrador de correo electrónico de la FGV-UNLP. ラプラタ大学獣医学部のプロジェクトメールマガジンの管理者用頁	
Componentes コンポーネント	1. Se establece un sistema de coordinación regional 広域調整システムが作られる。	1. En las reuniones del Comité de Coordinación Conjunta, se toman las decisiones sobre planificación, implementación y monitoreo del proyecto. プロジェクト調整委員会においてプロジェクトの計画、実施、モニタリングに対する決定がなされる。	Minutas de CCC JCC報告書(ミニッツ)	
	2. Se generan informes vinculados a las temáticas del proyecto. プロジェクトのテーマに関するレポートが作成される。	Se elaboran informes vinculados a las temáticas del proyecto en cada país según el plan de cada país. 各国においてプロジェクト関連のテーマに関するレポートが国ごとの計画で作られる。	Informe periódico del proyecto. プロジェクトの定期報告書	
	2-1. Objetivo Nacional Argentina アルゼンチンの目標	Referirse a la PDMe Argentina. アルゼンチンのPDMを参照	Informe periódico del proyecto. プロジェクトの定期報告書	
	2-2. Objetivo Nacional Bolivia ボリビアの目標	Referirse a la PDMe Bolivia. ボリビアのPDMを参照	Informe periódico del proyecto. プロジェクトの定期報告書	
2-3. Objetivo Nacional Paraguay パラグアイの目標	Referirse a la PDMe Paraguay. パラグアイのPDMを参照	Informe periódico del proyecto. プロジェクトの定期報告書		
2-4. Objetivo Nacional Uruguay ウルグアイの目標	Referirse a la PDMe Uruguay. ウルグアイのPDMを参照	Informe periódico del proyecto. プロジェクトの定期報告書		
Resultados 成果	3. Se forman grupos de investigación en la región 広域研究グループが作られる。	1. Se forman 12 grupos de investigación (docente del país y docente de otro país participantes del proyecto) al tercer año del proyecto. プロジェクト3年までに12の広域研究グループ(自国とプロジェクト参加の他国の教員からなるグループ)が形成されている。 2. Se realizan 20 publicaciones científicas hasta el final del proyecto por grupos de investigación regional. プロジェクト終了時点で広域研究グループが20本の査読付論文を出版している。	Informe periódico del proyecto. プロジェクトの定期報告書 Informe periódico del proyecto. プロジェクトの定期報告書	
	4. Las informaciones utilizables son distribuidas a los veterinarios de campo y productores, 現場獣医や生産者が利用可能な情報が普及している。	1. A partir del inicio de año 2009, la información procesada está disponible en el sitio Web del proyecto. 2009年初めから加工された情報がプロジェクトのウェブサイトを利用して利用できる。 2. A partir del inicio de 2009, las informaciones procesadas son divulgadas en seminarios de expertos y medios gráficos. 2009年初めからプロジェクトの専門家によるセミナーや印刷物により加工された情報が配信されている。	Datos de información distribuidas por sitio Web en FGV-UNLP. ラプラタ大学獣医学部にあるプロジェクトのWeb サイトの配信情報件数データ 記録 Informe periódico del proyecto. プロジェクトの定期報告書	
Actividades 活動	1-1. Establecer CCC como un sistema de coordinación regional del proyecto. 広域調整システムのためのJCCを組織する。			
	1-2. Realizar reuniones periódicas (una vez por año) de CCC. 年1回定期的なJCC会議を域内で開催する。			
	2. Realizar actividades en cada país (referirse al PDM de cada país) 各国の活動を実施する(各国のPDMの活動を参照)。			
	3-1. Elaborar plan de investigación regional. 広域研究計画を作成する。			
	3-2. Coordinadores de cada país seleccionar participantes de investigación regional. 各国コーディネーターが広域研究に参加する者を選ぶ。			
	3-3. Desarrollar investigaciones regionales y elaborar informe de investigación en temáticas involucradas. 当該分野の調査研究を行い、研究レポートを作成する。			
	4-1. Hasta fines del año 2008, establecer un reglamento acordado entre las 4 FCV sobre criterios para la difusión de la información generada por el proyecto. 2008年末までに4獣医学部間で、プロジェクトで作成した情報の発信についてのクライテリアに関する規則を作る。			
	4-2. Procesar todos los informes autorizados en español por sus autores para ser divulgados hacia veterinarios y productores a partir del inicio del año 2009. 2009年初めから承認されたすべてのレポートを獣医師及び生産者向けに著者によりスペイン語によって加工する。			
4-3. A partir del inicio del año 2009, distribuir la información procesada en el sitio Web del proyecto y Newsletter. 2009年初めから加工された情報をプロジェクトのウェブサイトまたはニュースレターに配信する。				
4-4. A partir del inicio del año 2009, divulgar las informaciones procesadas en seminarios de expertos y medios gráficos. 2009年初めから加工された情報を専門家によるセミナーや印刷物によって広報する。				

Precondiciones 前提条件

Nombre del proyecto: PROVEVISUR
プロジェクト名: 広域域外を越えた鳥形ウイルス
衛生改善のための人材育成プロジェクト

Grupo Objetivo: FCV-UNLP (a nivel nacional) Veterinarios de la región (a Arca Geográfica: Argentina (a nivel nacional)
a nivel regional)
ターゲットグループ 国レベル ラ大獣医学部 広域レベル: 域内獣医

Período del Proyecto: 1 Agosto de 2005 al 31 de Julio de 2010
プロジェクト期間: 2005年8月1日から2010年7月31日まで

	Resumen 要約	Indicadores 指標	Fuente de verificación 入手手段	Supuestos importantes 前提条件
Objetivo de proyecto プロジェクト目標	Objetivo Regional 広域目標 Se elaboran informes en temáticas vinculadas al Proyecto. プロジェクトのテーマに関するレポートが作られる。	30 docentes de FCV-UNLP realizan el menos 1 publicación o divulgación científica por año en las temáticas relacionadas al Proyecto. 30人のラ大獣医学部の教員がプロジェクトに関するテーマについての学術報告書及び普及誌を毎年最低1本発表している。	Informe periódico del proyecto. プロジェクトの定期報告書	
	Objetivo Nacional 国目標 Se mejora la capacidad de FCV-UNLP en las temáticas vinculadas al proyecto. ラ大獣医学部の当該分野の能力が向上する。	El número de servicios (diagnóstico, técnica de laboratorio, asesoramiento) prestados por FCV-UNLP a terceros aumenta 10% anual. ラ大獣医学部による第三者に対する疾病診断、ラボ技術、内外アドバイスのサービスが年毎に10%増える。	Informe anual de FCV-UNLP. ラ大獣医学部の年報	
Resultados 結果	1. Docentes en formación de FCV-UNLP se capacitan en técnicas de diagnósticas y epidemiológicas. ラ大獣医学部の育成中の教員が診断と疫学についての技術を習得している。	Al final del Proyecto, un total de 30 docentes en formación se capacitan en técnicas diagnósticas y epidemiológicas. プロジェクト終了時に30人の育成中の教員が診断と疫学技術についてトレーニングされている。	Informe periódico del proyecto. プロジェクトの定期報告書	Situación económica de productores se mantiene. 生産者の経済条件が維持される。
	2. Docentes de FCV-UNLP tienen la capacidad de transferir técnicas diagnósticas y epidemiológicas a los países involucrados en el proyecto. ラ大獣医学部の教員たちがプロジェクト参加の3か国の大学教員に診断と疫学技術を転送する能力が有している。	1. Un total de 20 docentes por país (Bolivia, Paraguay y Uruguay) son capacitados en la FCV-UNLP durante 5 años. 5年間で3か国の教員各20人がラ大獣医学部でトレーニングされている。 2. 30 expertos de la FCV-UNLP son enviados a Bolivia, Paraguay y Uruguay y capacitan a docentes de esos países. 30人のラ大獣医学部の専門家が3か国の大学に派遣され教員をトレーニングしている。	Informe periódico del proyecto. プロジェクトの定期報告書	
	3. Se mejora el entorno para diagnóstico e investigación en la FCV-UNLP. ラ大獣医学部の診断と研究の環境が改善する。	Al final del proyecto, han sido incorporados las normas y elementos de bioseguridad recomendados por normas internacionales y/o regionales en los laboratorios de Virología, Patología Aviar y Microbiología. プロジェクト終了時点でウイルス学、家禽病理学、微生物学の研究室のラボが国際及び又は域内の基準により改善された生物安全の要件を満たしている。	Informe periódico del proyecto. プロジェクトの定期報告書	
	4. Se desarrolla una red regional de diagnóstico e información epidemiológica, coordinada por la FCV-UNLP. ラ大獣医学部の調整による診断・疫学情報の広域ネットワークが確立する。	1. Se establece la red con las 3 coparticipes académicas participantes del proyecto. Proyecto participo de 3 universidades del área. 2. La información es actualizada regularmente a través de la red con un incremento del tráfico del 10% anual. 情報がネットワークにより更新され、毎年10%アクセスが増えている。	Minuta de CCC del proyecto. JOCのミニッツ	
Actividades 活動	1.1. Planificar las capacitaciones de acuerdo a las necesidades de la FCV-UNLP. ラ大獣医学部の必要に沿ったトレーニング計画を作成する。			
	1.2. Dar curso de capacitación en técnicas de diagnóstico a plantel de docente de FCV-UNLP. ラ大獣医学部教員群に対する診断技術のトレーニングコースを行う。			
	1.3. Dar curso de capacitación en técnicas de epidemiología a plantel de docente de FCV-UNLP. ラ大獣医学部教員群に疫学技術のトレーニングコースを行う。			
	2.1. Realizar pasantía en técnicas de diagnóstico a plantel de docente de FCV-UNLP. ラ大獣医学部教員群に診断技術のOJTを行う。			
	2.2. Realizar pasantía en técnicas de epidemiología a plantel de docente de FCV-UNLP. ラ大獣医学部教員群に疫学技術のOJTを行う。			
	3.1. Planificar la introducción de equipamiento, insumos y acondicionamiento de edificio de acuerdo a las necesidades. 必要に基づくラボの機材の調達、消耗品の確保、建物の改修計画を作る。			
	3.2. Acondicionar espacio físico del laboratorio de Pat. Aviar. 家禽病ラボの建物の改修をする。			
	3.3. Introducir nuevo equipamiento e insumos en laboratorios vinculados de temáticas del proyecto. プロジェクトのテーマに関連するラボの機材、消耗品を調達する。			
	4.1. Discutir y acordar una norma para el establecimiento de red entre las 4 facultades. 4か国の獣医学部間でネットワーク形成についての取組体制の検討と意思を統一する。			
	4.2. Crear un sitio Web que incluya información general del proyecto, noticias, correo, biblioteca y publicaciones científicas. プロジェクトのウェブサイトを立て上げる(プロジェクトの一般情報、ニュース、メール、図書館、調査研究出版物)			
Aportes 投入		Por Japón 日本による	for Argentina(FCV-UNLP) 並制 (ラ大獣医学部による)	
	Experto 専門家派遣	L.P. Epidemiología/ Coordinador de proyecto 55 MM (長期専門家) 疫学/プロジェクト調整 55MM L.P. Sistema de educación continua/administración regional 25 MM 専任後援/広域管理費 25MM Cto. P. Diagnóstico de enfermedad 1MM por año (短期専門家) 診断技術 年間1MM	Expertos de terceros países (expto costo de envío) 派遣コストを除く第三国専門家派遣	
	Personal administrativa 管理費	Ninguno なし	Un administrador del proyecto(coordinador) Un asistente del coordinador Un oficial del proyecto プロジェクトマネージャー コーディネーターのアシスタント プロジェクトマネージャー	
	Becarios 研修員	Recibir en Japón; Ninguno 日本研修なし	Recibir los becarios de los tres países. 第三国研修員の受け入れ	
	Infraestructura 施設	Ninguno なし	Acondicionamiento de laboratorio de Patología Aviar Ochinos para los expertos japoneses 家禽病ラボの改修 専門費用等費用	
	Equipamiento 機材	PCR real time, Clean bench(biohazard type), Autoclave, Microscopio, Automático lissue processor, proyector, fotocopadora, etc. リアルタイムPCR、クリーンベンチ(バイオハザードタイプ)、顕微鏡、自動切替機、プロジェクター、コピー機その他	Automóviles, Equipamiento de laboratorio etc. 車、ラボ機材等	Condiciones previas: Ninguno particular 前提条件 なし
Insumos 消耗品	Reactivos primer para diagnóstico 診断用試薬	Aportar 負担あり		
Costo local ローカルコスト	Aportar (incluyendo de costo de envío de expertos de terceros países) 負担あり(第三国専門家派遣経費を含む)	Aportar 負担あり		

Nombre del proyecto: PROYETSUR
 プロジェクト名: 広域能力を遂げた南米諸国獣害調査改善のための人材育成プロジェクト

Grupo Objetivo: FCV-UAGRM (a nivel nacional) Veterinarios de la región (a nivel regional)
 ターゲットグループ
 レベル: モノ大学獣医学部, 広域レベル: 域内獣医

Área Geográfica: Bolivia (a nivel nacional)
 Parte sur de Sudamérica (a nivel regional)
 ボリビア (広域レベル), 南米南部地域 (広域レベル)

Período del Proyecto: 1 Agosto de 2005 al 31 de Julio de 2010
 実行期間: 2005年8月1日から2010年7月31日まで

	Resumen Narrativo 要約	Indicadores 指標	Medios de Verificación 入手手順	Suposuestos Importantes 外部条件
Objetivo de proyecto プロジェクト目標	Objetivo Regional 広域目標 Se generan informaciones relativas a las enfermedades vinculadas al proyecto. プロジェクトが扱う疾病についての情報が作られる。	Se publica como mínimo un informe científico por cada enfermedad investigada al final del proyecto. プロジェクト終了時に研究対象の各疾病について少なくともひとつのリポートが発表されている。	Informe FCV-UAGRM y entrega del documento final de la investigación. 研究の終了時に提出されるモノ大学獣医学部の報告書	
	Objetivo Nacional 国目標 Se mejora la capacidad de diagnóstico de enfermedades de los animales domésticos en Bolivia. ボリビアの畜産疾病診断能力が向上する。	1. Al final del proyecto se incrementa el número de enfermedades diagnosticadas comparándolas al momento del inicio del proyecto. プロジェクト終了時、プロジェクト開始時に比較して診断される疾病の数が増える。 2. Al final del proyecto, se incrementa el número de métodos de diagnósticos de enfermedades. プロジェクト終了時、疾病診断技術の数が増える。	Informe de F.C.V. - U.A.G.R.M. モノ大学獣医学部の報告書	
Resultados 成果	1. Se mejora la capacidad de los docentes de F.C.V.-U.A.G.R.M. モノ大学獣医学部の教員の能力が向上する。	1. Al final del proyecto 6 docentes jóvenes involucrados en el proyecto son capacitados en técnicas de diagnóstico. プロジェクト終了時にプロジェクトに関わる若手教員6名が診断技術についてトレーニングされている。 2. Al final del proyecto 10 docentes relacionados a la sanidad animal son capacitados en técnicas de laboratorio. プロジェクト終了時にプロジェクトに関わる教員10名がラボ技術についてトレーニングされている。	Listado de docentes que han recibido y aprobado la capacitación. トレーニングされた教員のリスト	
	2. Se mejora la capacidad de veterinarios de laboratorios de salud animal y de campo. 大学以外の獣医の能力が向上する。	Al final del proyecto, 24 veterinarios de laboratorios (LIDIVET, LIDIVECO e INLASA), de SENASAG y de la PREFECTURA así como los veterinarios de campo involucrados en el proyecto (saja convenio específico) son capacitados. プロジェクト終了時に24名のLIDIVET, LIDIVECO及びINLASAのラボの獣医及びSENASAG、県の獣医が協定に基づきトレーニングされている。	Listado de veterinarios capacitados. トレーニングされた教員のリスト	
	3. Se mejora el entorno para diagnóstico e investigación en la FCV-UAGRM. モノ大学獣医学部の診断と研究の環境が改善する。	Al final del proyecto, han sido incorporados las normas y elementos de bioseguridad recomendados por normas internacionales y/o regionales en los laboratorios. プロジェクト終了時までにはラボが国際及び/又は域内の基準により適合された生物安全の要件を満たしている。	Informe de F.C.V. - U.A.G.R.M. モノ大学獣医学部の報告書	
Actividades 活動	1.1. Planificar las capacitaciones y las investigaciones de acuerdo a las necesidades de la FCV-UAGRM. モノ大学獣医学部の必要に沿ったトレーニング計画および研究計画を作る。			
	1.2. Dar curso de capacitación en técnicas diagnósticas a docentes jóvenes de FCV-UAGRM. モノ大学獣医学部の若手教員に診断技術のトレーニングコースを行う。			
	1.3. Dar curso de capacitación en técnicas de epidemiología a docentes jóvenes de FCV-UAGRM. モノ大学獣医学部の若手教員に疫学技術のトレーニングコースを行う。			
	1.4. Realizar pasantías en técnicas diagnósticas a docentes jóvenes de FCV-UAGRM. モノ大学獣医学部の若手教員にラボ技術のOJTを行う。			
	1.5. Realizar pasantías en técnicas de epidemiología a docentes jóvenes de FCV-UAGRM. モノ大学獣医学部の若手教員に疫学技術のOJTを行う。			
	1.6. Realizar curso de actualización de técnicas de diagnóstico de laboratorio a docentes de FCV-UAGRM involucrados en el proyecto. プロジェクトに関わるモノ大学の教員にラボにおける診断技術の更新コースをする。			
	1.7. Realizar investigaciones 研究を実施する			
	2.1. Planificar las capacitaciones en acuerdo a las necesidades de veterinarios de laboratorios (fuera de la FCV-UAGRM) y de campo. 大学以外の獣医の必要に沿ったトレーニング計画を作る。			
	2.2. Dar curso de capacitación en técnicas diagnósticas a dichos veterinarios. 上記の獣医に対し、診断技術のトレーニングコースを行う。			
	2.3. Dar curso de capacitación en técnicas de muestreo a dichos veterinarios. 上記の獣医にサンプリング技術のトレーニングコースを行う。			
Aportes 投入		Por Japón/Argentina 日本/韓国による	Por Bolivia (FCV-UAGRM) ボリビア (モノ大学獣医学部による)	
	Experiencia 専門知識	Experto de Terceros Países 第三国専門家 Experto Japonés de Corto Plazo 日本人短期専門家		
	Personal administrativo 管理運営職員	Ninguno なし	Coordinador del Proyecto プロジェクトコーディネーター Subcoordinador 副コーディネーター	
	Becas 奨学金	Recibir becas en Argentina アルゼンチンでの受け入れ		
	Infraestructura 施設	Ninguno なし	Acondicionamiento de laboratorio de diagnóstico de tabla 巨大表型検査用ラボの改修 Oficinas para los expertos de terceros países 第三国専門家事務所	
	Equipamiento 器材	PCR real time, Clean bench (biohazard type), Autoclave, Microscopio de fluorescencia, Lector y lavadora de placas de ELISA, automáttico (issue processor, projector, fotocopiadora, etc. リアルタイムPCR、バイオハザードタイプクリーンベンチ、オートクレーブ、紫外線消毒機、コピー機、自封切機、プロジェクター、コピー機 等	Clean bench, クリーンベンチ, Autoclave オートクレーブ, Sterilizer 乾熱滅菌機	Condiciones previas: 前提条件
	Insumos 資材	Reactivos primer para diagnóstico 診断用試薬類		
Costo local ローカルコスト	Aporta 負担する	Aporta 負担する		

Nombre del proyecto: PROVETSUR
プロジェクト名: 広域伝力を進じた南米南部
家畜衛生改善のための人材育成プロジェクト
Grupo Objetivo: FCV-UNA (a nivel nacional)
Veterinarios de la Región (a nivel regional)
ターゲットグループ
国レベル アスンシオン大獣医学部 広域レベル: 域内獣医
Area Geográfica: Paraguay (a nivel nacional) Parte
sur de Sudamérica
バラグアイ(国レベル) 南米南部地域(広域レベル)
Periodo del Proyecto: 1 Agosto de
2005 al 31 de Julio de 2010
協力期間: 2005年8月1日から2010
年7月31日まで

	Resumen Narrativo 要約	Indicadores 指標	Medios de Verificación 検証入手手段	Supuestos importantes 外部条件	
Objetivo de proyecto プロジェクト目標	Objetivo Regional 広域目標 Se generen información relativas a las enfermedades vinculadas al proyecto. プロジェクトが扱う疾病についての情報が作られる。	1. Se elabora un informe técnico anual, 年隔ひとつの技術リポートが作られている。 2. Se elabora al menos una publicación científica por año en temáticas vinculadas al proyecto por docentes involucrados en el proyecto. プロジェクトに関する教員により関連分野の科学出版が少なくとも年隔ひとつ作られている。	Informe de F.C.V. - U.N.A. ア大獣医学部の報告書		
	Objetivo Nacional 国目標 Se mejora la capacidad de diagnóstico de enfermedades de los animales domésticos en Paraguay. バラグアイの家畜疾病診断能力が向上する。	1. Al final del proyecto se incrementa el número de enfermedades diagnosticadas comparándolo al momento del inicio del proyecto. プロジェクト終了時に開始時と比較し、診断される疾病数が増える。 2. Al final del proyecto, se incrementa el método de diagnósticos de enfermedades.	Informe de F.C.V. - U.N.A. ア大獣医学部の報告書		
Resultado 成果	1. Se mejora la capacidad de los docentes de F.C.V.-U.N.A. ア大獣医学部の教員の能力が向上する	Al final del proyecto 30 docentes jóvenes involucrados en el proyecto son capacitados en técnica de diagnóstica. プロジェクト終了時に延べ30人の若年教員が診断技術についてトレーニングされている。	Listado de docentes que han recibido y aprobado la capacitación. トレーニングされ合格した教員リスト		
	2. Se mejora la capacidad de veterinarios de laboratorio y de campo. ラボ及び現場の獣医師の能力が向上する	Al final del proyecto 30 veterinarios, de laboratorio de SENACSA y veterinarios de campo involucrados en el proyecto son capacitados en técnica de diagnóstico. プロジェクト終了時に、SENACSAのラボ及び現場獣医師30人が診断技術についてトレーニングされている。	Listado de veterinarios 獣医師のリスト		
	3. Se mejora el entorno para diagnóstico e investigación en la FCV-UNA. ア大獣医学部の診断と研究の環境が改善する。	Al final del proyecto, han sido incorporados las normas y elementos de bioseguridad recomendados por normas internacionales y/o regionales en los laboratorios. プロジェクト終了時までにはラボが国際及び又は域内の基準により動作された生物安全の要件を満たしている。	Informe de F.C.V. - U.N.A. ア大獣医学部の報告書		
Actividades 活動	1.1. Planificar las capacitaciones y las investigaciones de acuerdo a las necesidades de la FCV-UNA. アスンシオン大獣医学部の必要に沿ったトレーニング計画及び研究計画を作成する。				
	1.2. Dar curso de capacitación en técnicas diagnósticas a docentes de FCV-UNA. アスンシオン大獣医学部教員に診断技術のトレーニングコースを行う。				
	1.3. Dar curso de capacitación de técnicas de epidemiología a docentes de FCV-UNA. アスンシオン大獣医学部教員に疫学技術のトレーニングコースを行う。				
	1.4. Realizar pasantías en técnicas diagnósticas a docentes de FCV-UNA. アスンシオン大獣医学部の教員に診断技術のOJTをする。				
	1.5. Realizar pasantías en técnicas de epidemiología a docentes de FCV-UNA. アスンシオン大獣医学部の教員に疫学技術のOJTをする。				
	1.6. Realizar investigaciones 研究を実施する				
	2.1. Planificar las capacitaciones en acuerdo a las necesidades de veterinarios de laboratorios (fuera de la FCV-UNA) y de campo. 大学以外の獣医の必要に沿ったトレーニング計画を作る。				
	2.2. Dar curso de capacitación en técnicas diagnósticas a dichos veterinarios. 上記獣医に診断技術のトレーニングコースを行う。				
	2.3. Dar curso de capacitación en técnicas de muestreo a dichos veterinarios. 上記獣医にサンプリング技術のトレーニングコースを行う。				
	3.1. Planificar la introducción de equipamiento, insumos y acondicionamiento de edificio de acuerdo a las necesidades. 必要に基づくラボの機材の設置、消耗品の設置、建物の改修計画を作る。				
	3.2. Acondicionar espacio físico del laboratorio. ラボの建物の改修をする。				
	3.3. Introducir nuevo equipamiento e insumo en laboratorios vinculados de temáticas del proyecto. プロジェクトのテーマに関連するラボの機材、消耗品を設置する。				
		Por Japón/Argentina 日本/韓国による	Por Paraguay (FCV-UNA) バラグアイ(ア大獣医学部)による		
	Explota 専門家派遣	Expertos de Terceros Países 第三国専門家派遣			
	Personal administrativo 運営管理員	Coordinador del Proyecto Asistente del Coordinador Oficial del Proyecto プロジェクトコーディネーター コーディネーター補佐 プロジェクトオフィサー	Un Coordinador del Proyecto プロジェクトコーディネーター		
Becarios 研修員受け入れ	Recibir becarlos en Argentina アルゼンチンでの研修員受け入れ				
Infraestructura 施設	Ninguno なし	Acondicionamiento de laboratorio de Enfermedades Aylares 疾病ラボの改修 第三国専門家の事務所			
Equipamiento 機材	PCR, Clean bench (biohazard type), Autoclave, Leclor y Lavadora de placas ELISA, incubadoras, etc. PCRクリーンベンチ(バイオハザードタイプ)、オートクレーブ、洗 浄器、ライナー、インキュベーター等			Condiciones previas: Ninguno particular 前提条件 特になし	
Insumos 消耗品	Reactivos primer para diagnóstico 診断用試薬類	Aporta 負担する			
Costo local ローカルコスト	Aporta 負担する	Aporta 負担する			

Nombre del proyecto: PRDVETSUR
プロジェクト名:広域能力を涵養した南米南緯帯畜
衛生改善のための人材育成プロジェクト

Grupo Objetivo: FV-UDELAR (a nivel nacional)
Veterinarios de la región (a nivel regional)
ターゲットグループ 国レベル 共和国獣医学部
広域レベル: 域内獣医

Area Geográfica: Uruguay (a nivel nacional)
Parle sur de Sudamérica
対象地域 ウルグアイ(国レベル)
南米南緯地域(広域レベル)

Periodo del Proyecto: 28 de
abril de 2006 al 31 de Julio de
2010.

始期期間 2006年4月28日から
2010年7月31日まで
Supuestos importantes: 外部条件

	Resumen要約	Indicadores指標	Fuente de verificación入手手段	
Objetivo de proyecto プロジェクト目標	Obletivo Regional 広域目標 Se generan informaciones relativas a las enfermedades de animales vinculadas al proyecto. プロジェクトが扱う疾病についての情報が作られる。	1. Se elabora un Informe técnico anual, 年間ひとつの技術レポートが作られている。 2. Se elabora al menos una publicación científica por año en temáticas vinculadas al Proyecto por docentes involucrados en el Proyecto. プロジェクトに関する教員より関連分野の科学出版が少なくとも年間ひとつ作られている。	Informe en página Web y revistas arbitradas. ウェブサイトのページと科学査読機関の雑誌	
	Obletivo Nacional 国目標 Se mejora la capacidad de diagnóstico de enfermedades de animales domésticos en Uruguay. ウルグアイの家畜疾病診断能力が向上する。	1. Al final del proyecto se incrementa el número de enfermedades diagnosticadas en la FV-UDELAR comparándolas al momento del inicio del proyecto. プロジェクト終了時に共和国獣医学部で診断される疾病数がプロジェクト開始時に比較して増える。 2. Al final del proyecto, se incrementa el número de los métodos de diagnósticos de enfermedades en Uruguay. プロジェクト終了時、ウルグアイの診断技術が増える。	Informes de FV-UDELAR 共和国獣医学部の報告書	
Resultados 成果	1. Se mejora la capacidad de los docentes de FV-UDELAR 共和国獣医学部の教員の能力が向上する。	Al final del proyecto 20 docentes jóvenes de FV-UDELAR son capacitados en técnica de diagnóstico. Capacitación implica mejorar la capacidad? プロジェクト終了時に共和国獣医学部の若手教員20名が診断技術についてトレーニングされている。	Listado de docentes capacitados, トレーニングされた教員のリスト	
	2. Se mejora la capacidad de los veterinarios de laboratorios. ラボの獣医の能力が向上する。	Al final del proyecto, 20 veterinarios de laboratorio de DILAVE y laboratorios privados son capacitados en técnicas de laboratorios y en conocimiento de enfermedades. プロジェクト終了時に、DILAVEのラボの獣医および民間ラボの獣医20名がラボ技術及び検査の知識についてトレーニング	Listado de veterinarios de laboratorio capacitados, トレーニングされたラボの獣医リスト	
	3. Se mejora la capacidad de los veterinarios de campo (Clínicos). 現場の獣医の能力が向上する。	Al final del proyecto 70 veterinarios de campo son capacitados. プロジェクト終了時に70人の現場の獣医がトレーニングされている。	Listado de veterinarios de campo capacitados, トレーニングされた現場獣医リスト	
	4. Se mejora el entorno para diagnóstico e investigación en la FV-UDELAR. 共和国獣医学部の診断と研究の環境が改善する。	Al final del proyecto, han sido incorporados las normas y elementos de bioseguridad recomendados por normas internacionales y regionales en laboratorios. プロジェクト終了時までにはラボが国際及び又は、域内の基準により警告された生物安全の要件を満たしている。	Informes de FV-UDELAR 共和国獣医学部の報告書	
Actividades 活動	1-1. Implementar cursos de capacitación en la FV-UDELAR a los docentes jóvenes en diagnóstico de enfermedad de animales domésticos. 共和国獣医学部の若手教員に家畜疾病診断のトレーニングコースを行う。			
	1-2. Realizar pasantías (OJTs) en laboratorios de la región a los docentes jóvenes. 共和国獣医学部の若手教員に域内のラボにおけるOJTを行う。			
	1-3. Realizar investigaciones 研究を実施する			
	2-1. Implementar cursos de diagnóstico de enfermedad de animales domésticos en la FV-UDELAR a veterinarios de laboratorios. 共和国獣医学部においてラボの獣医向けの診断コースを行う。			
	2-2. Realizar pasantías (OJTs) en la FV-UDELAR a veterinarios de laboratorios. 共和国獣医学部においてラボの獣医にOJTを行う。			
	3-1. Implementar cursos de diagnóstico de enfermedad de animales domésticos en la FV-UDELAR a los veterinarios de campo. 共和国獣医学部において現場の獣医に対して家畜疾病診断のコースを行う。			
	3-2. Desarrollar guías instructivas para actividades relacionadas al diagnóstico de enfermedades. 疾病診断に関する活動のための指導マニュアルを完成させる。			
	4-1. Planificar la introducción de equipamiento, insumos y acondicionamiento de edificio de acuerdo a las necesidades. 必要に基づくラボの機材の設置、消耗品の設置、建物の改修計画を作る。			
	4-2. Acondicionar espacio físico del laboratorio. ラボの建物の改修する。			
	4-3. Introducir nuevo equipamiento e insumo en laboratorios vinculados de temáticas del proyecto. プロジェクトのテーマに関連するラボの機材、消耗品を搬送する。			
Apoyes 投入		Por Japón/Argentina 日本/韓国による	Por Uruguay (FV-UDELAR) ウルグアイ(共和国獣医学部による)	
	Experto 専門派遣	Expertos de Terceros Países 第三国専門家 Experto japonés de corto plazo 日本人短期専門家		
	Personal administrativo 運営管理委員	Coordinador del Proyecto プロジェクトコーディネーター Asistente del Coordinador コーディネーターの補佐 Oficial del Proyecto プロジェクトオフィサー	Un Coordinador del Proyecto プロジェクトコーディネーター1名	
	Becarios 研修員受け入れ	Recibir becarios en Argentina 韓国における研修員受け入れ		
	Infraestructura 施設	Ninguno なし	Acondicionamiento de laboratorio de Microbiología 微生物学ラボの改修 Oficinas para los expertos de terceros países 第三国専門家のオフィス	
	Equipamiento 機材	Laminar Flow Class II, Trinocular microscope, ELISA microplate washer, etc	Viales, gastos de combustible de vehículos 試薬、車検料、ガソリン	
	Insumos 資材	Reactivos primer para diagnóstico (JA) 診断用試薬類	Aporta 負担する	
	Costo local ローカルコスト	Aporta 負担する	Aporta 負担する	



20 de mayo de 2010

Regional 広域
Nombre del Proyecto: PROVETSUR
Plan y avance del proyecto プロジェクトの計画と実績一覧

Resumen 要約	Indicadores 指標	Fuente de Verificación 入手手段	Estado de avance 実績	Comentario del equipo de evaluación japonesa 評価チーム意見
<p>Se promueve el desarrollo profesional continuo sobre diagnóstico de enfermedades en animales domésticos en la parte sur de Sudamérica 南米南部地域の獣医の養育 疾病診断についての卒業研修研究が推進される。</p>	<p>Al quinto año posterior del proyecto, más de la mitad de los veterinarios de la región están aprendiendo para poder adquirir un conocimiento renovado sobre el diagnóstico de las enfermedades en animales domésticos. プロジェクト終了後5年後に域内獣医の過半数が家畜疾病の後継について更新された科学的知見を得るために学んでいる。</p>	<p>Estudio de encuestas y análisis estadístico en las facultades de veterinaria de cada Universidad. 各大学獣医学部のアンケート調査と統計的分析</p>	<p>Estimamos que una gran parte de los veterinarios que acceden a la página web del proyecto, han adquirido conocimientos actualizados a través de las actividades del Proyecto. プロジェクトウェブサイトにアクセス性から、相当地の獣医師がプロジェクト活動を通して更新された科学的知見を学んでいると推察される。</p>	<p>Luego de 5 años, se efectúa un estudio por encuestas en cada uno de los países sobre una cantidad de muestra determinada por un método real en forma estadística. Se espera el logro luego de la finalización del Proyecto. -5年後に統計学的手法によって定められた標本数のアンケート調査を各国で行い、統計学的に実数を割り出すべきである。 -プロジェクト終了後の達成を期待したい。</p>
<p>Objetivo Específico Regional 広域プロジェクト目標</p>	<p>Se utiliza la información elaborada por el Proyecto en la práctica profesional de los veterinarios de campo. 域内獣医の業務においてプロジェクトによって作られた情報が活用される。</p>	<p>Lista de acceso de sitio Web de FCV-UNLP. ラプラタ大学獣医学部にあるプロジェクトのWeb サイトのアクセス数リスト</p>	<p>1. Cantidad de accesos a la página web del Proyecto. Mayo 2008 a abril 2007: 10.371 accesos; mayo 2007 a abril 2008: 11.795 accesos; mayo 2008 a abril 2009: 14.560 accesos; mayo 2008 a abril 2010: 17.806 accesos. 2. Po el nivel de incremento de los registros para el mailing, se puede considerar un aumento de los usuarios. Mayo 2008 a abril 2007: 47 usuarios; mayo 2007 a abril 2008: 82 usuarios; mayo 2008 a abril 2009: 89 usuarios y desde mayo 2009 a abril 2010: 108 usuarios. -プロジェクトウェブサイトへのアクセス件数が下記の通り上昇している。 10.371 (2006.5-2007.4)、11.795 (2007.5-2008.4)、14.560 (2008.5-2009.4)、17.806 (2009.5-2010.4) 2. メールングリスト登録者数の伸びからすれば、活用の増加が考えられる。 47名 (2006.5-2007.4)、82名 (2007.5-2008.4) 89名 (2008.5-2009.4)、108名 (2009.5-2010.4)</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. Se desea perfeccionar aún más el contenido de la página Web. Al mismo tiempo, se desea que este sitio se expanda y sea utilizado por los veterinarios fuera del Proyecto. -実績について、おおむね評価できる。 -プロジェクト終了後もウェブサイトの内容をさらに充実させるようとし、当サイトが本プロジェクト以外の獣医師にも幅広く活用される取り組みを継続的に実施されることが望まれる。</p>
<p>Objetivo Específico Regional 広域プロジェクト目標</p>	<p>1. En las reuniones del Comité de Coordinación Conjunta, se toman las decisiones sobre planificación, implementación y monitoreo del proyecto. プロジェクト調整委員会においてプロジェクトの計画、実施、モニタリングに対する決定がなされる。</p>	<p>Minutas de CCC JCC報告書(ミニッツ)</p>	<p>Se ha celebrado el Comité Ejecutivo y el Comité Conjunta de Coordinación entre las personas relacionadas. 定期的に関係者による運営委員会及び合同調整委員会が開催されている。</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados -実績もあり、評価できる。</p>

<p>2. Se generan informes vinculados a las temáticas del proyecto. Informe periódico del proyecto.</p>	<p>Se elaboran informes vinculados a las temáticas del proyecto en cada país según el plan de cada país. Informe periódico del proyecto.</p>	<p>Informe periódico del proyecto.</p>	<p>Se ha diseñado la investigación de acuerdo a las necesidades de cada uno de los países y se ha elaborado un informe como resultado del mismo. Informe periódico del proyecto.</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados. Informe periódico del proyecto.</p>
<p>2-1. Objetivo Nacional de Argentina</p>	<p>Referirse a la PDMe Argentina</p>	<p>Informe periódico del proyecto.</p>	<p>(Ver Anexo Grado de logros de Argentina)</p>	<p>(Ver Anexo Grado de logros de Argentina)</p>
<p>2-2. Objetivo Nacional Bolivia</p>	<p>Referirse a la PDMe Bolivia</p>	<p>Informe periódico del proyecto.</p>	<p>(Ver Anexo Grado de logros de Bolivia)</p>	<p>(Ver Anexo Grado de logros de Bolivia)</p>
<p>2-3. Objetivo Nacional Paraguay</p>	<p>Referirse a la PDMe Paraguay</p>	<p>Informe periódico del proyecto.</p>	<p>(Ver Anexo Grado de logros de Paraguay)</p>	<p>(Ver Anexo Grado de logros de Paraguay)</p>
<p>2-4. Objetivo Nacional Uruguay</p>	<p>Referirse a la PDMe Uruguay</p>	<p>Informe periódico del proyecto.</p>	<p>(Ver Anexo Grado de logros de Uruguay)</p>	<p>(Ver Anexo Grado de logros de Uruguay)</p>
<p>3. Se forman grupos de investigación en la región</p>	<p>1. Se forman 12 grupos de investigación (docente del país y docente de otro país participantes del proyecto) al tercer año del proyecto.</p>	<p>Informe periódico del proyecto.</p>	<p>1. Se han formado 26 de Grupos de investigación y todos los grupos han finalizado con la ejecución de sus investigaciones.</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados.</p>
<p>4. Las informaciones utilizables son distribuidas a los veterinarios de campo y productores.</p>	<p>1. A partir del inicio de año 2009, la información procesada está disponible en el sitio Web del proyecto.</p>	<p>Datos de información distribuidas por sitio Web en FGV-UJNL</p>	<p>1. Se procesaron los informes publicados en inglés y se han divulgado.</p>	<p>Se desea que aumente la cantidad de informes procesados antes de la finalización del Proyecto.</p>
<p>Se puede evaluar porque existen resultados.</p>	<p>2. Se realizan 20 publicaciones científicas hasta el final del proyecto por grupos de investigación regional.</p>	<p>Informe periódico del proyecto.</p>	<p>2. Se han publicado 26 informes en revistas arbitradas.</p>	<p>Se desea una mayor expansión del contenido y difusión del sitio web.</p>
<p>Se puede evaluar porque existen resultados.</p>	<p>3. Se forman grupos de investigación en la región</p>	<p>Informe periódico del proyecto.</p>	<p>1. 26 de los grupos de investigación se han formado y todos los grupos han finalizado con la ejecución de sus investigaciones.</p>	<p>Se desea que aumente la cantidad de informes procesados antes de la finalización del Proyecto.</p>
<p>Se puede evaluar porque existen resultados.</p>	<p>4. Las informaciones utilizables son distribuidas a los veterinarios de campo y productores.</p>	<p>Informe periódico del proyecto.</p>	<p>2. 26 de los grupos de investigación se han formado y todos los grupos han finalizado con la ejecución de sus investigaciones.</p>	<p>Se desea que aumente la cantidad de informes procesados antes de la finalización del Proyecto.</p>

<p>1-1. Establecer CCC como un sistema de coordinación regional del proyecto. 広域調整システムのためのJCCを組織する。</p> <p>1-2. Realizar reuniones periódicas (una vez por año) de CCC. 年1回定期的なJCC会議を域内で開催する。</p>	<p>Se ha organizado el CCC y en mayo de 2008, se ha efectuado la primera reunión del Comité Ejecutivo y del Comité Conjunto de Coordinación. ・JCCは組織されており、2008年5月に初回の運営委員会及び合同調整委員会を持った。</p> <p>Se ha celebrado en forma periódica. Luego de la primera reunión del mes de mayo de 2008, se realizaron las siguientes: Segunda: Mayo 2007, Tercera: Julio 2008, Cuarta: marzo 2009 y Quinta: Mayo 2008 (Comité Ejecutivo solamente) ・定期的に開催されており、上記初回の後は次のとおり開催された。 第2回: 2007年5月、第3回: 2008年7月、第4回: 2009年3月、第5回: 2009年5月 (運営委員会のみ)</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados ・実績もあり、評価できる。</p> <p>Se puede evaluar porque existen resultados ・実績もあり、評価できる。</p>
<p>2. Realizar actividades en cada país (referirse al PDM de cada país) 各国の活動を実施する(各国のPDMの活動を参照)。</p> <p>3-1. Elaborar plan de investigación regional. 広域研究計画を作成する。</p>	<p>Ver Planilla de Evaluación de cada país. 各国の評価表を参照</p> <p>Se ha elaborado el plan de investigación como resultado del análisis de los contenidos necesarios para la investigación y la misma fue aprobada en el CCC. El Experto de Largo Plazo, ha ejecutado seminarios sobre diseño de investigación y estudios: Bolivia: Junio 2006, Paraguay: abril 2008 y Uruguay: marzo y agosto 2008 ・必要の研究内容を検討の上、研究計画が作成され、JCCにより承認された。 ・長期専門家による調査研究デザインセミナーが実施された。 韓国: 2006年6月、中国: 2008年4月、ウругワイ: 2008年3月、8月</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados ・実績もあり、評価できる。</p>
<p>3-2. Coordinadores de cada país seleccionarán los participantes de la investigación regional. 各国コーディネーターが広域研究に参加する者を選ぶ。</p>	<p>Se han seleccionados a los participantes: Argentina: 25 grupos (56 personas) Bolivia: 5 grupos (24 personas) Paraguay: 7 grupos (31 personas) Uruguay: 9 grupos (38 personas) ・参加者が選任された。 アグワイ: 25グループ(56人) ボリビア: 5グループ(24人) パラグワイ: 7グループ(31人) ウругワイ: 9グループ(38人)</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados ・実績もあり、評価できる。</p>

<p>3-3. Desarrollar investigaciones regionales y elaborar informes de investigación en las temáticas involucradas. 当該分野の調査研究を行い、研究レポートを作成する。</p>	<p>Se ejecutaron las investigaciones y los estudios planificados. Cantidad de investigaciones y estudios: 26 Argentina: Prevalencia de enfermedades respiratorias en aves y otros temas (17) Bolivia: Estudios sobre presencia de anticuerpos contra la rabia y otros temas (4) Paraguay: Mapa de riesgo a nivel nacional de las enfermedades respiratorias aviarias y otros temas (3) Uruguay: Estudio de prevalencia de patógenos causantes del aborto en rumiantes y otros temas (2) 計画された調査研究が実施された。 -調査研究数: 26本 -調査研究内容: ア国: 鶏呼吸器病有病率、等(17本) ボ国: 狂犬抗体有病率調査、等(4本) パ国: 鶏呼吸器病の全国リスク・マップング、等(3本) ウ国: 反芻獣の流産関与病原体の有病率調査、等(2本)</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados -実績もあり、評価できる。</p>
<p>4-1. Hasta fines del año 2008, establecer un reglamento acordado entre las 4 FCV sobre criterios para la difusión de la información generada por el proyecto. 2008年末までに4獣医学部間で、プロジェクトで作成した情報の発信についてのクライテリアに関する規則を作る。</p>	<p>Como un tema de la Reunión del Comité Ejecutivo de marzo de 2009, se ha realizado un análisis y se ha confeccionado la norma. -2008年3月の運営委員会の一仕事として検討会が開催され、規則が作成された。</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados -実績もあり、評価できる。</p>
<p>4-2. Procesar todos los informes autorizados en español por sus autores para ser divulgados hacia veterinarios y productores a partir del inicio del año 2009. 2009年初めから承認されたすべてのレポートを獣医師及び生産者向けに著者によりスペイン語によって加工する。</p>	<p>Se aprobaron 26 informes, 7 de ellos se procesaron para los veterinarios y productores. -26編のレポートが承認され、そのうち7編が獣医師及び生産者向けに加工された。</p>	<p>Se desea que aumente la cantidad de informes procesados antes de la finalización del Proyecto. -プロジェクト終了までに、より多くのレポートの加工が望まれる。</p>
<p>4-3. A partir del inicio del año 2009, distribuir la información procesada en el sitio Web del proyecto y Newsletter. 2009年初めから加工された情報をプロジェクトのウェブサイトまたはニュースレターに配信する。</p>	<p>Hasta el presente, se han divulgado por la página web, 7 informes procesados. Se han confeccionado y difundido, 2 newsletters. -これまで7編の加工されたレポートがウェブサイトで配信された。 -2本のニュースレターが配信された。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. -実績について、おおむね評価できる。</p>
<p>4-4. A partir del inicio del año 2009, divulgar las informaciones procesadas en seminarios de expertos y medios gráficos. 2009年初めから加工された情報を専門家によるセミナーや印刷物によって広報する。</p>	<p>Se ha realizado la difusión de la información procesada en 15 seminarios. En el Simposio del mes de Julio de 2010, está prevista la distribución en español procesado los 26 informes publicados en las revistas arbitradas. -15回のセミナーで加工された情報が広報された。 -7月に開催されるシンポジウムにおいて26編の査読付論文を加工して、西語印刷物として配布する予定である。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. -実績について、おおむね評価できる。</p>




Argentina アルゼンチン
Nombre del Proyecto: PROVETSUR
Plan y avance del proyecto プロジェクトの計画と実績一覧

Resumen Narrativo 要約	Indicadores 指標	Fuente de verificación 入手手段	Estado de avance 実績	Comentario del Equipo de evaluación japonesa 評価チームの意見
Objetivo Regional 広域目標 Se elaboran informes en temáticas vinculadas al Proyecto. プロジェクトのテーマに関するリポートが作られる。	30 docentes de FCV-UNLP realizan al menos 1 publicación o divulgación científica por año en las temáticas relacionadas al Proyecto. 30人のラ大獣医学部の教員がプロジェクトに関するテーマについての学術報告書及び普及誌を毎年最低1本発表している。	Informe periódico del proyecto. プロジェクトの定期報告書	Fueron publicados los siguientes resultados de las investigaciones: 2006: 3 informes científicos en revistas arbitradas, 2007: 8 informes científicos en revistas arbitradas, 2008: 2 informes de estudios y 2009: 6 informes científicos en revistas arbitradas y 1 informe de estudio. En las publicaciones de los informes, intervinieron un total de 30 autores durante los 5 años. 以下の研究成果が発表された。 ・2006年 査読付論文3件、2007年 査読付論文8件、2008年 査読報告書2件、2009年 査読付論文6件、調査報告書1件 ・延べ人数であれば5か年間で30人のラ大教員を共著者とするレポートの公開はなされている。	Se puede evaluar porque existen resultados ・実績もあり、評価できる。
Objetivo Nacional 国目標 Específico (a nivel regional) Se mejora la capacidad de FCV-UNLP en las temáticas vinculadas al proyecto. ラ大獣医学部の当該分野の能力が向上する。	El número de servicios (diagnóstico, técnica de laboratorio, asesoramiento) prestados por FCV-UNLP a terceros aumenta un 10% anual. ラ大獣医学部による第三者に対する疾病診断、ラボ技術、内外アドバンスのサービスが年毎に10%増える。	Informe anual de FCV-UNLP. ラ大獣医学部の年報	El aumento anual desde 2005 a 2009 fueron: 18,6% en el período 2005~2006, 34,8% en el período 2006~2007, 11,5% en el período 2007~2008, 15,5% en el período 2008~2009. ・2005年から2009年にかけては以下の通り上昇した。 2005-2006:18.6%, 2006-2007:34.8% 2007-2008:11.5%, 2008-2009:15.5%	Se puede evaluar porque existen resultados ・実績もあり、評価できる。
1. Docentes en formación de FCV-UNLP se capacitan en técnicas de diagnóstico y de epidemiología. ラ大獣医学部の育成中の教員が診断と疫学技術についての技術を訓練されている。	Al final del Proyecto, un total de 30 docentes en formación se capacitan en técnicas de diagnóstico y de epidemiología. プロジェクト終了時に延べ30人の育成中の教員が診断と疫学技術についてのトレーニングされている。	Informe periódico del proyecto. プロジェクトの定期報告書	Se realizaron 2 tipos de capacitaciones sobre técnicas de diagnóstico (diagnóstico molecular), donde participaron alrededor de 30 docentes jóvenes. Se ejecutaron 2 cursos de introducción a la Epidemiología, con participación de alrededor de 70 docentes jóvenes. La capacitación se realizan en las tareas de áreas de laboratorio. ・2種類の診断技術研修(分子診断)が実施され、30人の若手教員が参加した。 ・疫学入門コースを2回実施し、計70人の若手教員が参加した。 ・日常業務を通じて研修に努めている。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. Se desea la continuidad y expansión de la capacitación de los docentes en formación. ・実績について、おおむね評価できる。 ・育成中の教員向けの研修の継続・発展が望まれる。

<p>2. Docentes de FCV-UNLP tienen la capacidad de transferir técnicas de diagnóstico y de epidemiología a los tres países involucrados en el proyecto.</p> <p>ラ大獣医学部の教員たちがプロジェクト参加の3カ国の大学教員に診断と疫学技術を総括する能力が身につけている。</p>	<p>1. Un total de 20 docentes por país (Bolivia, Paraguay y Uruguay) son capacitados en la FCV-UNLP durante 5 años.</p> <p>5年間で3カ国の教員各延べ20人がラ大獣医学部でトレーニングされている。</p> <p>2. 30 expertos de la FCV-UNLP son enviados a Bolivia, Paraguay y Uruguay y capacitan a docentes de esos países.</p> <p>30人のラ大獣医学部の専門家が3カ国の大学に派遣され教員をトレーニングしている。</p>	<p>Informe periódico del proyecto. プロジェクトの定期報告書</p>	<p>1. Se han recibido a los siguientes becarios desde los 3 países: 2005: 12 becarios (Bolivia 4, Paraguay 4 y Uruguay 4) 2006: 10 becarios (Bolivia 4, Paraguay 4 y Uruguay 2) 2007: 14 becarios (Bolivia 5, Paraguay 4 y Uruguay 5) 2008: 10 becarios (Bolivia 3, Paraguay 4 y Uruguay 3) 2009: 14 becarios (Bolivia 4, Paraguay 6 y Uruguay 4)</p> <p>Un total de 60 becarios (23 Hombres y 37 mujeres).</p> <p>1. 以下の研修員を3カ国から受け入れた。 2005年度受入(12名: 米国4、パ国4、ウ国4) 2006年度受入(10名: 米国4、パ国4、ウ国5) 2007年度受入(14名: 米国5、パ国4、ウ国5) 2008年度受入(10名: 米国3、パ国4、ウ国3) 2009年度受入(14名: 米国4、パ国6、ウ国4) 延べ人数: 60名(男性23名、女性37名)</p> <p>2. Se enviaron los siguientes expertos a los 3 países: 2005: 0 2006: 9 2007: 8 2008: 8 2009: 17, con un total de 42 enviados (33 para diagnóstico y 9 en epidemiología (29 hombres y 13 mujeres)).</p> <p>2. 以下の専門家が3カ国へ派遣された。 2005年度派遣: 0、2006年度派遣: 9、2007年度派遣: 8、2008年度派遣: 8、2009年度派遣: 17 延べ人数: 42名(診断33名、疫学9名、男性29名、女性13名)</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. En coordinación con las otras 3 universidades, se desea que se continúe con la ejecución de la capacitación y pasantías sobre las técnicas de diagnóstico y otros temas.</p> <p>-実績について、おおむね評価できる。 -他のプロジェクト参加3大学と調整の上、診断技術等に係る研修及びOJTが引き続き実施されることが望まれる。</p>
<p>3. Se mejora el entorno para el diagnóstico e investigación en la FCV-UNLP.</p> <p>ラ大獣医学部の診断と研究の環境が改善する。</p>	<p>Al final del proyecto, han sido incorporados las normas y elementos de bioseguridad recomendados por las normas internacionales y/o regionales en los laboratorios de Virología, Patología Aviar y Microbiología.</p> <p>プロジェクト終了時までにはウイルス学、家畜病理学、微生物学の研究室のラボが国際及び又はは域内の基準により勧告された生物安全の要件を満たしている。</p>	<p>Informe periódico del proyecto. プロジェクトの定期報告書</p>	<p>Comparando con el estado de necesidad relevado en el estudio preliminar, se ejecutaron las siguientes mejoras: Patología aviar: finalizada. Virología: finalizada. Microbiología y Sanidad de alimentos: finalizada.</p> <p>-事前調査時に必要とされた整備状況と照らし合わせて次のとおり整備が実施された: 家畜病理学: 整備済み、ウイルス学: 整備済み、微生物学及び食品衛生学: 整備済み。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. -実績について、おおむね評価できる。</p>

Resultados (結果)

<p>4. Se desarrolla una red regional de diagnóstico e información epidemiológica, coordinada por la FCV-UNLP. ラ大獣医学部の調整による診断・疫学情報の広域ネットワークが確立する。</p>	<p>1. Se establece la red con las 3 contrapartes académicas participantes del proyecto. プロジェクト参加の3大学のネットワークが確立する。 2. La información es actualizada regularmente a través de la red con un incremento del tráfico del 10% anual. 情報がネットワークにより更新され、毎年10%アクセスが増加している。</p>	<p>Minuta de CCC del proyecto. JCCのミニッツ Lista elaborada por el administrador del sitio Web del proyecto. プロジェクトのウェブサイトに管理者の作成したリスト</p>	<p>1. Desde la evaluación intermedia, se encuentra en funcionamiento la red coordinada por Argentina. 中間評価時より採用されたアークコーディネータを中心とした運営、ネットワークが定着している。 2. El acceso a la red de la página web del proyecto se ha incrementado de la siguiente forma: Mayo 2006 a abril 2007: 10,371 accesos; mayo 2007 a abril 2008: 11,795 accesos; mayo 2008 a abril 2009: 14,560 accesos; mayo 2009 a abril 2010: 17,806 accesos. 2. プロジェクトウェブサイトへのアクセス件数が下記の通り上昇している。 10,371 (2006.5-2007.4), 11,795 (2007.5-2008.4), 14,560 (2008.5-2009.4), 17,806 (2009.5-2010.4)</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. Se desea perfeccionar aún más el contenido de la página Web. Al mismo tiempo, se desea que este sitio se expanda y sea utilizado por los veterinarios fuera del Proyecto. 実績について、おおむね評価できる。 プロジェクト終了後もウェブサイトの内容を更に充実させるとともに、当サイトが本プロジェクト以外の獣医師にも幅広く活用される取り組みを継続的に実施されること が望まれる。</p>
<p>1. 1. Planificar las capacitaciones de acuerdo a las necesidades de la FCV-UNLP. ラ大獣医学部の必要に基づく研修計画を作成する。 1.2. Dar curso de capacitación en técnicas de diagnóstico al plantel de docentes de FCV-UNLP. ラ大獣医学部教員群に対する診断技術の研修を行う。 1.3. Dar curso de capacitación en técnicas de epidemiología al plantel de docentes de FCV-UNLP. ラ大獣医学部教員群に疫学技術の研修をする。</p>	<p>1.1. Planificar las capacitaciones de acuerdo a las necesidades de la FCV-UNLP. ラ大獣医学部の必要に基づく研修計画を作成する。 1.2. Dar curso de capacitación en técnicas de diagnóstico al plantel de docentes de FCV-UNLP. ラ大獣医学部教員群に対する診断技術の研修を行う。 1.3. Dar curso de capacitación en técnicas de epidemiología al plantel de docentes de FCV-UNLP. ラ大獣医学部教員群に疫学技術の研修をする。</p>	<p>Minuta de CCC del proyecto. JCCのミニッツ Lista elaborada por el administrador del sitio Web del proyecto. プロジェクトのウェブサイトに管理者の作成したリスト</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados 実績もあり、評価できる。 A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. 実績について、おおむね評価できる。</p>	

Activities (項)

<p>2.1. Realizar pasantía en técnicas de diagnóstico al plantel de docentes de FCV-UNLP. ラ大獣医学部教員群に診断技術のOJTを行う</p>	<p>Los expertos japoneses de corto plazo ejecutaron la pasantía relacionada con las técnicas de diagnóstico molecular a los docentes de la FCV-UNLP y estos, a su vez transfirieron dicha técnica a los docentes de las universidades de los 3 países por medio de actividades de capacitación y como expertos de terceros países. ・日本人短期専門家が分子診断技術に係るOJTを実施し、その技術を修得したラ大教員が、研修や第三国専門家としての活動を通して、3カ国の大学教員に更なる技術移転を行った。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。</p>
<p>2.2. Realizar pasantía en técnicas de epidemiología al plantel de docentes de FCV-UNLP. ラ大獣医学部教員群に疫学技術のOJTを行う。</p>	<p>El experto japonés de largo plazo ejecutó la pasantía relacionada a las técnicas epidemiológicas a los docentes de la FCV-UNLP y estos, a su vez transfirieron dicha técnica a los docentes de las universidades de los 3 países por medio de actividades de capacitación y como expertos de terceros países. ・日本人長期専門家が疫学技術に係るOJTを実施し、その技術を修得したラ大教員が、研修や第三国専門家としての活動を通して、3カ国の大学教員に更なる技術移転を行った。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。</p>
<p>3.1. Planificar la introducción de equipamientos, insumos y acondicionamiento de edificio de acuerdo a las necesidades. 必要に基づくラボの機材の設置・消耗品の改修計画を作る。</p>	<p>Habiendo tomado conocimiento de los equipos existentes, reforma e instalación. ・既存の機材、消耗品、建物を把握し、設置及び改修計画を作成した。</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados ・実績もあり、評価できる。</p>
<p>3.2. Acondicionar el espacio físico del laboratorio de Patología Aviar. 家禽病理ラボの建物の改修をする。</p>	<p>El laboratorio de patología aviar fue reformado cumpliendo las normas de bioseguridad recomendadas por la OIE y en este momento está a la espera de un monitoreo para verificar su operación de acuerdo con las normas de bioseguridad por SENASA. ・家禽病理ラボが、OIEにより勧告された生物安全基準を満たす建物が改修され、生物安全性の要件を満たす運用が行われているかSENASAによりモニタリングがされた。</p>	<p>Se puede evaluar porque existen resultados ・実績もあり、評価できる。</p>
<p>3.3. Introducir nuevos equipamientos e insumos en los laboratorios vinculados con las temáticas del proyecto. プロジェクトのテーマに関係するラボの機材、消耗品を設置する。</p>	<p>Se instalaron diversos tipos de equipos como ser cabina de bioseguridad Clase II, equipos para PCR en tiempo real, equipos para ELISA, centrifuga de alta velocidad, etc. y se registran la utilización de los mismos. Se han donados una gran cantidad de insumos que están siendo utilizados en los diagnósticos e investigaciones. ・安全キャビネットクラスII、リアルタイムPCR用機材、ELISA用機材、高速离心机、フリーザーなど、様々な機材が設置され、使用実績をモニタリングしている。 ・数多くの消耗品が供与され、診断・研究に活用されている。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. Tomar las medidas necesarias para asegurar el presupuesto con el fin de adquirir los insumos necesarios para las investigaciones. ・実績について、おおむね評価できる。 プロジェクト終了後、検査に必要な消耗品を購入するため、予算の確保など必要な措置を講ずること。</p>

<p>4.1. Discutir y acordar una norma para el establecimiento de la red entre las 4 facultades. 4カ国の獣医学部間でネットワーク形成についての規程作りの検討と合意をする。</p>	<p>1. Desde la evaluación intermedia, se encuentra en funcionamiento la red coordinada por Argentina. 1. 中間評価時より採用されたアブゾエブサイトを中心とした運営、ネットワークが定着している。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. 実績について、おおむね評価できる。</p>
<p>4.2. Crear un sitio web que incluya la información general del proyecto, noticias, correo, biblioteca y publicaciones científicas. プロジェクトのウェブサイトを立ち上げる(プロジェクトの一般情報、ニュース、メール、図書館、調査研究報告書)</p>	<p>Se creó el sitio web (http://provetsur.net/). Se actualiza adecuadamente la información en el sitio web y se monitorea la cantidad de accesos en forma periódica. Se creó la Asociación Iberoamericana de Epidemiología y Medicina Preventiva Veterinaria, siendo la UNLP la responsable de la administración de esta red. Se encuentra desarrollando la tarea de transferir la red de información del Proyecto a la red de la Asociación, para administrar ambas redes en forma conjunta después de la finalización del Proyecto.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブページが立ち上げられた(http://provetsur.net/)。 ・ウェブサイトの情報が適宜更新され、定期的にアクセス数がモニタリングされている。 ・イベロアメリカ獣医疫学・予防学会が発足され、本学会の情報ネットワーク運営管理をラ大が負うこととなった。プロジェクトにおける情報ネットワークを、学会の情報ネットワークへと発展的に移行させ、プロジェクト終了後におけるウェブサイトの管理も合わせて実施していくという作業を進めている。 	<p>Se desea perfeccionar aún más el contenido de la página Web. Al mismo tiempo, se desea que este sitio se expanda y sea utilizado por los veterinarios fuera del Proyecto. ・プロジェクト終了後もウェブページの内容を更に充実させるとともに、当サイトが本プロジェクト以外の獣医師にも幅広く活用される取り組みを継続的に実施されることを望まれる。</p>

14 de mayo de 2010

Bolivia ボリビア
 Nombre del Proyecto: PROVETSUR
 Plan y avance del proyecto プロジェクトの計画と実績一覧

Resumen Narrativo 要約	Indicadores 指標	Fuente de verificación 入手手段	Estado de avance 実績	Comentario del Equipo de evaluación 評価チーム意見
Objetivo Regional 広域目標 Se generan informaciones relativas a las enfermedades vinculadas al proyecto. プロジェクトが扱う疾病についての情報が作られる。	Se publica como mínimo un informe científico por cada enfermedad investigada al final del proyecto. プロジェクト終了時に研究対象の各疾病について少なくともひとつのレポートが発表されている。	Informe FCV-UAGRM y entrega del documento final de la investigación. 研究の終了時に提出されるモレノ大学獣医学部の報告書	Se confeccionaron 5 informes referentes a la rabia, para la publicación en una revista arbitrada, de los cuales 4 informes ya fueron aceptados y publicados. Se encuentran en elaboración 2 informes más. Se encuentra en proceso de elaboración el informe referente a leucosis bovina. Fue elaborado el Manual de difusión sobre influenza aviar. ・狂犬病に関し、5件の査読付きレポートを投稿し、うち4件は既にアクセプトされ掲載済。更に2件を作成中。 ・牛白血病に係るレポートを作成中。 ・鳥インフルエンザ、等に関する普及マニュアルを作成した。	Se elaboraron los informes de las enfermedades aprobadas en CCC. Se puede elaborar de acuerdo a los resultados. ・実績について、評価できる。 ・JCCIにおいて承認された疾病についてのレポートが作成されている。
Objetivo Nacional 全国目標 Se mejora la capacidad de diagnóstico de enfermedades en los animales domésticos de Bolivia. ボリビアの家畜疾病診断能力が向上する。	1. Al final del proyecto se incrementa el número de enfermedades diagnosticadas comparándolas al momento del inicio del proyecto. プロジェクト終了時、プロジェクト開始時に比較して診断される疾病の数が増える。 2. Al final del proyecto, se incrementa el número de métodos de diagnósticos de enfermedades. プロジェクト終了時、疾病診断技術の数が増える。	Informe de F.C.V. - U.A.G.R.M. モレノ大学獣医学部の報告書	1. En la FCV-UAGRM es posible diagnosticar las siguientes 5 nuevas enfermedades: Rabis, Newcastle, Brucellosis (con producción de 3 tipos de antígenos), Anemia infecciosa equina y leucosis bovina. ・モレノ大学獣医学部において以下の5疾病が新たに診断できるようになった。 ・狂犬病、ニューカッスル病、ブルセラ病(3種の診断液を生産)、馬伝染性貧血、牛白血病 2. Es posible la ejecución de las siguientes técnicas de diagnóstico: Diagnóstico serológico (HI, HA, ELISA, BPA, AGID) y Diagnóstico molecular (PCR). ・次の診断技術が新たに実施可能になった。 ・血清診断(HI, HA, ELISA, BPA, AGID) ・分子診断(PCR)	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。

Objetivo de proyecto(プロジェクト目標)

<p>1. Se mejora la capacidad de los docentes de F.C.V.-U.A.G.R.M. Molesno 獣医学部の教員の能力が向上する。</p>	<p>1. Al final del proyecto 6 docentes jóvenes involucrados en el proyecto son capacitados en técnicas de diagnóstico. プロジェクト終了時にプロジェクトに関わる若手教員6名が診断技術についてトレーニングされている。</p> <p>2. Al final del proyecto 10 docentes relacionados a la sanidad animal son capacitados en técnicas de laboratorio. プロジェクト終了時にプロジェクトに関わる教員10名がラボ技術についてトレーニングされている。</p>	<p>Listado de docentes que han recibido y aprobado la capacitación. トレーニングされた合格した教員のリスト</p>	<p>Existen resultados y se puede evaluar. 実績もあり、評価できる。</p>
<p>2. Se mejora la capacidad de los veterinarios de laboratorios de salud animal y de campo. Molesno 以外の獣医の能力が向上する。</p>	<p>Al final del proyecto, 24 veterinarios de laboratorios (LIDIVET, LIDIVECO e INLASA) de SENASAG y de la PREFECTURA así como los veterinarios de campo involucrados en el proyecto (bajo convenio específico) son capacitados. プロジェクト終了時に24名のLIDIVET, LIDIVECO 及び INLASA のラボの獣医及び SENASAG、県の獣医が協定に基づきトレーニングされている。</p>	<p>Listado de veterinarios capacitados. トレーニングされた教員のリスト</p>	<p>Se desea que se investigue el grado de eficiencia alcanzado. Se desea la sistematización de la capacitación de los veterinarios de campo. 効果などの程度上がっているのか調査することが望まれる。 現場の獣医師向けの研修の制度化が望まれる。</p>
<p>3. Se mejora el entorno para diagnóstico e investigación en la FCV-UAGR.M. Molesno 獣医学部の診断と研究の環境が改善する。</p>	<p>Al final del proyecto, han sido incorporados las normas y elementos de bioseguridad recomendados por normas internacionales y/o regionales en los laboratorios. プロジェクト終了時までにはラボが国際及び又は域内の基準により動かされた生物安全の要件を満たしている。</p>	<p>Informe de F.C.V.-U.A.G.R.M. Molesno 獣医学部の報告書</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. 実績について、おおむね評価できる。</p>
<p>Resultados (要綱)</p>	<p>1.1. Planificar las capacitaciones y las investigaciones de acuerdo a las necesidades de la FCV-UAGR.M. Molesno 獣医学部の必要に沿ったトレーニング計画および研究計画を作る。</p>	<p>No se ha elaborado un plan de capacitación sistemática プロジェクトの目的に沿った研修計画を策定した。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. 実績について、おおむね評価できる。</p>

<p>1.2. Dar curso de capacitación sobre técnicas de diagnóstico a los docentes jóvenes de FCV-UAGRM. モレノ大学獣医学部の若手教員に診断技術のトレーニングコースを行う。</p> <p>1.3. Dar curso de capacitación sobre técnicas de epidemiología a los docentes jóvenes de FCV-UAGRM. モレノ大学獣医学部の若手教員に疫学技術のトレーニングコースを行う。</p>	<p>8 investigadores jóvenes de la UAGRM han recibido la capacitación sobre las técnicas de diagnóstico en la Universidad de La Plata. ・モレノ大学若手研究員8名がラプラタ大学で診断技術に関する研修を受けた。</p> <p>Se celebraron 5 tipos de seminarios sobre epidemiología, incluyendo el curso sobre introducción a la epidemiología. ・獣疫学入門コースなど5種類の疫学に係るセミナーを開催した。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。</p> <p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。</p>
<p>1.4. Realizar pasantías sobre técnicas de diagnóstico a los docentes jóvenes de FCV-UAGRM. モレノ大学獣医学部の若手教員に診断技術のOJTを行う。</p>	<p>Con el envío 11 expertos de Argentina y del Paraguay, principalmente se realizó la pasantía referente al diagnóstico de las enfermedades aviarias. ・延べ11名のアルゼンチン人及びパラグアイ人専門家が派遣され、診断に係るOJTを実施した。</p>	<p>Existen resultados y se puede evaluar. ・実績もあり、評価できる。</p>
<p>1.5. Realizar pasantías sobre técnicas de epidemiología a los docentes jóvenes de FCV-UAGRM. モレノ大学の若手教員に疫学技術のOJTを行う。</p>	<p>Fueron enviados 5 Expertos Argentinos y un Experto Japonés de largo plazo, para ejecutar la pasantía sobre epidemiología. ・5名のアルゼンチン人専門家及び日本人長期専門家が派遣され、疫学技術についてのOJTを実施した。</p>	<p>Existen resultados y se puede evaluar. ・実績もあり、評価できる。</p>
<p>1.6. Realizar curso de actualización sobre técnicas de diagnóstico de laboratorio a los docentes de FCV-UAGRM involucrados en el proyecto. プロジェクトに関わるモレノ大学の教員にラボにおける診断技術の更新コースをする。</p>	<p>3 investigadores jóvenes de la UAGRM, recibieron en la Universidad de La Plata curso de actualización sobre las técnicas de diagnóstico. ・モレノ大学若手研究員3名がラプラタ大学で診断技術に関する更新コースを受けた。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。</p>
<p>1.7. Realizar investigaciones. 研究を実施する</p>	<p>Se enviaron 5 informes sobre la rabia a la revista arbitrada, de los cuales 4 informes ya fueron publicadas y en este momento se encuentran elaborando 2 informes más. Se encuentra en elaboración los informes sobre leucosis y brucelosis. ・狂犬病に関し、5件の査読付きリポートを投稿し、うち4件は既に掲載済。更に2件を作成中。 ・白血病及びブルセラ病に係るリポートを作成中。</p>	<p>Existen resultados y se puede evaluar. ・実績もあり、評価できる。</p>

<p>2.1. Planificar las capacitaciones en acuerdo a las necesidades de veterinarios de laboratorios (fuera de la FCV-UAGRM) y de campo. 大学以外の獣医の必要に沿ったトレーニング計画を作る。</p>	<p>Se confeccionó el plan de entrenamiento y de acuerdo a ese plan se elaboraron 5 manuales (Influenza aviar, aves de tras patio, rabia, brucelosis y sobre técnicas de diagnóstico) para la capacitación de los veterinarios de campo. ・トレーニング計画を策定し、それに沿ってラボ及びフィールド獣医師に対する研修のために、5種類(高インフルエンザ+小規模養鶏、狂犬病、ブルセラ病、診断技術)の普及マニュアルを作成した。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。</p>
<p>2.2. Dar curso de capacitación sobre técnicas de diagnóstico a dichos veterinarios. 上記の獣医に対し、診断技術のトレーニングコースを行う。</p>	<p>Un técnico de LIDIVET recibió la capacitación sobre las técnicas de diagnóstico en la Universidad de La Plata. Los técnicos de LIDIVET y los funcionarios del SENASAG han asistido al seminario referente al diagnóstico de leucosis bovina y otras enfermedades. Además, recibieron la capacitación sobre técnicas de diagnóstico en el seminario de epidemiología aviar. Se realizó un taller sobre la rabia en ABOPA, donde participaron unos 100 veterinarios de distintos nivel. ・LIDIVETの技術者1名がラプラタ大学で診断技術に関する研修を受けた。 ・LIDIVET研究員、SENASAG行政等が、牛白血病等の診断に係るセミナーを受講し、また蹄病疫学セミナーにおいても診断技術についての研修を受けた。 ・畜産学術集会において狂犬病のワークショップを主催し、各レベルの獣医師が約100名参加した。</p>	<p>Se desea que se investigue el grado de eficiencia alcanzado. ・効果などの程度上がっているのか調査することが望まれる。</p>
<p>2.3. Dar curso de capacitación sobre técnicas de muestreo a dichos veterinarios. 上記の獣医にサンプリング技術のトレーニングコースを行う。</p>	<p>30 veterinarios de la municipalidad de Santa Cruz y otros organismos recibieron el curso de introducción a la Epidemiología que incluyó la técnica de muestreo. ・サンタクルス市役所等の約30名の獣医師が獣疫学入門コースを受講し、サンプリング技術について学んだ。</p>	<p>Es deseable la sistematización de la capacitación para los veterinarios de campo. ・現場の獣医師向けの研修の制度化が望まれる。</p>

Actividades (活動)




<p>3.1. Planificar la introducción de equipamientos, insumos y acondicionamiento del edificio de acuerdo a las necesidades. 必要に基づくラボの機材の設置、消耗品の設置、建物の改修計画を作る。</p>	<p>Se recibió una experta del SENACSA de Paraguay para ejecutar el estudio sobre los equipamientos, insumos y reforma edilicia necesarias para la fabricación de antígeno de brucellosis y se elaboró el plan de reforma. ・パラグアイ国SENACSAより専門家を受け入れ、ブルセラ病原製造に必要な機材・消耗品類及びラボの改修にかかわる調査を実施し、計画を策定した。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados ・実績について、おおむね評価できる。</p>
<p>3.2. Acondicionar el espacio físico del laboratorio. ラボの建物の改修をする。</p>	<p>Para la fabricación de antígeno de diagnóstico para brucellosis se efectuó obras de reforma en el laboratorio bacteriológico de PROVETSUR. Fue construido la perrera para la observación de la rabia, la cual está siendo utilizada. ・ブルセラ病診断抗原製造のためにPROVETSURラボ内細菌部門の改修工事を実施した。 ・狂犬病監査大舎が建設され、活用されている。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。</p>
<p>3.3. Introducir nuevos equipamientos e insumos en los laboratorios vinculados con las temáticas del proyecto. プロジェクトのテーマに関連するラボの機材、消耗品を設置する。</p>	<p>Fueron instalados la cabina de bioseguridad clase III, los equipos PCR tiempo real y ELISA. ・Biological Safety Cabinet Class II、リアルタイムPCR用機材、及びELISA用機材などが設置された。</p>	<p>Con relación a los insumos necesarios para los estudios, es necesario analizar si está asegurado el presupuesto y la forma de adquisición luego de la finalización del Proyecto. ・検査に必要な消耗品について、プロジェクト終了後に予算を確保できるのか、また購入ルートは確保されているのか、検討が必要である。</p>

<p>2. Se mejora la capacidad de veterinarios de laboratorio y de campo. ラボ及び現場の獣医師の能力が向上する</p>	<p>Al final del proyecto 30 veterinarios, veterinarios de campo involucrados con el proyecto son capacitados en técnicas de diagnóstico. プロジェクト終了時に、SENACSAのラボ及び現場獣医師30人が診断技術についてトレーニングされている。</p>	<p>Listado de veterinarios 獣医師のリスト</p>	<p>Se ha realizado la pasantía para los 7 veterinarios de SENACSA sobre diagnóstico molecular de enfermedad de salmonella y 4 veterinarios recibieron el curso sobre técnicas de diagnóstico de última generación. ・SENACSAの7人の獣医師に対しサルモネラ症の分子診断についてOJTを実施した。また4人が最新診断技術に係る研修を受講した。</p>	<p>Se desea que se investigue el grado de eficiencia alcanzado. Se desea la sistematización de la capacitación de los veterinarios de campo. ・効果などの程度上がっているのか調査することが望まれる。 ・現場の獣医師向けの研修の制度化が望まれる。</p>
<p>3. Se mejora el entorno para diagnóstico e investigación en la FCV-UNA. アムンシオン大学獣医学部の診断と研究の環境が改善する。</p>	<p>Al final del proyecto, han sido incorporados las normas y elementos de bioseguridad recomendados por normas internacionales y/o regionales en los laboratorios. プロジェクト終了時点でラボが国際及びUNOは域内の基準により報告された生物安全の要件を満たしている。</p>	<p>Informe de F.C.V. - U.N.A. アムンシオン大学の報告書</p>	<p>Se ha instalado una cabina de bioseguridad Clase II y el diseño del laboratorio de patología aviar ha sido modificado según las normas. Los equipos que han sido donados están siendo utilizado en forma eficiente. ・バイオロジカル・セイフティ・キャビネット、クラス2が設置され、かつ家畜病理ラボ内部のデザインを基に沿って変更した。 ・供与された器材については有効に活用されている。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。</p>
<p>1.1. Planificar las capacitaciones y las investigaciones de acuerdo a las necesidades de la FCV-UNA. アムンシオン大学獣医学部の必要に沿ったトレーニング計画及び研究計画を作成する。</p>	<p>La planificación ha sido confeccionada de acuerdo al PDM ver. 2. 計画はPDM ver. 2に沿って策定された。</p>	<p> Dentro de las limitaciones de cupo y de áreas de capacitación, 22 becarios han recibido la capacitación en forma grupal o la individual. ・研修員の受入枠や研修対象分野の人数の制約がある中、延べ22名がラ大で集団もしくは個別研修を受講した。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。</p>
<p>1.2. Dar curso de capacitación sobre técnicas de diagnósticos a docentes de FCV-UNA アムンシオン大学獣医学部教員に診断技術のトレーニングコースを行う。</p>	<p>Se celebraron 4 distintos tipos de seminarios sobre epidemiología, incluyendo el curso sobre introducción a la epidemiología. 獣医学入門コースなど4種類の疫学に係るセミナーを開催した。</p>	<p>Se celebraron 4 distintos tipos de seminarios sobre epidemiología, incluyendo el curso sobre introducción a la epidemiología. 獣医学入門コースなど4種類の疫学に係るセミナーを開催した。</p>	<p>Se puede evaluar la participación de otros veterinarios no docentes. ・教員以外の参加もあり、評価できる。</p>	<p>Se puede evaluar la participación de otros veterinarios no docentes. ・教員以外の参加もあり、評価できる。</p>
<p>1.4. Realizar pasantías en técnicas de diagnósticos a docentes de FCV-UNA アムンシオン大学獣医学部の教員に診断技術のOJTをする。</p>	<p>Con el envío de 11 Expertos Argentinos, se efectuó principalmente la pasantía referente al diagnóstico de las enfermedades de aves. ・延べ11名のアルゼンチン人専門家が派遣され、主として鶏病診断に係るOJTを実施した。</p>	<p>Existen resultados y se puede evaluar. ・実績もあり、評価できる。</p>	<p>Existen resultados y se puede evaluar. ・実績もあり、評価できる。</p>	<p>Existen resultados y se puede evaluar. ・実績もあり、評価できる。</p>

Resultados (実績)

<p>1.5. Realizar pasantías en técnicas de epidemiología a docentes de FCV-JUNA アスンシオン大学獣医学部の教員に疫学技術のOJTをする。</p>	<p>Fueron enviados 2 Expertos Argentinos y un Experto Japonés de largo plazo, para ejecutar la pasantía sobre epidemiología. ・2名のアルゼンチン人専門医及び日本人長期専門家が派遣され、疫学技術についてのOJTが実施された。</p>	<p>Existen resultados y se puede evaluar. ・実績もあり、評価できる。</p>
<p>1.6. Realizar investigaciones 研究を実施する</p>	<p>Se confeccionaron 3 informes científicos sobre Gumboro y fueron publicados en una revista arbitrada. Fue efectuado la práctica y estudios en campo sobre Gumboro. Fue efectuado el estudio sobre serotipo de salmonella en cerdos y aves. ・ガンボロ病に関し、3件の産婦付きレポートを投稿し、既に掲載されている。 ・ガンボロ病に係る野外実験や調査を実施した。 ・豚及び鶏が保菌するサルモネラ菌のセロタイプについて調査を実施した。</p>	<p>Existen resultados y se puede evaluar. ・実績もあり、評価できる。</p>
<p>2.1. Planificar las capacitaciones en acuerdo a las necesidades de los veterinarios de laboratorios (fuera de la FCV-JUNA) y de campo. 大学以外の獣医の必要に沿ったトレーニング計画を作る。</p>	<p>No se ha verificado la elaboración de un plan de capacitación en forma sistemática. 研修計画は作成されていない。</p>	<p>Se requiere la sistematización de la capacitación local en coordinación con otras instituciones. ・他機関と調整の上、国内研修の制度化が求められる。</p>
<p>2.2. Dar curso de capacitación sobre técnicas de diagnósticos a dichos veterinarios. 上記獣医に診断技術のトレーニングコースを行う。</p>	<p>Se ejecutó la pasantía de 7 veterinarios de SENACSA sobre diagnóstico molecular de salmonella. Además, 4 personas recibieron la capacitación referente a las técnicas de diagnósticos de última generación. ・SENACSAの7人の獣医に対しサルモネラ症の分子診断についてOJTを実施した。また4人が最新診断技術に係る研修を受講した。</p>	<p>Se puede evaluar a grandes rasgos pero no se ha alcanzado el indicador. ・おおむね評価できるが、指標に示された数には届かなかった。</p>
<p>2.3. Dar curso de capacitación en técnicas de muestreo a dichos veterinarios. 上記獣医にサンプリング技術のトレーニングコースを行う。</p>	<p>Se ha ejecutado el entrenamiento sobre la técnicas de muestreo en la capacitación del punto anterior. ・上記研修において、サンプリング技術についてのトレーニングも実施した。</p>	<p>Es deseable la sistematización de la capacitación para los veterinarios de campo. ・現場の獣医師向けの研修の制度化が望まれる。</p>
<p>3.1. Planificar la introducción de equipamientos, insumos y acondicionamiento de edificio de acuerdo a las necesidades. 必要に基づくラボの機材の設置、消耗品の設置、建物の改修計画を作る。</p>	<p>Está previsto la construcción de una sala de autopsia en el plan de remodelación. ・改修計画により解剖室が建設される予定である。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。</p>

Actividades (計画)

<p>3.2. Acondicionar el espacio físico del laboratorio. ラボの建物の改修をする。</p>	<p>Si bien se diseñó el laboratorio de patología aviar de acuerdo a la normas, aún no se ha efectuado la remodelación. Está previsto la construcción de una sala de autópsia con la instalación del incinerador. ・家畜検疫ラボ内庫のデザインを基準に沿って変更したが、改修は行っていない。 ・近々焼却炉を備えた解剖室を建設予定である。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価でき</p>
<p>3.3. Introducir nuevos equipamientos e insumos en los laboratorios vinculados a las temáticas del proyecto. プロジェクトのテーマに関連するラボの機材、消耗品を設置する。</p>	<p>Se ha finalizado la instalación de los equipos para ELISA y PCR, como así también la cabina de bioseguridad clase II y están siendo utilizados para los diagnósticos. ・バイオロジカル・セイフティ・キャビネット・クラス 2、ELISAやPCRに係る機材が設置され、診断に活用されている。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. Es necesario analizar si está asegurado el presupuesto para insumos después de la finalización del Proyecto. ・実績について、おおむね評価できる。 ・プロジェクト終了後の消耗品の購入予算が確保されているのか、検討が必要である。</p>




Uruguay ウルグアイ
 Nombre del Proyecto: PROVETSUR
 Plan y avance del proyecto プロジェクトの計画と実績一覧

11 de mayo de 2010

Objetivo de proyecto (プロジェクト目的)	Resumen 要約	Indicadores 指標	Fuente de verificación 入手手段	Estado de avance 実績	Comentarios del equipo de evaluación Japonesa 評価チーム意見
Objetivo Regional 広域目標 Se generan informaciones relativas a las enfermedades de animales vinculadas al Proyecto que se elabora al menos una publicación científica por año en temáticas vinculadas al Proyecto por docentes involucrados en el Proyecto. que se elabora al menos una publicación científica por año en temáticas vinculadas al Proyecto. que se elabora al menos una publicación científica por año en temáticas vinculadas al Proyecto. que se elabora al menos una publicación científica por año en temáticas vinculadas al Proyecto.	Objetivo Regional 広域目標 Se generan informaciones relativas a las enfermedades de animales vinculadas al Proyecto que se elabora al menos una publicación científica por año en temáticas vinculadas al Proyecto. que se elabora al menos una publicación científica por año en temáticas vinculadas al Proyecto. que se elabora al menos una publicación científica por año en temáticas vinculadas al Proyecto. que se elabora al menos una publicación científica por año en temáticas vinculadas al Proyecto.	1. Se elabora un informe técnico anual. 年間の技術レポートが作られている。 2. Se elabora al menos una publicación científica por año en temáticas vinculadas al Proyecto por docentes involucrados en el Proyecto. que se elabora al menos una publicación científica por año en temáticas vinculadas al Proyecto. que se elabora al menos una publicación científica por año en temáticas vinculadas al Proyecto. que se elabora al menos una publicación científica por año en temáticas vinculadas al Proyecto.	Informe en página Web y revistas arbitradas, ウェブサイトのページと科学雑誌掲載の雑誌	1. Fueron elaborados 3 manuales referente a las técnicas de diagnóstico (ELISA, PCR, Método de inmunofluorescencia indirecta). 2. Se elaboraron 2 tesis para publicar en revista arbitrada, 3 reportes de investigación y 2 informes de estudio. 1. 3つの診断技術(ELISA, PCR, 間接蛍光抗体法)に関するマニュアルが作成された。 2. 2編の査読付論文、3編の研究報告書、2編の調査報告書がまとめられた。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. Se han elaborado los informes científicos sobre las enfermedades aprobadas en el CCC. 実績について、おおむね評価できる。 JCCにおいて承認された病畜についてのレポートが作成されている。
Objetivo Nacional 全国目標 Se mejora la capacidad de diagnóstico de enfermedades de animales domésticos en Uruguay. ウルグアイの家畜疾病診断能力が向上する。	Objetivo Nacional 全国目標 Se mejora la capacidad de diagnóstico de enfermedades de animales domésticos en Uruguay. ウルグアイの家畜疾病診断能力が向上する。	1. Al final del proyecto se incrementa el número de enfermedades diagnosticadas en la FV-UDELAR comparándolas al momento del inicio del proyecto. プロジェクト終了時に共和国大学で診断される疾病数が増える。 2. Al final del proyecto, se incrementa el número de los métodos de diagnósticos de enfermedades en Uruguay. プロジェクト終了時、ウルグアイの診断技術数が増える。	Informes de FV-UDELAR 共和国大学獣医学部の報告書	1. La FV-UDELAR puede diagnosticar 9 enfermedades nuevas a saber: IBR, BVD/MD, Campirobacter, Trichomonas, Neospora, Chlamydia, Microplasma, Orthobacterium rhinotracheale y Avian pneumovirus. 2. Las siguientes nuevas técnicas se hizo posible: ELISA, PCR y inmunofluorescencia indirecta. 1. 共和国大学獣医学部において以下の9疾病が新たに診断できるようになった。IBR, BVD/MD, キャンピロバクター、トリコモナス、ネオスポラ、クラミジア、マイコプラズマ、Orthobacterium rhinotracheale、鶏ニューモウイルス 2. 次の診断技術が新たに実施可能になった。 ELISA, PCR, 間接蛍光抗体法	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. 実績について、おおむね評価できる。
1. Se mejora la capacidad de los docentes de FV-UDELAR 共和国大学獣医学部の教員の能力が向上する。	Al final del proyecto 20 docentes jóvenes de FV-UDELAR son capacitados en técnica de diagnóstico. プロジェクト終了時に共和国大学獣医学部の若手教員20名が診断技術についてトレーニングされている。	Al final del proyecto 20 docentes jóvenes de FV-UDELAR son capacitados en técnica de diagnóstico. プロジェクト終了時に共和国大学獣医学部の若手教員20名が診断技術についてトレーニングされている。	Listado de docentes capacitados. トレーニングされた教員のリスト	Se han capacitado 18 docentes jóvenes en FV-UDELAR. 共和国大学の延べ18名の若手教員が一大で研修を受けた。	A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. 実績について、おおむね評価できる。

<p>2. Se mejora la capacidad de los veterinarios de laboratorios. ラボの獣医の能力が向上する。</p>	<p>Al final del proyecto, 20 veterinarios de laboratorio de DILAVE y laboratorios privados son capacitados en técnicas de laboratorios y en conocimiento de enfermedades. プロジェクト終了時に、DILAVEのラボの獣医および民間ラボの獣医20名がラボ技術及び疾病の知識についてトレーニングされている。</p>	<p>Listado de veterinarios de laboratorio capacitados. トレーニングされたラボの獣医リスト</p>	<p>Un investigador de DILAVE ha recibido capacitación en la FCV-UNLP. Se realizó seminario sobre HPAQI de influencia aviar y sobre la técnica de diagnóstico en laboratorio, habiendo unos 130 participantes del Ministerio de Agricultura, de la Facultad de Veterinaria, de DILAVE y de los laboratorios privados. ・DILAVEの研究員1名がラボで研修を受けた。 ・高病原性鳥インフルエンザ及びラボ診断技術に係るセミナーを実施し、農業省、獣医学部、農業研究所、民間ラボから約130名が参加した。</p>	<p>Es deseable la sistematización de la capacitación local, organizado y ejecutado por los investigadores de laboratorio, tales como el curso de técnicas de diagnóstico. ・大学スタッフが主体的に計画・実施したラボ診断技術コースの様な形で、国内研修の制度化が望まれる。</p>
<p>3. Se mejora la capacidad de los veterinarios de campo (Clinicos). 現場の獣医の能力が向上する。</p>	<p>Al final del proyecto 70 veterinarios de campo son capacitados. プロジェクト終了時に70人の現場の獣医がトレーニングされている。</p>	<p>Listado de veterinarios de campo capacitados. トレーニングされた現場の獣医リスト</p>	<p>Si bien no fue ejecutado el curso de capacitación para los veterinarios de campo, el 80% de estos profesionales participaron en las capacitaciones realizadas en la Facultad y en el Centro Experimental de la Facultad. ・現場の獣医師を対象とする研修コースは実施されなかったが、獣医学部及び試験場にて実施された研修に、予定されていた現場獣医師数の80%が参加した。</p>	<p>Debería investigarse el grado de eficiencia alcanzado. Es deseable la sistematización de los cursos de diagnóstico de enfermedades en animales domésticos a través de la Unidad de Educación Continua. ・効果がどの程度上がっているのか調査するべきである。 ・卒後研修ユニットを活用し、現場の獣医師を対象とした家畜疾病診断コースの制度化が望まれる。</p>
<p>4. Se mejora el entorno para diagnóstico e investigación en la FV- UDELAR. 共和国大獣医学部の診断と研究の環境が改善する。</p>	<p>Al final del proyecto, han sido incorporados las normas y elementos de bioseguridad recomendados por normas internacionales y regionales en laboratorios. プロジェクト終了時までにはラボが国際及び又は、域内の基準により勘定された生物安全の要件を満たしている。</p>	<p>Informes de FV- UDELAR 共和国大獣医学部の報告書</p>	<p>Por la limitación presupuestaria y por el plan de traslado de la Facultad, no se incorporaron las normas internacionales en los laboratorios. ・予算的な制約、及び学部の移転計画により、国際基準に沿ったラボ整備は実施されなかった。</p>	<p>Se requiere la utilización eficiente de los equipos donados. Introducir en el plan de traslado la construcción del laboratorio según las normas internacionales. ・供与された機材の有効活用が求められる。 ・国際基準に沿ったラボ設計を移転計画に盛り込む。</p>
<p>1.1. Implementar cursos de capacitación de enfermedad de animales domésticos. 共和国大獣医学部の畜手教員に家畜疾病診断のトレーニングコースを行う。</p>	<p>Se ha realizado la capacitación de acuerdo al Plan aprobado en CCC. JCCの計画に従い研修が実施された。</p>	<p>Se ha realizado la capacitación de acuerdo al Plan aprobado en CCC. JCCの計画に従い研修が実施された。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。</p>	<p>A grandes rasgos se puede evaluar de acuerdo a los resultados. ・実績について、おおむね評価できる。</p>

Resultados (成果)

<p>1.2. Realizar pasantías (OJTs) en laboratorios de la región a los docentes jóvenes. 共和国大学獣医学部の若手教員に域内のラボにおけるOJTを行う。</p>	<p>Se ha realizado la ejecución de OJT sobre la Técnica de Diagnóstico por los 13 expertos argentinos que han sido enviados. 延べ13名のアルゼンチン人専門家が派遣され、診断技術に関するOJTが実施された。</p>	<p>Existen resultados y se puede evaluar. 実績があり、評価できる。</p>
<p>1.3. Realizar investigaciones 研究を実施する</p>	<p>Se han elaborado 2 tesis para ser publicadas en la revista arbitrada, 3 informes de investigación y 2 informes de estudio. 2編の査読付論文、3編の研究報告書、2編の調査報告書がまとめられた。</p>	<p>Existen resultados y se puede evaluar. 実績があり、評価できる。</p>
<p>2.1. Implementar cursos de diagnóstico de enfermedad de animales domésticos en la FV-UJDELAR a veterinarios de laboratorios. 共和国大学獣医学部においてラボの獣医向けの診断コースを行う。</p>	<p>Se ha ejecutado el curso teórico sobre técnicas de laboratorio con 50 participantes. ラボ技術理論コースを実施し、50名が参加した。</p>	<p>Debería investigarse el grado de eficiencia alcanzado. Se desea la sistematización de los cursos sobre diagnósticos organizados por los profesores de la Facultad. 効果などの程度が上がっているのか調査するべきである。 大学の教員が主体となる診断コースの制度化が望まれる。</p>
<p>2.2. Realizar pasantías (OJTs) en la FV-UJDELAR a veterinarios de laboratorios. 共和国大学獣医学部においてラボの獣医にOJTを行う。</p>	<p>Se ha ejecutado el curso práctico sobre técnicas de laboratorio con 20 participantes. 獣医学会分科会においてラボ技術実習コースを実施し、20名が参加した。</p>	<p>Debería investigarse el grado de eficiencia alcanzado. Se desea la sistematización de los cursos ejecutados sobre Prácticas de Técnicas de Laboratorios. 効果などの程度が上がっているのか調査するべきである。 実施されたラボ技術実習コースの制度化が望まれる。</p>



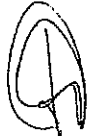
Activities (活動)

<p>3.1. Implementar cursos de diagnóstico de enfermedad de animales domésticos en la FV-JUDELAR a los veterinarios de campo. 共和国大学獣医学部において現場の獣医に対して家畜疾病診断のコースを行う。</p>	<p>Si bien no se ha ejecutado el curso de capacitación para los veterinarios de campo, el 80% de estos veterinarios han participado a la capacitación realizada en la Facultad y en el Centro Experimental de la Facultad. ・現場の獣医師を対象とする研修コースは実施されなかったが、獣医学部及び試験場にて実施された研修に、予定されていた現場獣医師数の80%が参加した。</p>	<p>Debería investigarse el grado de eficiencia alcanzado. Es deseable la sistematización de los cursos de diagnóstico de enfermedades en animales domésticos a través de la Unidad de Educación Continua. ・効果などの程度上がっているのか調査するべきである。 ・事後研修ユニットを活用し、現場の獣医師を対象とした家畜疾病診断コースの網羅化が望まれる。</p>
<p>3.2. Desarrollar guías instructivas para actividades relacionadas al diagnóstico de enfermedades. 疾病診断に関する活動のための指導マニュアルを発展させる。</p>	<p>Fueron elaborados 3 manuales (de ELISA, de PCR y de Inmunofluorescencia Indirecta) sobre las técnicas de diagnóstico y se han esforzado para su difusión. ・3つの診断技術(ELISA, PCR, 間接蛍光抗体法)に関するマニュアルを作成しその普及に努めた。</p>	<p>Es deseable la confección de manuales de enfermedades para los veterinarios del campo. 現場獣医向け疾病マニュアルの作成を望む。</p>
<p>4.1. Planificar la introducción de equipamientos, insumos y acondicionamiento del edificio de acuerdo a las necesidades. 必要に基づぐラボの機材の設置、消耗品の設置、建物の改修計画を作る。</p>	<p>El traslado de la Facultad fue aprobado por el Gobierno Universitario y se encuentra a la espera de la solución presupuestaria. 獣医学部の移転に向けた政府承認が行われ、予算措置を待っている。</p>	<p>Se requiere introducir la remodelación de laboratorios de acuerdo a la normas internacionales en el Plan de traslado. ・国際基準に沿ったラボ設計を移転計画に盛り込む。</p>
<p>4-2. Acondicionar el espacio físico del laboratorio. ラボの建物の改修をする。</p>	<p>No se ha podido ejecutar la remodelación de acuerdo a la normas internacionales por limitación del presupuesto y el plan de traslado. ・予算的な制約、及び学部の移転計画により、国際基準に沿ったラボ整備は実施されなかった。</p>	<p>No se ha alcanzado por el plan de traslado, que es una causa externa. ・移転計画という外部要因により達成されなかった。</p>





<p>4-3. Introducir nuevos equipamientos e insumo en los laboratorios vinculados a las temáticas del proyecto. プロジェクトのテーマに関係するラボの機材、消耗品を設置する。</p>	<p>Se ha instalado una cabina de Bioseguridad clase II, PCR, ELISA y los equipamientos para el cultivo celular, siendo utilizados en las actividades de diagnóstico e investigación. ・Biological Safety Cabinet Class II及びPCR、ELISA、細胞培養に係る機材類が設置され、疫学研究に活用されている。</p>	<p>Con relación a los resultados, en general se pueden evaluar. Es necesario analizar si está asegurado el presupuesto para la adquisición de insumos luego de la finalización del Proyecto. ・実績について、おむね評価できる。 ・プロジェクト終了後の消耗品の購入予算が確保されているのか、検討が必要である。</p>
---	--	---



研修開催実績(アルゼンチン)
Cursos de Capacitacion (Argentina)

Curso 研修名	Periodo 期間	Participantes 参加者人数	Grupo objeto 対象	Disertantes 講師	2009JFY												
					A	M	J	J	A	S	O	N	D	J	F	M	
5to. Curso de capacitación grupal (Primer etapa) 第5回集団研修(第一期)	7.21-9.10	1	FCV-UJAGRM レネモレノ大	Técnico de laboratorio de SENACSA de Paraguay パナ国SENACSAラボ技官													
5to. Curso de capacitación grupal (Segunda etapa) 第5回集団研修(第二期)	9.15-10.30	5	FCV-UJAGRM, FCV-UNA レネモレノ大、 アスンシオン大	Docentes de la cátedra de Inmunoparasitología, Microbiología y Patología aviar de la UNLP, Experto Dr. Suzuki. 与大免疫寄生虫学、微生物学及び家畜病理学 Docentes de las cátedras de Virología, Tecnología de Alimentos, Microbiología, Diagnóstico clínico (GEDIVE), Experto Dr. Suzuki. 与大ウイルス学、食品衛生学、微生物学及び臨床診断学(GEDIVE)教官、鈴木長尊													
5to. Curso de capacitación grupal (Tercera etapa) 第5回集団研修(第三期)	10.20-11.6	4	FV-UDELAR 共和国大	Docentes de las cátedras de Virología, Tecnología de Alimentos, Microbiología, Diagnóstico clínico (GEDIVE), Experto Dr. Suzuki. 与大ウイルス学、食品衛生学、微生物学及び臨床診断学(GEDIVE)教官、鈴木長尊													
5to. Curso de capacitación grupal (Cuarta etapa) 第5回集団研修(第四期)	2.16-3.12	4	FCV-UJAGRM, FCV-UNA レネモレノ大、 アスンシオン大	Docentes de las cátedras de Tecnología de alimentos y Patología clínica, Experto Dr. Suzuki. 与大食品衛生学及び臨床病理学教官、鈴木長尊													



J. Copes	Paraguay	Diagnóstico por método de aislamiento immunomagnético de salmonela porcina 豚サルモネラ症免疫磁気工一次分離法診断	2010.3.13-27	Universidad de La Plata																
G. Leotta	Paraguay	Diagnóstico por PCR de salmonela aviar 鶏サルモネラ症PCR診断	同上	Universidad de La Plata																



(4) Donación de equipos
Listado de equipos (Argentina)
供与機材リスト(アルゼンチン)

Item 番号	fecha de arribo 到着年月日	Nombre del equipo 機材名	Modelo 型式	Fabricante メーカー	Precio de compra 金額	Area que lo usa 使用部門	Lugar de instalación (Nombre del Laboratorio o Cátedra) 設置場所	Compra LOCAL o Tercer País 現地調達又は第三国調達	Objetivo de uso 利用目的	Estado de FUNCIONAMIENTO y USO (NOTA 1) 稼働・利用状況
1	2006年度	PCR Real Time Smart Cycler 12	SC2500N1-1	CEPHID	35000	家畜病理学 講座	家畜病理学ラボ	Local 現地調達	Real Time PCR	A
2	2006年度	Vertical Laminar Flow Bench	Mini-V/PCR	TELSTAR	4500	同	同	Local 現地調達	Real Time PCR	A
3	2006年度	Sterilization cabinet	GLE_UWSC	SCIE PLAS	2800	同	同	Local 現地調達	Real Time PCR	A
4	2006年度	Spectrophotometer	Genova Life Science	JENWAY	4985	同	同	Local 現地調達	Real Time PCR	A
5	2006年度	High speed centrifuge (including 2 swing rotor code 221.17V01 and 221.22. V01 and adaptors)	Z36HK	HERMLE	8430	同	同	Local 現地調達	Real Time PCR	A
6	2006年度	Multiblok heaters	DB-2D	TECHNE	2150	同	同	Local 現地調達	Real Time PCR	A
7	2006年度	Orbital shaker	51820-45	COLE PALMER	1500	同	同	Local 現地調達	Real Time PCR	A
8	2006年度	Drying oven	ED115	BINDER	3570	同	同	Local 現地調達	Real Time PCR	A
9	2006年度	Incubator	BD23	BINDER	3705	同	同	Local 現地調達	Real Time PCR	A
10	2007年度	Automatic tissue processor	Citadel 2000	Thermo Shandon	15300	同	同	Local 現地調達	Histopatología 組織病理	A
11	2007年度	Rotary Microtome FINESSE 325	A78100001	Thermo Shandon	10120	同	同	Local 現地調達	Histopatología 組織病理	A
12	2007年度	Photo microscopes with digital photography system	Eclipse 50i	Nikon	11640	同	同	Local 現地調達	Histopatología 組織病理	A
13	2007年度	Water distiller with optional filters	Direct-Q3	Millipore	6558	同	同	Local 現地調達	Obtención de agua purificada 蒸留水作成	A
14	2007年度	Automatic ELISA plate washer	ELX50	Biotek	6961	同	同	Local 現地調達	ELISA	A
15	2007年度	Vertical autoclave	AL 02-08-100	Advantage Lab	11353	同	同	Local 現地調達	Esterilización 検査器材の高圧蒸気 滅菌用	A
16	2007年度	Vertical autoclave	AL 02-08-100	Advantage Lab	11353	同	同	Local 現地調達	Esterilización 検査器材の高圧蒸気 滅菌用	A
17	2007年度	Electric pipette	Finnpipette Biomate	Thermo Labystems	1990	同	同	Local 現地調達	ELISA	A
18	2007年度	Rotors for centrifuge	221-15-V01, 221-16-V02	Hermle	3302	同	同	Local 現地調達	遠心分離機の交換用 ロータ	A
19	2007年度	Freezer-refrigerator	41S	Patrick	582	同	同	Local 現地調達	Conservación de muestras y reactivos 検査材料等の冷蔵冷凍 保存	A

20	2007年度	Freezer-refrigerator	41S	Patrick	582	同	同	同	Local 現地調達	Conservación de muestras y reactivos 検査材料等の冷蔵冷凍保存	A
21	2008年度	The IEC CL40 Centrifuge Series with M4 SWING-OUT ROTOR 遠心器	CL40R	THERMO IEC	10020	食品微生物学講座	食品微生物学講座	食品微生物学ラボ	Local 現地調達	Preparado de muestras (centrifuga) 検体の前処理(遠心分離)	A
22	2008年度	GD3 FIXED ANGLE ROTOR 40X15 ML ローター	GD3	THERMO IEC	2220	同	同	同	Local 現地調達	Accesorio del equipo anterior. 上記機材の付属品として必須	A
23	2008年度	BIO SAFETY CABINET	CSBc/11A B3	SABELLA	8367	同	同	同	Local 現地調達	Utilizado para diagnóstico y la manipulación de muestras bajo normas de bioseguridad. 生物安全に配慮した検体の取り扱い、診断	A
24	2008年度	BIO SAFETY CABINET	CSBc/11A B3	SABELLA	9680	同	同	同	Local 現地調達	Utilizado para diagnóstico y la manipulación de muestras bajo normas de bioseguridad. 生物安全に配慮した検体の取り扱い、診断	A
25	2008年度	Tangential Flow Filtration System 蒸留装置		MILLIPORE	8650	同	同	同	Local 現地調達	Obtención de agua purificada 蒸留水の製造	A
26	2009年度	-70°C Ultra freezer, capacity 300 litres 超低温冷凍庫	300-70HL	RIGHI	10500	同	同	同	Local 現地調達	Conservación de muestras y reactivos 検体の超低温保存	A
27	2009年度	Power generator, 8 Kva, 6.4 Kwatts, 30 Amp, AG220 Volts, 50 Hz	GX390	HONDA	2000	同	同	同	Local 現地調達	Generador de energía del equipo nro 1, en casos de emergencias. 機材番号1の緊急時用に備置	A
28	2009年度	Digital balancer バランス	PA214	PIONEER OHAUS	3600	同	同	同	Local 現地調達	Balanza digital 試薬等の精密計量	A
29	2009年度	MyCycler サーマルサイクラー	1709701	BIORAD	7100	同	同	同	Local 現地調達	POR	A
30	2009年度	Electrophoresis chamber, Model Sub-Cell GT System 電気泳動装置	1704469	BIORAD	1476	同	同	同	Local 現地調達	POR	A

31	2009年度	Digital-photo documentation imaging system, PhotoDoc-It	97027402	UVP	6100	同	同	Local 現地調達	PCR	A
32	2009年度	UV transilluminator, Model Safe Imager Blue-light Transil	VB-26V	UVP	1140	同	同	Local 現地調達	PCR	A
33	2009年度	Conduct metre pHメーター	CTX-11	ALTRONIX	1000	同	同	Local 現地調達	Conductividad eléctrica, medición del pH 電気伝導率、pHの測	A
34	2009年度	Microcentrifuge マイクロ遠心器	MIKRO 200	HETTICH	2020	同	同	Local 現地調達	Microcentrifuga 微量遠心分離	A
35	2009年度	DRI-block digital heater ヒーター	DB-2D	TECHNE	3570	同	同	Local 現地調達	ESTURA digital 検体の短時間精密加温	A
36	2009年度	-20°C Freezer, capacity 290 litres 冷凍庫	LACAR 290	LACAR	1000	同	同	Local 現地調達	Conservación de muestras y reactivos 検査材料等の冷蔵冷凍保存	A
37	2009年度	Refrigerator 冷蔵庫	LACAR 2220G	LACAR	1080	同	同	Local 現地調達	Conservación de muestras y reactivos 検査材料等の冷蔵冷凍保存	A
38	2009年度	Air-conditioner エアコン	BLUESTAR 3TR	BLUESTAR	3190	同	同	Local 現地調達	ISO17025準拠のための実験室内温度維持 sterilizacion y materiales. 乾熱滅菌	A
39	2009年度	Dry oven 乾熱滅菌器	SEI-70E	LONOMEX	630	同	同	Local 現地調達	secado de materiales. 乾熱滅菌	A
40	2009年度	Water distiller 蒸留装置	DEA-10	ROLCO	2400	同	同	Local 現地調達	Obtencion de agua purificada 蒸留水作成	A
41	2009年度	Thermostatic bath 恒温槽	ED-27	JULABO	2510	同	同	Local 現地調達	Baño termostatico 検体の短時間精密加温	A
42	2009年度	Temperature data logger, Model 177-T4 温度記録装置	0563 1774	TESTO	3346	同	同	Local 現地調達	Determinación de temperaturas y registro de datos. 温度測定及びデータ記録	A
43	2009年度	Temperature data logger for autoclave オートクレーブ用温度記録	TPD7150	AKRIBIS	1929	同	同	Local 現地調達	Para autoclave オートクレーブ用	A
44	2009年度	Real Time PCR	Mx3005P	Stratagene	31428	同	同	Local 現地調達	Real Time PCR	A
					計	271337				

A: Uso frecuente
頻繁に利用
B: Uso normal
普通

NOTA 1-

(4) Donación de equipos
Listado de equipos (Bolivia)
供与機材リスト(ボリビア)

Item 番号	fecha de arribo 到着年月日	Nombre del equipo 機材名	Modelo 型式	Fabricante メーカー	Precio de compra 金額	Area que lo usa 使用部門	Lugar de instalación (Nombre del Laboratorio o Cátedra) 設置場所	Compra LOCAL o Tercer Pais 現地調達又は第三国調 達	Objetivo de uso 利用目的	Estado de FUNCIONAMIENTO O y USO (NOTA 1) 稼働・利用状況
1	sep-10	Biophotometro バイオシ取り込み装置	2381 Hamburg	Eppendorf	8200	Sala de PCR	Laboratorio Provelsur	Tercer Pais 第三国調達	Investigación 研究	
2	sep-10	Centrifuga 遠心機	5702R	Eppendorf	5500	Sala de IF	Laboratorio Provelsur	Tercer Pais 第三国調達	Investigación 研究	
3	sep-10	Centrifuga 遠心機	K2042	Centurion Scientific	3800	Sala de Serología	Laboratorio Provelsur	Tercer Pais 第三国調達	Investigación 研究	
4	sep-10	Agitador de baja velocidad (Orbital shakers) オービタル・シェーカー	OR100	Cole palmer	3000	Sala de Serología	Laboratorio Provelsur	Tercer Pais 第三国調達	Investigación 研究	
5	sep-10	pHmeter pHメーター	Orion 3 Star	Thermo	1124	Sala de PCR	Laboratorio Provelsur	Tercer Pais 第三国調達	Investigación 研究	
6	sep-10	Termo bloque (Multi Block Heaters)	2003-1	Lab-line	2050	Sala de PCR	Laboratorio Provelsur	Tercer Pais 第三国調達	Investigación 研究	
7	sep-10	Bomba de vacio プレート・ロッカー	Rocker 300	Today's	650	Sala de IF	Laboratorio Provelsur	Tercer Pais 第三国調達	Investigación 研究	
8	sep-10	Balanza Analitica ハランス	GR-200	AND	2500	Sala de PCR	Laboratorio Provelsur	Tercer Pais 第三国調達	Investigación 研究	
9	sep-10	Horno de esterilización (Ovens shelf) 乾熱滅菌器	FX-14-2	Shell Lab	5500	Sala de Esterilizacion	Laboratorio Provelsur	Tercer Pais 第三国調達	Investigación 研究	
10	sep-10	Bano maria (Water bath) 恒温槽	WB14M-2E	Shell Lab	1350	Sala de IF	Laboratorio Provelsur	Tercer Pais 第三国調達	Investigación 研究	
11	sep-10	Purificador de agua (Water System) 蒸留装置	Direct -G3	Millipore	5200	Sala de Esterilizacion	Laboratorio Provelsur	Tercer Pais 第三国調達	Investigación 研究	
12	sep-10	Autoclave electrico オートクレーブ	SE300	Yamato	7758	Sala de Esterilizacion	Laboratorio Provelsur	Tercer Pais 第三国調達	Investigación 研究	
13	sep-10	Incubador con CO2 炭酸ガスインキュベーター	3507-2	Shell Lab	7500	Sala de IF	Laboratorio Provelsur	Tercer Pais 第三国調達	Investigación 研究	
14	sep-10	Refrigerator de dos puertas (3) 二ドア冷蔵庫	DF45	Electrolux	2400	Sala de Serología	Laboratorio Provelsur	Local 現地調達	Investigación 研究	
15	sep-10	Congelador (Freezer) (2) 冷凍庫	H520	Electrolux	1400	Sala de PCR	Laboratorio Provelsur	Local 現地調達	Investigación 研究	
16	sep-10	Termociclador en Tiempo Real (PCR-RT) リアルタイムPCR	SC2500N1	CEPHID	35000	Sala de PCR	Laboratorio Provelsur	Tercer Pais 第三国調達	Investigación 研究	
17	sep-10	Lector de Microplacas ELISA	Multiskan Ex	Thermo	6372	Sala de Serología	Laboratorio Provelsur	Tercer Pais 第三国調達	Investigación 研究	
18	sep-10	Lavador de Microplacas プレートウォッシュ	Wellwash4 MK2	Thermo	4590	Sala de Serología	Laboratorio Provelsur	Tercer Pais 第三国調達	Investigación 研究	
19	sep-10	Lavador ultrasonico 超音波洗浄機	S70H	ELMA	1917	Sala de Esterilizacion	Laboratorio Provelsur	Tercer Pais 第三国調達	Investigación 研究	
20	sep-10	Laminar Flow Clase II A2 クリーンベンチ・クラス2	MINI-V	Teistar	5062,5	Sala de PCR	Laboratorio Provelsur	Tercer Pais 第三国調達	Investigación 研究	

21	sep-10	Laminar Flow Class II A2 クリーンベンチ・クラス2	FE-PCR-010	Misonix	5968	Sala de PCR	Laboratorio Proveisur	Tercer País 第三国調達	Investigación 研究
22	sep-10	Agitador de alta Velocidad (Mini Orbital Shakers) オービタル・シェーカー	4825-10E	Lab-line	2500	Sala de Serologia	Laboratorio Proveisur	Tercer País 第三国調達	Investigación 研究
23	ene-11	Microscopio de Immunofluorescencia 蛍光顕微鏡	Eclipse 50i	Nikon	15100	Sala de IFI	Laboratorio Proveisur	Tercer País 第三国調達	Investigación 研究
24	feb-12	Microcentrifuga para tubos de 0,5 - 2ml マイクロ遠心機	Legend Micro17R	Thermo	5900	Sala de PCR	Laboratorio Proveisur	Tercer País 第三国調達	Investigación 研究
25	nov-13	Centrifuga refrigerada, con cabezales para frascos de 200 - 250 ml (5000 - 10000 rpm) 冷却遠心機	3-18K	SIGMA	21008	Sala de Bacteriología	Laboratorio Proveisur	Local 現地調達	Investigación 研究
26	nov-13	Microscopio binocular 顕微鏡	CX21	Olympus	2326	Sala de Bacteriología	Laboratorio Proveisur	Local 現地調達	Investigación 研究
27	nov-13	Refrigerador de 2 puertas frio seco de 18 pies 2ドア冷蔵庫	DW 48X	Electrolux	875	Sala de Bacteriología	Laboratorio Proveisur	Local 現地調達	Investigación 研究
28	nov-13	Balanza electronica (rango aprox. 10 - 500 g) バランス	PL602	Mettler Toledo	1679	Sala de Bacteriología	Laboratorio Proveisur	Local 現地調達	Investigación 研究
29	nov-13	Destilador de Agua 10 L. 蒸留装置	Q341-210	Quimis	2571	Sala de Bacteriología	Laboratorio Proveisur	Local 現地調達	Investigación 研究
					#1	168801,5			
A: Uso frecuente 頻繁に利用 B: Uso normal 普通 C: Poco uso あまり利用されていない D: NO se usa 利用されていない									

NOTA 1:
注1

(4) Donación de equipos
Listado de equipos (Paraguay)
供与機材リスト(パラグアイ)

Item 番号	fecha de arribo a la institución 到着年月日	Nombres del equipo 機材名	Modelo 型式	Fabricante メーカー	Precio de compra 金額	Área que lo usa 使用部門	Lugar de instalación (Nombre del Laboratorio o Clédra) 設置場所	Compra LOCAL o Tercer País 現地調達又は第三国調達	Objetivo de uso 利用目的	Estado de FUNCIONAMIENTO y USO (NOTA 1) 稼働・利用状況
1	24/03/08	Limpador ultrasónico Marca Branson 超音波洗浄機	8010E-MT	Mexico	1773	Limpieza de Materiales	Lab. De diagnóstico de Enfermedades de las Aves	Charpenier Paraguay	Limpieza de tubos de ensayo, homéctis, etc 器具の洗浄	B
2	24/03/08	Microscopio Marca Leica 顕微鏡	DM1 1000 Serie: 2976597-112007	Germany	8525	Parasitología Biología	Lab. De diagnóstico de Enfermedades de las Aves	Charpenier Paraguay	Observación de microorganismos 微生物の観察	A
3	24/03/08	Camara Digital Marca Leica デジタルカメラ	D-LUX 3 Serie M3310683	Germany		Parasitología Biología	Lab. De diagnóstico de Enfermedades de las Aves	Charpenier Paraguay	captura de imágenes provenientes del microscopio 顕微鏡の取り込み	A
4	31/03/08	Sistema de Purificador de Agua Gehlha 蒸留装置	Purifier WIFI	Brazil	5700	PCR	Lab. De diagnóstico de Enfermedades de las Aves	Charpenier Paraguay	Obtención de agua purificada 蒸留水の製造	B
5	31/03/08	Estufa de Esterilización y secado NOVA ETICA 乾熱滅菌器	4003 ND 300*	Brazil	2300	Limpieza de Materiales	Lab. De diagnóstico de Enfermedades de las Aves	Charpenier Paraguay	Esterilización y secado de materiales. 滅菌	A
6	24/04/08	Autoclava Vertical Marca Phoenix ELISAリーダー	AV4137	Brazil	6000	Microbiología/PCR	Lab. De diagnóstico de Enfermedades de las Aves	Tercer País 第三国	Esterilización de materiales 滅菌	B
7	13/12/06	Lector Automático de placas de ELISA	DN6902G, Peilong	China	3950	Serología	Lab. De diagnóstico de Enfermedades de las Aves	IN STU S.A Paraguay	ELISA	B
8	13/12/06	Lavador Automático de placas de ELISA プレートウォッシュヤー	DNX3602, Peilong	China	2550	Serología	Lab. De diagnóstico de Enfermedades de las Aves	IN STU S.A Paraguay	ELISA	B
9	13/12/06	Incubadora (Estufa bacteriológica) インキュベーター	12-140E	USA	985	Microbiología	Lab. De diagnóstico de Enfermedades de las Aves	SUMI	Iniciar medios de cultivo, 培養	A
10	25/10/06	Freezer Vertical (frio seco) 冷凍庫	WVG200DEA	Brazil	498	Microbiología/PCR/ Serología	Lab. De diagnóstico de Enfermedades de las Aves	MEGA S.R.L Paraguay	conservación muestras, sueros y reactivos 検査材料・試薬の保存	A
11	25/10/06	Hidrotara vertical 冷蔵庫	VRM-400DEA	Brazil	798	Microbiología/PCR/ Serología	Lab. De diagnóstico de Enfermedades de las Aves	MEGA S.R.L Paraguay	conservación de medios de cultivos, reactivos. 検査材料・試薬の保存	A
12	25/10/06	Lamina Flow Class II A2 クリーンベンチ/クラス2	Eco Class II Type A2	Singapore	7280	Microbiología/PCR	Lab. De diagnóstico de Enfermedades de las Aves	Charpenier Paraguay	Processing of cellular cultures in condición de biosafety type 2P 検査材料の処理	B
13	07/09/2011	Ph metro OAKTON pHメーター	pH 11	USA	518	Microbiología/PCR	Lab. De diagnóstico de Enfermedades de las Aves	IN STU S.A Paraguay	Medir el nivel de pH de medios y reactivos pHの測定	B
14	20/02/09	DIGIDOC-IT IMAGING SYSTEM イメージ取り込み装置	DYP	USA	3555	PCR	Lab. De diagnóstico de Enfermedades de las Aves	Tercer País 第三国	Adquisición y análisis de imágenes 画像の取り込み	B
15	20/02/09	TRANSLUMINATOR トランスイルミネーター	M-20	USA	1428	PCR	Lab. De diagnóstico de Enfermedades de las Aves	Tercer País 第三国	PCR	B
16	23/02/09	C1000 THERMAL CYLINDER WITH 96 サームルサイクル	C1000	Singapore	9872	PCR	Lab. De diagnóstico de Enfermedades de las Aves	Tercer País 第三国	PCR	B
17	04/04/2013	Homogenizador microbiológico de muestras de alimentos ホモジナイザー	Easy Mix	Sin procedencia	2500	Microbiología	Lab de Microbiología	Tercer País 第三国	homogenizador de muestras 検査材料の処理	B
					US\$56.523					
								NOTA 1:	A: Uso frecuente 頻繁に利用 B: Uso normal 普通	
									註1	

(4) Donación de equipos
 Listado de equipos (Uruguay)
 供与機材リスト(ウルグアイ)

Item 番号	fecha de arribo 到着年月日	Nombre del equipo 機材名	Modelo 型式	Fabricante メーカー	Precio de compra 金額	Area que lo usa 使用部門	Lugar de instalación (Nombre del Laboratorio o Cátedra) 設置場所	Compra LOCAL o Tercer País 現地調達又は第三国調 送	Objetivo de uso 利用目的	Estado de FUNCIONAMIENTO O Y USO (NOTA 1) 稼働・利用状況
1	2007年	Laminar Flow Clase II A2 クリーンベンチ・クラス2	1285	Thermo Forma	8.205	Cell culture	Lab Microbiología	Local 現地調達	Processing of cellular cultures in conditions of biosecurity Type 2P 検査材料の処理	A
2	2007年	Laminar Flow Clase II A2 クリーンベンチ・クラス2	1287	Thermo Forma	9.732	Virology	Lab Microbiología	Local 現地調達	Processing of cellular cultures in conditions of biosecurity Type 2P 検査材料の処理	B
3	2007年	Laminar Flow Clase II A2 クリーンベンチ・クラス2	1287	Thermo Forma	9.732	Bacteriology	Lab Microbiología	Local 現地調達	Processing of cellular cultures in conditions of biosecurity Type 2P 検査材料の処理	A
4	2007年	Centrifuga 遠心器	CL17	IEC	2.450	Microbiological department	Lab Microbiología	Local 現地調達	Processing of biological materials 検査材料の処理	A
5	2007年	Incubador con CO2 炭酸ガスインキュベーター	3111	Thermo Forma	6.585	Cell culture	Lab Microbiología	Local 現地調達	Cell culture 細胞培養	A
6	2007年	Microcentrifuga para tubos de 0,5 - 2ml マイクロ遠心器	CL 30	Thermo Forma	5.710	Molecular laboratory	Lab Microbiología	Local 現地調達	Processing of materials for molecular biology 検査材料の処理	A
7	2007年	Autoclave eléctrico オートクレーブ	Q290 P23	Quimis	3.500	Stenilization medium	Lab Microbiología	Local 現地調達	Estenilizacion de materiales 滅菌	A
8	2007年	Ultrapure water system 高品質水供給システム	185	Millipore	3.255	Stenilization medium	Lab Microbiología	Local 現地調達	Obtencion de agua purificada	B
9	2007年	Polarizing Microscope 位相差顕微鏡	BX41	Olympus	10.645	Anatomy pathology	Lab Anatomia Patologica	Local 現地調達	Observation of microorganisms and histological cuts	A
10	2007年	Inverted microscope 倒立顕微鏡	CX41	Olympus	5.715	Cell culture	Lab Microbiología	Local 現地調達	Cell culture 細胞培養	A
11	2007年	Inverted microscope 倒立顕微鏡	CX41	Olympus	5.715	Parasitology	Lab Parasitologia	Local 現地調達	Cell culture 細胞培養	A
12	2007年	Microscopio binocular 顕微鏡	SZ51	Olympus	1.725	Parasitology	Lab Parasitologia	Local 現地調達	Observacion de microorganismos 微生物の観察	A
13	2007年	Digital video camera for microscope 顕微鏡用ビデオカメラ	VF	Evolution	5.955	Anatomy pathology	Lab Anatomia Patologica	Local 現地調達	captura de imagenes provenientes del microscopio	C
14	2007年	Thermal Cycler サーマルサイクラー	Palm Cycler	Corbett	5.850	Molecular technical laboratory	Lab Microbiología	Local 現地調達	PCR	A
15	2008年	Centrifuga 遠心器	Q227216	Tekscd	1.623	Campo ExpNº2	Campo ExpNº2	Local 現地調達	Processing of biological materials 検査材料の処理	B

16	2008年	Centrifuga 遠心器	Lugimac LC-15	Briden	1,468	Campo Exp N°1	Campo Exp N°1	Local 現地調達	Processing of biological materials 検査材料の処理	B
17	2007年	Horno de esterilización (Ovens shell) 乾熱滅菌器	Mennert SE400	Eleco	1,543 N°1	Campo Exp. N°1	Campo Exp. N°1	Local 現地調達	Esterilización y secado de materiales. 滅菌	B
18	2007年	Balanza electronica ハランス	Sartorius TE412	Eleco	1,107	Campo Exp. N°2	Campo Exp. N°2	Local 現地調達	計量	B
19	2007年	Freezer refrigerator 冷凍冷蔵庫	Consul CRD34	Punto luz	446	Campo Exp. N°2	Campo Exp. N°2	Local 現地調達	conservacion muestras, sueros y reactivos 検査材料・試薬の保存	B
20	2007年	Freezer refrigerator 冷凍冷蔵庫	Consul CRD34	Punto luz	446	Campo Exp N°1	Campo Exp N°1	Local 現地調達	sueros y reactivos 検査材料・試薬の保存	B
21	2008年	Congelador (Freezer) 冷凍庫	Consul CHB42	Punto luz	639	Poultry keeping	Lab Avicultura	Local 現地調達	conservacion muestras, sueros y reactivos 検査材料・試薬の保存	B
22	2008年	Microscopio binocular 顕微鏡	Antscope USA T400	Imagen y Vision	1,092	Campo Exp N°1	Campo Exp N°1	Local 現地調達	Observacion de microorganismos 微生物の観察	B
23	2008年	Microscopio binocular 顕微鏡	Antscope USA T400	Imagen y Vision	1,092	Campo Exp N°2	Campo Exp N°2	Local 現地調達	Observacion de microorganismos 微生物の観察	B
24	2008年度	Lavador de Microplacas プレートウォッシャー	同上	Cole-Palmer	855	Avicultura	Lab Avicultura	Local 現地調達	ELISA	A
25	2008年度	Orbital mixer for microplates (code: 51402-15) プレート・ミキサー	同上	Cole-Palmer	1,210	Microbiologia	Lab Microbiologia	Local 現地調達	ELISA	A
26	2008年度	Baño maria (Water bath) 恒温槽	同上	Cole-Palmer	2,540	Microbiologia	Lab Microbiologia	Local 現地調達	Processing of biological materials 検査材料の処理	A
27	2009年度	Lavador de Microplacas プレートウォッシャー	同上	Thermo Labsystem	4,200	Avicultura	Lab Avicultura	Local 現地調達	ELISA	A
28	2008年度	Congelador (Freezer) 冷凍庫	同上	Consul	844	Microbiologia	Lab Microbiologia	Local 現地調達	Conservación de muestras y reactivos 検査材料等の冷凍保存	A
29	2008年度	Congelador (Freezer) 冷凍庫	同上	Consul	759	Microbiologia	Lab Microbiologia	Local 現地調達	Conservación de muestras y reactivos 検査材料等の冷凍保存	A
30	2008年度	Freezer refrigerator 冷凍冷蔵庫	同上	Consul	729	Microbiologia	Lab Microbiologia	Local 現地調達	Conservación de muestras y reactivos 検査材料等の冷凍保存	A
31	2008年度	Freezer refrigerator 冷凍冷蔵庫	同上	Consul	728	Microbiologia	Lab Microbiologia	Local 現地調達	Conservación de muestras y reactivos 検査材料等の冷凍保存	A
32	2009年度	Inverted microscope 倒立顕微鏡	CRD	Punto luz	643	Microbiologia	Lab Microbiologia	Local 現地調達	Cell cultures 細胞培養	A
					U\$S	100,878				